中村町遺跡 4

— 中村町遺跡第 5 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書

第 1159 集

２０１２

福岡市教育委員会

『中村町遺跡4』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1159集

頁	行	誤	正
6	15	縄文土器は確認できなかった。	遺物は確認できなかった。
10	32	3　下層の遺構と遺物	3　黄灰褐色シルト層下層の遺構と遺物
38	8	「クレスト技法」の手法	「クレスト技法」的手法
38	11	指摘される。	指摘できる。
38	13	368は細石刃核の母核	367は細石刃核の母核
38	13	369、370は不整形ながら	368、369は不整形ながら
38	15	371～373は細石刃状の	372～374は細石刃状の
38	16	371、372は細石刃核打面形成時	370、371は細石刃核打面形成時
38	19行の最後に追加		376は細石刃である。
41	9	XXXXから出土した縄文時代X期の	この2カ所から出土した縄文時代前～中期の

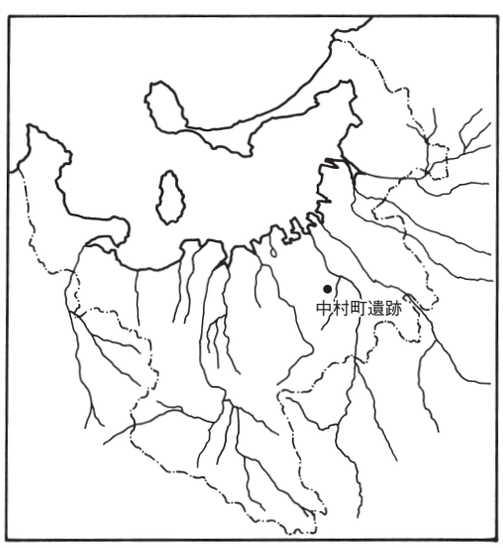
NO.78903

中村町遺跡 4

— 中村町遺跡第５次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書

第1159集



遺跡略号　NMM-５

調査番号　１０１０

２０１２

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する南区の中村町遺跡の発掘調査報告書は共同住宅の新築に伴う調査成果についての記録です。この調査では上面で弥生時代後期から古代の集落が出土した他、下層から縄文時代前期の包含層から多くの土器や石器、植物遺体が出土しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2012年３月16日

福岡市教育委員会
教育長　酒 井　龍 彦

例　　言

□本報告書は南区野間３丁目160番３の共同住宅新築に伴って2010年５月24日から８月20日にかけて発掘調査を行った中村町遺跡第５次調査の報告書である。

□本書に収録した発掘調査は福岡市教育委員会の屋山洋が担当した。

□遺構の実測と写真撮影は屋山が、遺物の実測は吉留秀敏・板倉有大・濱石正子・屋山が、製図は熊谷幸重・屋山が担当した。

□本書で用いた方位は磁北である。

□本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

□植物遺存体の分析については株式会社パレオ・ラボの佐々木由香氏の協力を得た。

遺跡調査番号	１０１０	遺　跡　番　号	０１６７	分布地図番号	高宮51
調査地地番	福岡市南区野間３丁目160番３			調　査　原　因	共同住宅建設
開　発　面　積	650㎡	調　査　面　積	650㎡		
調　査　期　間	20100524～20100820			担　当　者	屋　山　　洋

本文目次

Ⅰ　はじめに …… 1
Ⅱ　調査の記録 …… 6
　1　調査の経過と概要 …… 6
　2　灰黄褐色シルト層上面の遺構と遺物 …… 6
　　1）溝 …… 6
　　2）掘立柱建物 …… 7
　　3）土坑 …… 10
　　4）包含層 …… 10
　3　灰黄褐色シルト層下層の遺構と遺物 …… 10
　　1）河川 …… 10
　　2）土器 …… 18
　　3）石器 …… 29
　　4）植物遺存体 …… 30
　4　小結 …… 31
Ⅲ　中村町遺跡第５次調査黒曜石製石器について　板倉　有大 …… 33
Ⅳ　中村町遺跡第５次調査出土旧石器遺物について　吉留　秀敏 …… 38
Ⅴ　中村町遺跡第５次調査出土植物遺存体について　佐々木由香　他 …… 41
　1　中村町第５次調査出土葉の同定 …… 41
　2　放射性炭素年代測定 …… 44
　3　中村町遺跡第５次調査出土編組製品の素材同定 …… 46

挿図目次

第１図　周辺遺跡分布図 …… 2
第２図　調査地点位置図 …… 3
第３図　５次調査周辺図 …… 3
第４図　調査範囲図 …… 4
第５図　下層河川位置図 …… 4
第６図　第１面遺構配置図 …… 5
第７図　第１面溝土層実測図 …… 7
第８図　掘立柱建物実測図 …… 8
第９図　土坑実測図 …… 9
第10図　縄文河川出土遺物実測図１ …… 11
第11図　縄文河川出土遺物実測図２ …… 12
第12図　縄文河川出土遺物実測図３ …… 13
第13図　縄文河川出土遺物実測図４ …… 14
第14図　縄文河川出土遺物実測図５ …… 15
第15図　縄文河川出土遺物実測図６ …… 16

第16図　縄文河川出土遺物実測図７ …… 17
第17図　縄文河川出土遺物実測図８ …… 18
第18図　縄文河川出土遺物実測図９ …… 19
第19図　縄文河川出土遺物実測図10 …… 20
第20図　縄文河川出土遺物実測図11 …… 21
第21図　縄文河川出土遺物実測図12 …… 22
第22図　縄文河川出土遺物実測図13 …… 23
第23図　縄文河川出土遺物実測図14 …… 24
第24図　縄文河川出土遺物実測図15 …… 25
第25図　縄文河川出土遺物実測図16 …… 26
第26図　縄文河川出土遺物実測図17 …… 27
第27図　縄文河川出土遺物実測図18 …… 28
第28図　縄文河川出土遺物実測図19 …… 29
第29図　黒曜石石器群の最大長・最大幅 …… 34
第30図　縄文河川出土遺物実測図20(1/1) …… 34
第31図　縄文河川出土遺物実測図21(1/1) …… 35
第32図　旧石器遺物実測図１(1/1) …… 39
第33図　旧石器遺物実測図２(1/1) …… 40

表　目　次

表１　石器分類表１(サヌカイト・安山岩製) …… 30
表２　石器分類表２(その他石材) …… 31
表３　遺構・遺物一覧 …… 31
表４　黒曜石石器群の器種構成 …… 33
表５　下層黒曜石石器群計測表 …… 36

図版目次

図版１　１.Ⅰ区　２.Ⅱ区
図版２　１.Ⅰ区包含層除去状況　２.Ⅰ区包含層除去状況　３.SD1003
４.SD1029　５.SD1002・1003　６.SD1041　７.Ⅱ区　８.Ⅲ区
図版３　１.SD1003　EF間ベルト　２.SD1029　AB間ベルト　３.SD1029　BC間ベルト
４.SD1029　DE間ベルト　５.SD1041土層　７.SD1002・1003検出状況
７.SD1002土層　８.SD1003　CD間ベルト
図版４　１.SK1053　２.SK1053土層　３.SD1002遺物出土状況　４.SK1018
５.植物遺存体出土状況１　６.植物遺存体出土状況２　７.植物遺存体出土状況３
８.植物遺存体出土状況４.
図版５　１.縄文河川遺物出土状況　２.縄文河川西端土層　３.縄文河川　４.縄文河川切り合い
５.縄文河川西端土層　６.Aトレンチ土層　７.Cトレンチ土層　８.調査区南壁土層

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経過

平成22年（2010年）３月25日付けで中村建設株式会社より福岡市教育委員会埋蔵文化財第１課に福岡市南区野間３丁目160番３における埋蔵文化財の有無についての照会（事前審査番号21－２－909）が提出された。申請地は平成21年２月25日の試掘調査（事前審査番号　20－１－118）により表土下80㎝に包含層が存在することが判明しており、今回の共同住宅の建築計画と照らし合わせると遺跡の破壊が避けられないことが判明した。そのため工事に先立って埋蔵文化財の発掘調査を行い、記録保存を図ることで協議が成立した。以上の協議を受けて平成22年（2010年）５月24日から８月20日の期間で発掘調査を行った。

調査期間中は原因者及び関係者各位から休憩所の借り上げや水道の設置、廃土の場外搬出などで多大なご協力を得た。記して感謝したい。

2　調査の組織

調査主体
教育委員会文化財部埋蔵文化財第２課
埋蔵文化財第２課課長　　田中壽夫
　　調査第１係係長　　米倉秀紀
　　調査庶務　　井上幸江
　　調査担当　　屋山　洋
作 業 員　岡部安正　片岡武俊　河原明子　桑原美津子　鈴木誠　中村健三　夏秋弘子　平田周二
　　吹春憲治　前田佳代　御手洗史子
整理作業　熊谷幸重　藤野洋子

3　遺跡の立地と環境

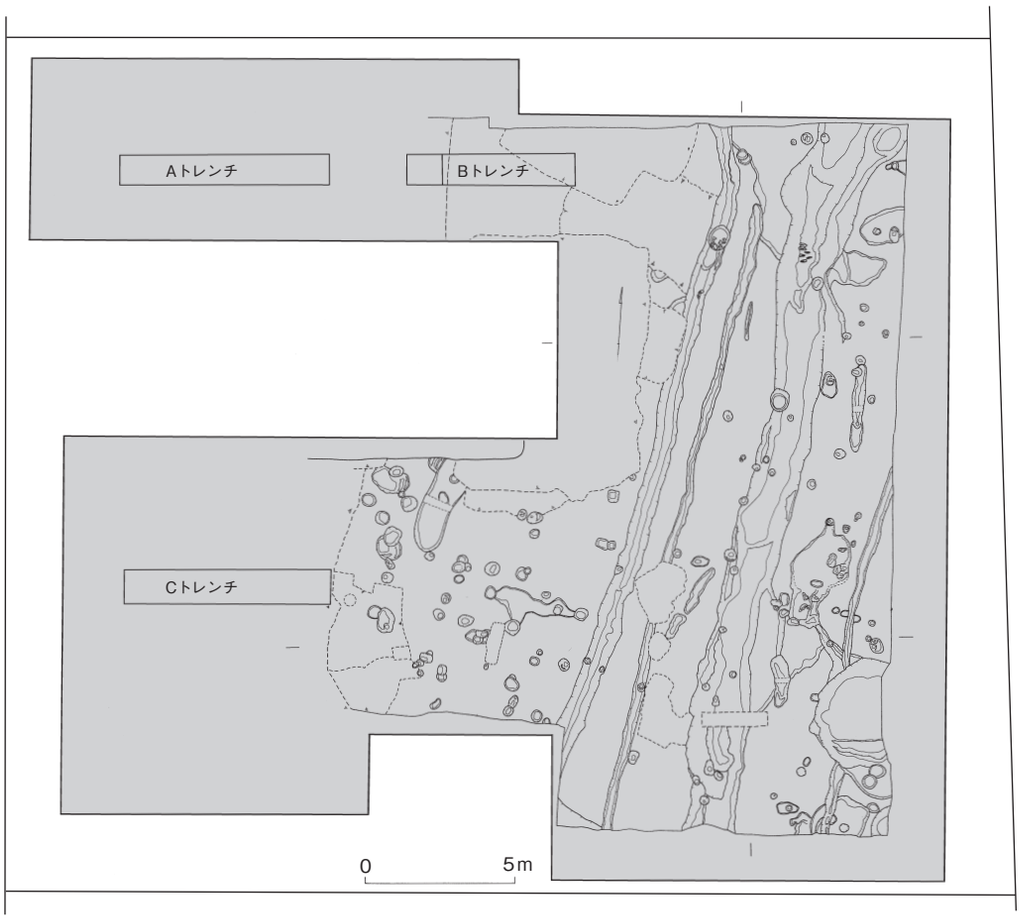
中村町遺跡は片縄山から北東に延びて福岡城に達する第３紀層を基盤とした丘陵上に位置する。この丘陵は東の那珂川と西の樋井川の流域を分ける丘陵で、現在は多くの谷の解析により分断された丘陵群となっている。中村町遺跡はこの片縄山と福岡城の間のほぼ中間地点にあたり、丘陵西側端部に位置する。丘陵東端には警固断層が存在しており、断層による地盤沈下と那珂川によって堆積した土砂によって現在丘陵と那珂川の間には幅２㎞弱の平地が広がる。この平地が形成された時期はよく判らないが、ある時期までは海が入り込んで入り江となっていたとの話があり、西鉄大橋駅東側の「塩原」の地名は付近にあった塩田の名残との説も存在する。少なくとも縄文海進が最も進んだ縄文前期には那珂川流路に沿って海が入り込んでいた可能性があり、その場合中村町遺跡の北側に内湾が広がっていた可能性がある。また、古代になると丘陵東端に鴻臚館と大宰府を結ぶ官道の１つである「西門ルート」が築かれるが、中村町遺跡の北側を通る通称「大池通り」は中村町遺跡がのる丘陵と北側の鴻巣山の間の谷部を通る東西方向の道で、古来から那珂川流域と樋井川流域を結ぶ交通路として利用されていた可能性があるり、「西門ルート」との分岐点に位置し交通の要所であったと考えられることは、遺跡内で確認されている古代の遺構の性格を考える上で重要なポイントであると思われる。

1　中村町遺跡
2　大橋Ｅ遺跡
3　福岡城跡
4　博多遺跡群
5　堅粕遺跡
6　箱崎遺跡
7　吉塚遺跡
8　榎田遺跡
9　上牟田遺跡
10　雀居遺跡
11　山王遺跡
12　比恵遺跡
13　那珂遺跡
14　東那珂遺跡
15　那珂君休遺跡
16　板付遺跡
17　諸岡Ａ遺跡
18　五十川遺跡
19　井尻Ａ遺跡
20　井尻Ｂ遺跡
21　諸岡Ｂ遺跡
22　笹岡遺跡
23　三筑遺跡
24　井尻Ｃ遺跡
25　横手遺跡
26　寺島遺跡
27　日佐遺跡
28　上日佐遺跡
29　三宅Ｃ遺跡
30　三宅Ｂ遺跡
31　野多目Ａ遺跡
32　野多目Ｂ遺跡
33　野多目Ｃ遺跡
34　野間Ｂ遺跡
35　若久Ａ遺跡
36　寺塚Ａ古跡群
37　長尾遺跡
38　樋井川Ｂ遺跡
39　宝台遺跡
40　篠栗遺跡

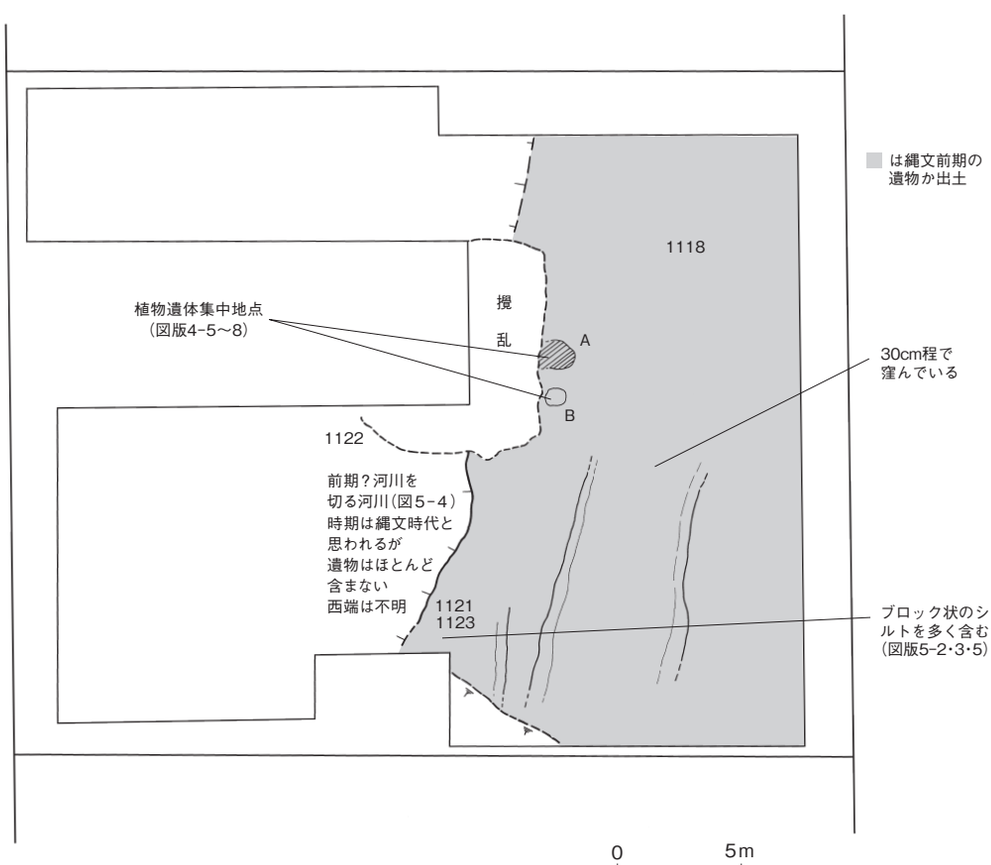
第１図　周辺遺跡分布図（1/50,000）

第２図 調査地点位置図（1/6,000）

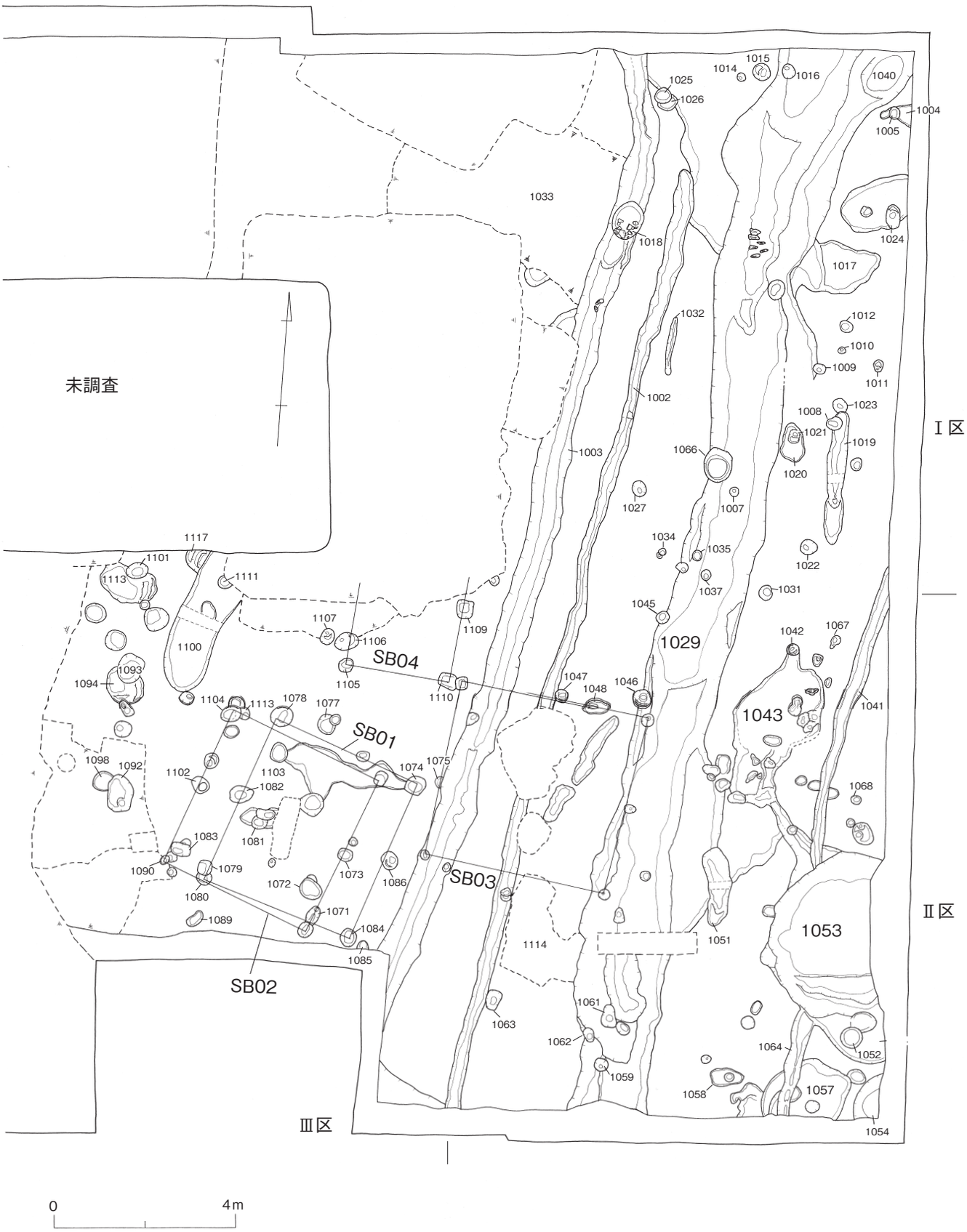
第３図　５次調査周辺図（1/1,000）



第４図　調査範囲図（1/250）



第５図　下層河川位置図（1/300）



0　　4m

第６図　第１面遺構配置図（1/120）

Ⅱ．調査の記録

1　調査の経過と概要

本調査区は中村町遺跡がのる丘陵の東側に隣接する谷部に位置する。もともと中村町遺跡の隣接地で包蔵地外であったが、当地での申請（20－１－118）に伴い2009年２月に行われた試掘調査で、現地表面から100㎝下の灰黄褐色シルト層（以下シルト層とする）上面で弥生時代～古代の包含層と柱穴状の掘り込みが確認されたため、包蔵地が東側に拡張され中村町遺跡に含まれることとなった。

今回の調査では地表面から遺構面までの深さが１ｍと深く、多量の廃土が出ることから遺構面までの表土を原因者側が場外搬出することとなり、表土の鋤取りを５月19日から21日までの３日間で行なった。その後５月24日に発掘機材の搬入を行った後、５月26日に小型の重機を入れ、調査区中央から西側の３カ所にトレンチを設定して包含層下の土層と遺物出土状況の確認を行った。その結果、シルト層は調査区中央では安定しており厚さ60㎝程堆積しているものの、中央から西側では不安定で急に薄くなり、西端から５～７ｍ地点ではシルトの厚さは５㎝前後になる。また西端部では新しい流路に削られ、シルト層及び遺構等は確認できなかった。また、西側のシルト層下は粗砂層となっており、中央の縄文土器を含む砂礫層とは様相が異なる。トレンチ調査は縄文土器包含層に気づく以前ではあるが、重機で掘りあげた土を観察した範囲では縄文土器は確認できなかった。

第１面の調査は５月27日から開始し、シルト層上に堆積した包含層を掘り上げ、その後シルト層上面の遺構検出を行うと共に調査区北端部にトレンチを設定して手掘りで掘り下げたところ、シルト層の上層部で若干の弥生土器と思われる土器小片が出土した他、シルト層下の砂礫層から縄文時代前期の轟B式土器と曽畑式土器が多数出土した。縄文土器を含む層の広がりを調べるため調査区中央部と南端にもトレンチを設定して掘り下げたところ、同様に土器が出土したため全面に包含層があることが判明した。予定していた遺構面から１ｍ以上掘り下げる必要が出てきたことから、調査工程を見直してシルト層上面をⅠ～Ⅲ区に分けて、それぞれ上面の調査が終了後、シルト層を除去（一部重機を使用したが、ほぼ手掘りによる掘り下げ）後、下層の砂礫層の掘り下げを行った。掘り下げは８月12日に終了、13日に機材の撤去を行い、その後は室見整理室で出土した木の葉の分類等を行った。

2　灰黄褐色シルト層上面の遺構と遺物

（出土遺物の詳細はP31の遺構・遺物一覧表に記載）

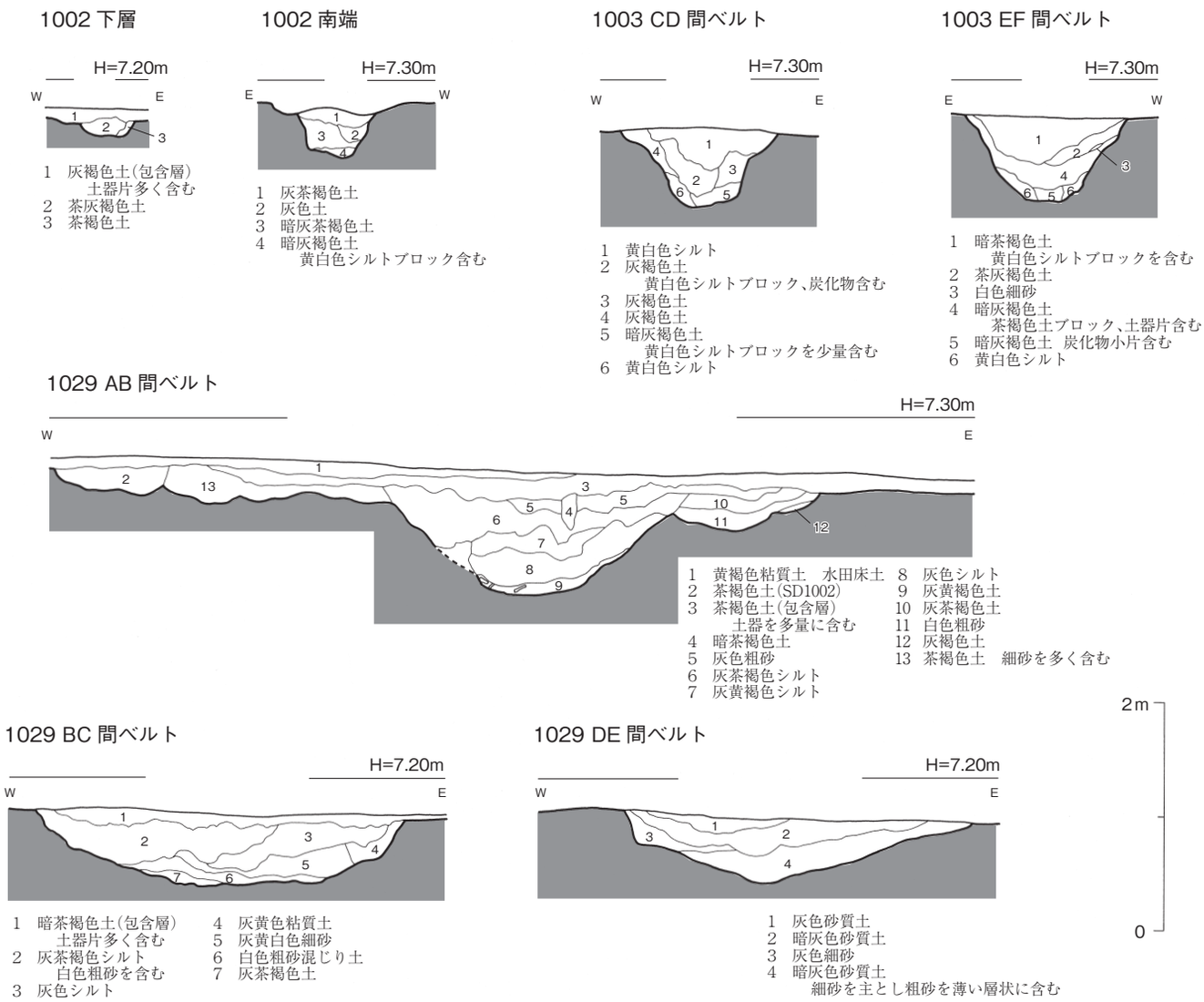
1）溝

SD1002（第７図）　調査区東側に位置するほぼ直線の溝で、南側は調査区外に延び、北側は北端部で立ち上がる。調査区内で長さ26m、幅30～40㎝、深さ５～10㎝を測り、主軸はN-12°-Eを測る。断面は逆台形を呈し、埋土はやや灰色を帯びた茶褐色を呈す。遺物は弥生時代後期～古墳時代前期を主とするが、須恵器大甕片が出土しており、古墳時代後期以降である。

SD1003（第７図）　SD1002の西側に位置し、SK1018に切られる。調査区内で長さ27m、幅70～80㎝、深さ約30㎝を測り、主軸はN-12°-Eを測る。断面は逆台形を呈し、埋土は複雑で観察場所ごとに異なる。一部白色砂を含み流水の痕跡がみられる他、黄白色シルトブロックも多く含む。調査区北端で西側に曲がる。遺物は弥生時代から古墳時代前期の遺物が多量に出土したが、須恵器高台付坏や土師椀が数点出土しており、８世紀以降の古代に属すると思われる。

SD1019（第６図）　調査区東端中央に位置する。長さ2.9m、幅42㎝、深さ14㎝を測り、主軸はほぼ南北である。９点出土遺物のうち１点が８世紀後半の須恵器高台付坏で、他は素焼きの小片である。

SD1029（第７図）　SD1002の東側に位置する南北方向の溝で、両端とも調査区外に延びる。若干蛇行しており、調査区内で長さ30m、幅1.5～2.5m、深さ50㎝を測る。主軸はN-10°-E前後で、断面は逆三



第７図　第１面溝土層実測図（1/60）

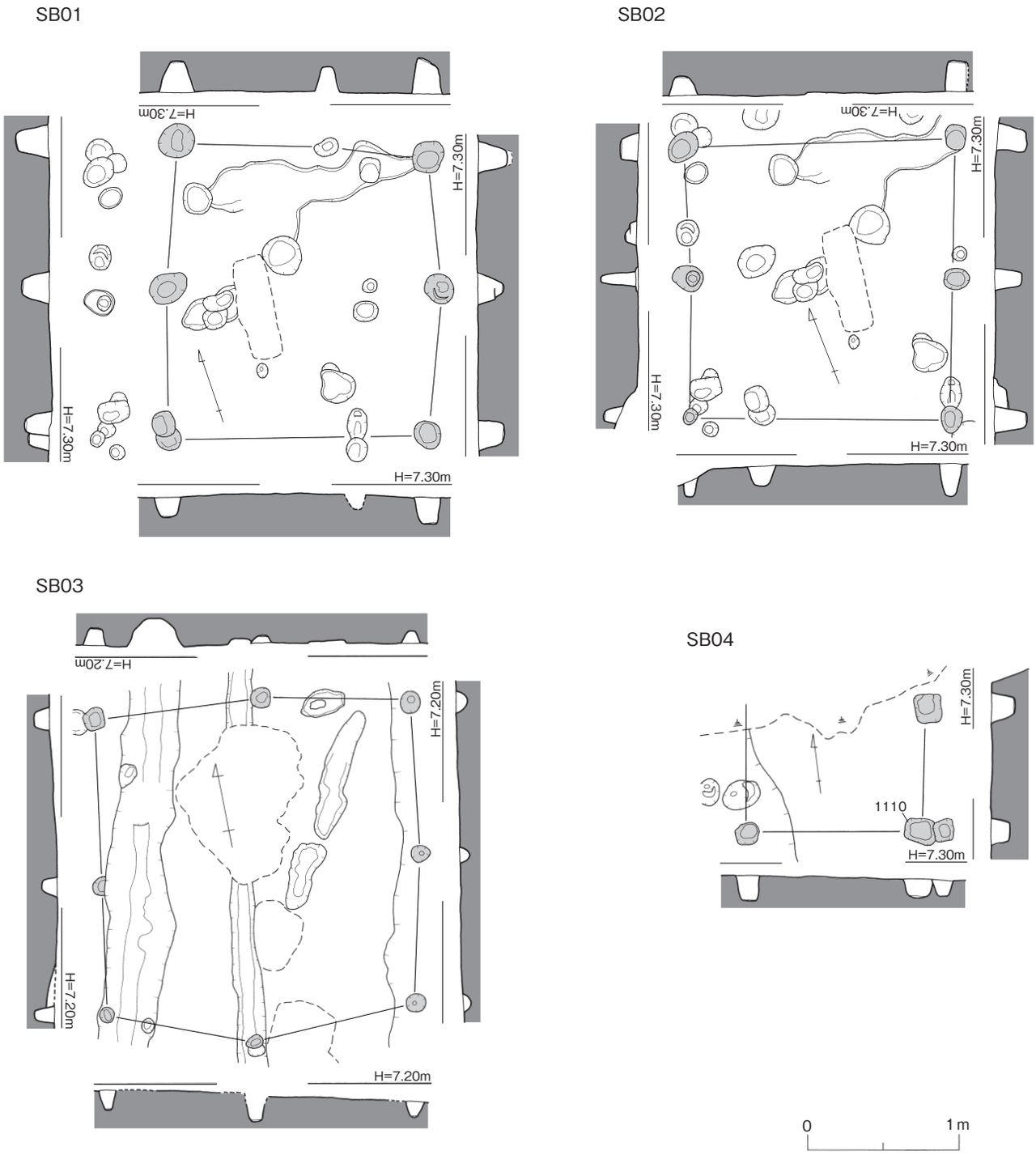
角形を呈す。埋土は灰褐色土と茶褐色土を主とするが、砂層を含むなど一時的に流水があった痕跡がみられる。遺物は弥生時代後期～古墳時代前期が主で須恵器坏蓋、須恵器高台付坏を数点含む。SB03との切り合いから８世紀以降の古代に属すると考えられる。

SD1032（第６図）　SD1002の東側に位置する南北方向の溝で長さ1.3㎝、幅15㎝、深さ４㎝を測る。遺物は時期不明の土器小片が９点出土した。

SD1041（第６図）　調査区の東南隅に位置する南北方向の溝で、南半分はやや蛇行する。SK1053の南側に延びるSD1061と同一の溝と思われる。調査区内で長さ15m、幅40㎝、深さ30㎝を測る。主軸はN-12°-EでSD1002に平行する。断面はU字形を呈し、埋土はやや汚れた黄灰褐色シルトである。黄白色シルトブロックを少量含む。遺物は時期不明の小片が17点出土した。

２）掘立柱建物　調査区中央付近で４棟の掘立柱建物を検出した。SB01・02以外は若干主軸がズレるものの、いずれも溝に沿う印象を受ける。遺物は溝や土坑と同様に弥生時代中期～古墳時代前期の遺物が多いものの時期的には古代以降に属すると思われる。

SB01（第８図）　調査区中央南寄りに位置する１×２間の建物で主軸をN-20°-Eにとる。柱穴の平面形はややいびつな円形もしくは楕円形で径33～52㎝、深さ33～47㎝を測る。柱痕跡は確認できなかった。梁間は全長3.5m、桁行きは全長3.7mを測る。桁行きの柱間は1.7～2.0mを測る。梁間中央の柱穴が抜けている印象があり、調査時に精査したが柱穴は検出できなかった。遺物は各柱穴から出土したが、

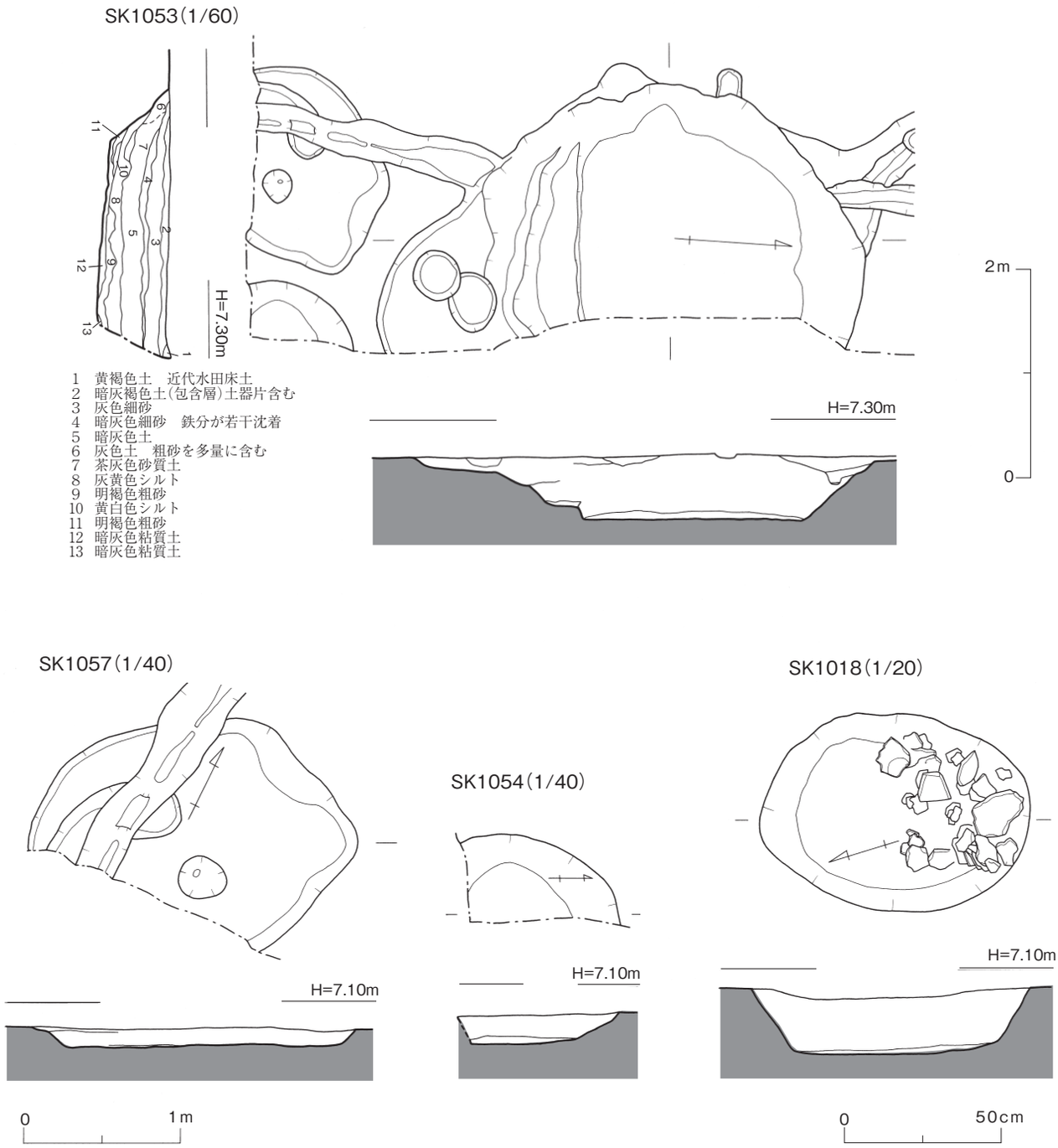


第８図　掘立柱建物実測図（1/40）

時期の分かる遺物は弥生時代～古墳時代前期である。

SB02（第８図）　SB01とほぼ同位置、同規模の建物で主軸もN-21°-Eとほぼ同じなため建て替えと思われるが、柱穴の切り合いがないため前後関係は不明である。柱穴の平面形は楕円もしくは隅丸長方形で径は22～44㎝、深さ23～48㎝を測る。柱痕跡は確認できなかった。梁間は全長3.6m、桁行きは全長3.7m、桁行きの柱間は1.7～1.9mを測る。遺物はSP1073・1090・1104・1112から出土したが、時期の分かる遺物は弥生時代中期～古墳時代前期である。

SB03（第８図）　SB01・02の東側に位置する２×２間の建物でSB04を切る。主軸をN-12°-Eにとる。



第９図　土坑実測図（1/20・1/40・1/60）

建物中央部に攪乱があり、本来は総柱建物である可能性もある。建物西辺をSD1003に切られ、東辺がSD1029を切る。東西４m、南北４mとほぼ正方形の建物である。柱穴の平面形は楕円もしくは方形で径は21～27㎝、深さ９～27㎝を測る。柱痕跡は確認できなかった。柱間は1.7～2.2mを測る。遺物はSP1042・1049・1075・1115・1116から出土したが、時期の分かる遺物は1042から古墳時代後期から古代と思われる須恵器片が出土した。

SB04（第８図） SB01・02の北側に位置する。遺構の北側を攪乱に切られ、全容は不明である。主軸はN-８°-Eを測る。柱穴の平面形は方形とやや隅丸の長方形で径30～40㎝、深さ25～33㎝を測る。柱痕跡は確認できなかった。柱間は南北1.7m、東西2.3mを測る。遺物は各柱穴から出土したが、建物に伴う可能性がある遺物はSP1110から古代と思われる須恵器片が出土した。

3）土坑

SK1018（第９図）　調査区の北端寄りに位置し、SD1003を切る。平面は楕円形を呈し、長径85㎝、短径63㎝、深さ21㎝を測る。主軸はN-18°-Eを測る。断面は浅皿状で、埋土は灰茶褐色を呈す。遺構の南側上面から土器片がまとまって出土した。遺物の時期は弥生時代後期から古墳時代前期であるが、７～８世紀のSD1003を切ることから８世紀以降である。

SK1043（第６図）　調査区の東南側に位置する南北に長い不整形の土坑である。南北3.2m、東西1.8m、深さ７㎝を測る。SK1053と溝でつながっているが、更に北側に伸びてSD1019につながっていた可能性がある。埋土から弥生時代後期～古墳時代前期の土器片が出土したが1053との関連から古墳時代後期以降である。

SK1053（第９図）　調査区の東南隅に位置する。遺構の東端が調査区外に延びる。南北径3.6m、深さ62㎝を測る。覆土は水平な堆積で全体に粗砂を多く含んでおり、流水により砂が流入したと思われる。貯水等に使用された土坑の可能性がある。遺物は弥生時代後期の他に古墳時代後期の須恵器坏蓋と高坏片が出土した。SD1041も時期不明であるが、SD1002と主軸が同じであることから、古墳時代後期以降の可能性が高い。そのSD1041を切ることから古墳時代後期～古代と思われる。

SK1054（第９図）　調査区東南隅に位置する。遺構の大半が調査区外である。現状で南北１m、東西56㎝、深さ19㎝を測る。埋土は淡褐色粗砂で灰黄褐色シルトブロックを含む。河川による堆積と思われる。遺物は７～８世紀の須恵器坏が出土した。

SK1057（第９図）　SK1054の西側に位置し、SD1064に切られる。遺構の南半が調査区外に延びるため全容は不明であるが、いびつな楕円形を呈す。現状で南北1.3m、東西1.8m、深さ20㎝を測る。遺物は時期不明の土器片が６点出土した。

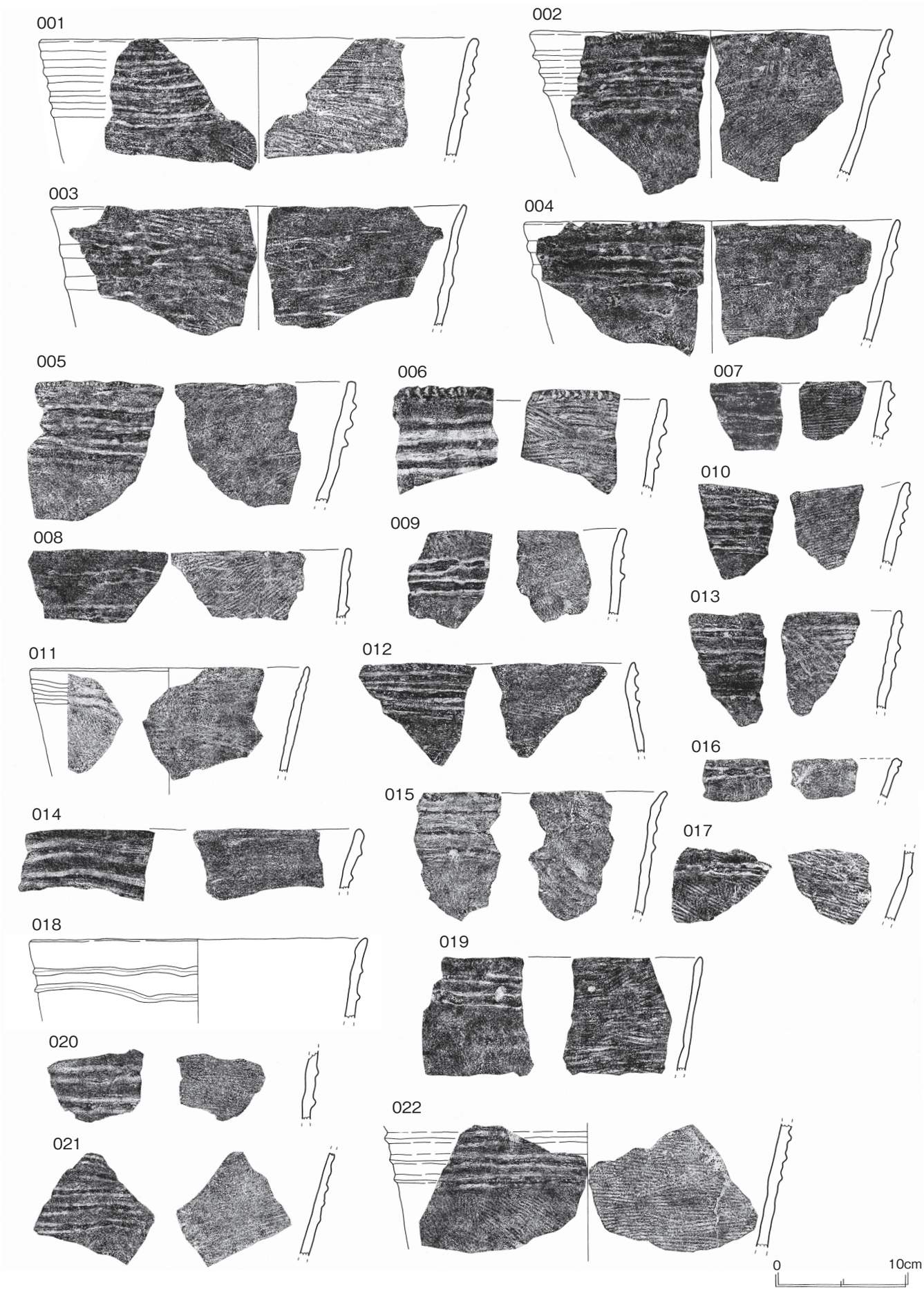
4）包含層

黄褐色シルト層直上にのる暗茶褐色土中から多くの遺物が出土した。暗茶褐色土は調査区中央から西側にかけてのⅠ・Ⅲ区に広がり、特にSD1029は埋没する直前に包含層が堆積したため、溝の最上層は暗茶褐色土が流入していた。包含層に含まれる遺物は弥生時代後期後半～古墳時代前期を主とするが、その他に旧石器、縄文時代前期、弥生時代中期～後期前半、古墳時代後期～古代（８世紀）と広範な時期の遺物を含んでおり、また１点ずつではあるが白磁皿Ⅸ類（14世紀）、染付片（中世～近世）も出土している。時期の異なる遺物が混じって出土していることや、含まれる遺物の時期が西側丘陵上で出土した遺構の時期に似るため、SD1209の埋没時期に西側丘陵部の土を削って整地を行い、その際に入り込んだ可能性がある。また、旧石器や縄文時代前期の遺物など現在丘陵上で出土していない遺物も出土しているが、本来は両時期の集落が丘陵上に存在した可能性が考えられる。

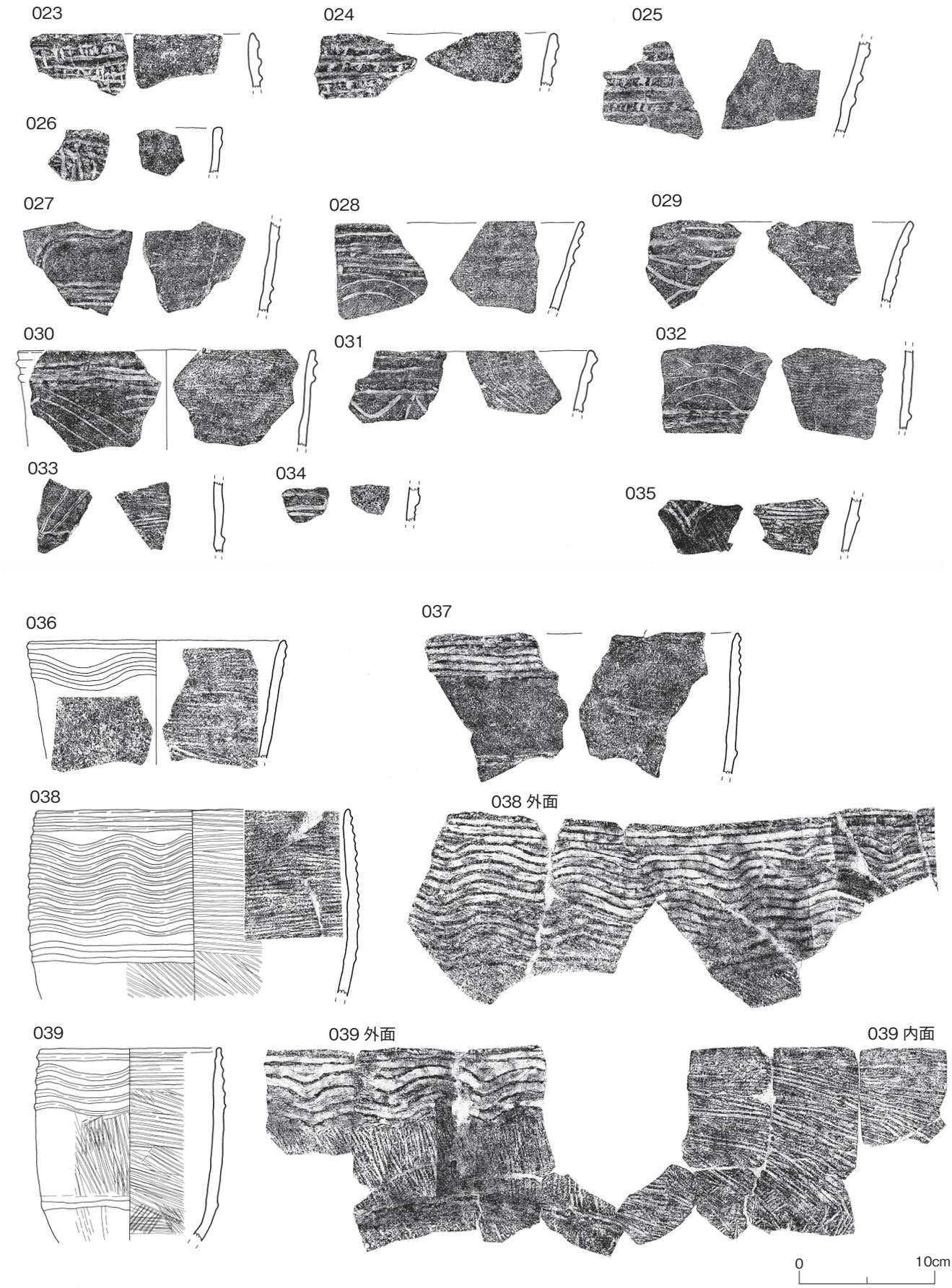
3　下層の遺構と遺物

1）河川　５次調査区は中村町遺跡がのる丘陵東側の谷部に位置し、黄褐色シルト層の下層には全体的に粗砂～砂礫層が広がっている。土層観察では粗砂層の堆積は複雑な切り合いを呈しているが、調査区中央から東側では比較的安定した堆積を示しており、そこから縄文時代前期後半を主とする遺物が出土した。遺物は多量の曽畑式土器、轟式土器の他に石器、植物遺存体等である。前期以外としては中期半の船元式土器が出土した他、早期の押型文土器が２点、旧石器時代のナイフ型石器、細石刃石核等が出土した。

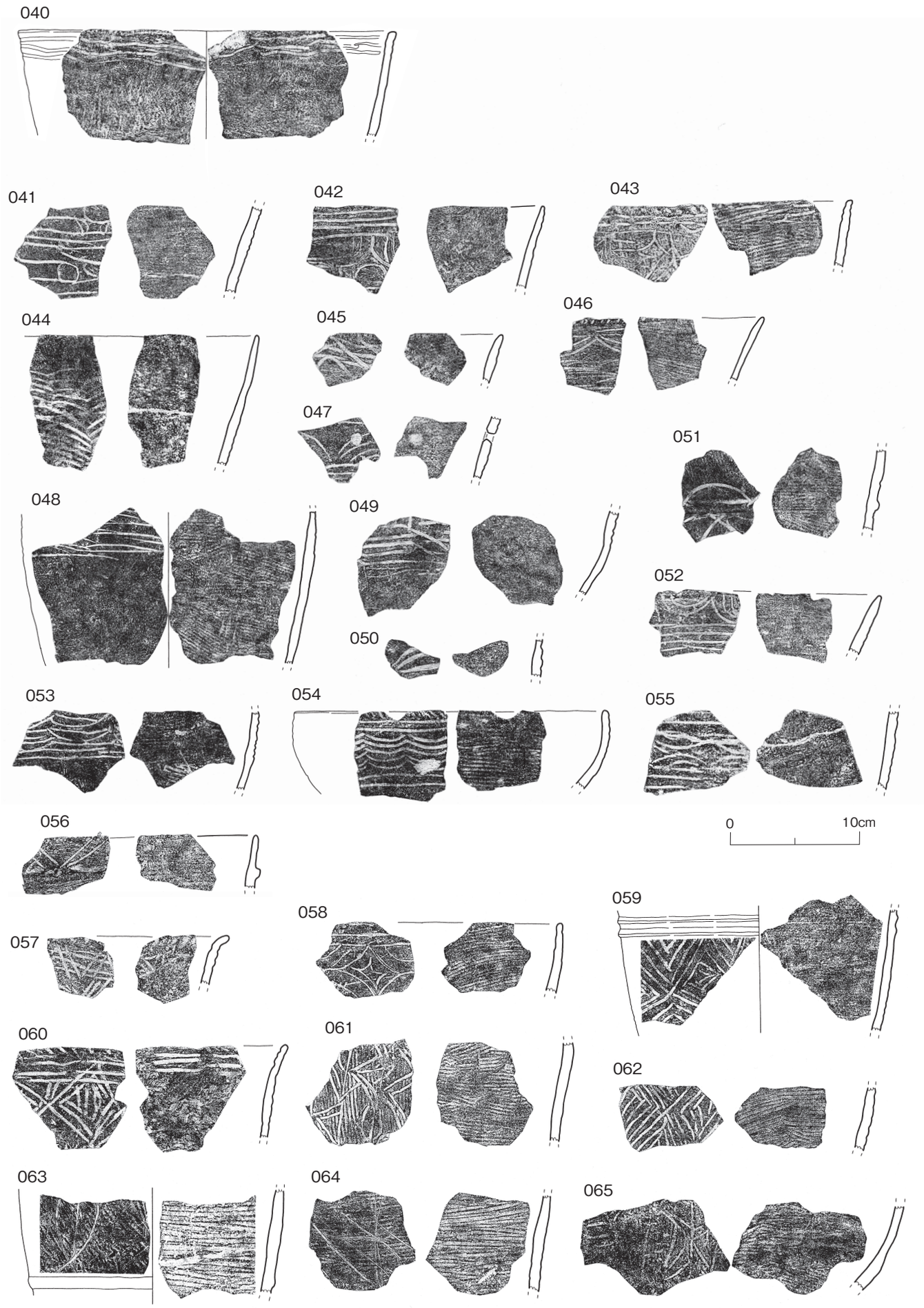
申請地は現在、谷が埋没した平坦面をなすが、元来の谷部底面は現地表面から約４mと深く（原因者のボーリング調査によるもので、底面の推定標高は４m前後を測る）、今回掘り下げた河川底面から



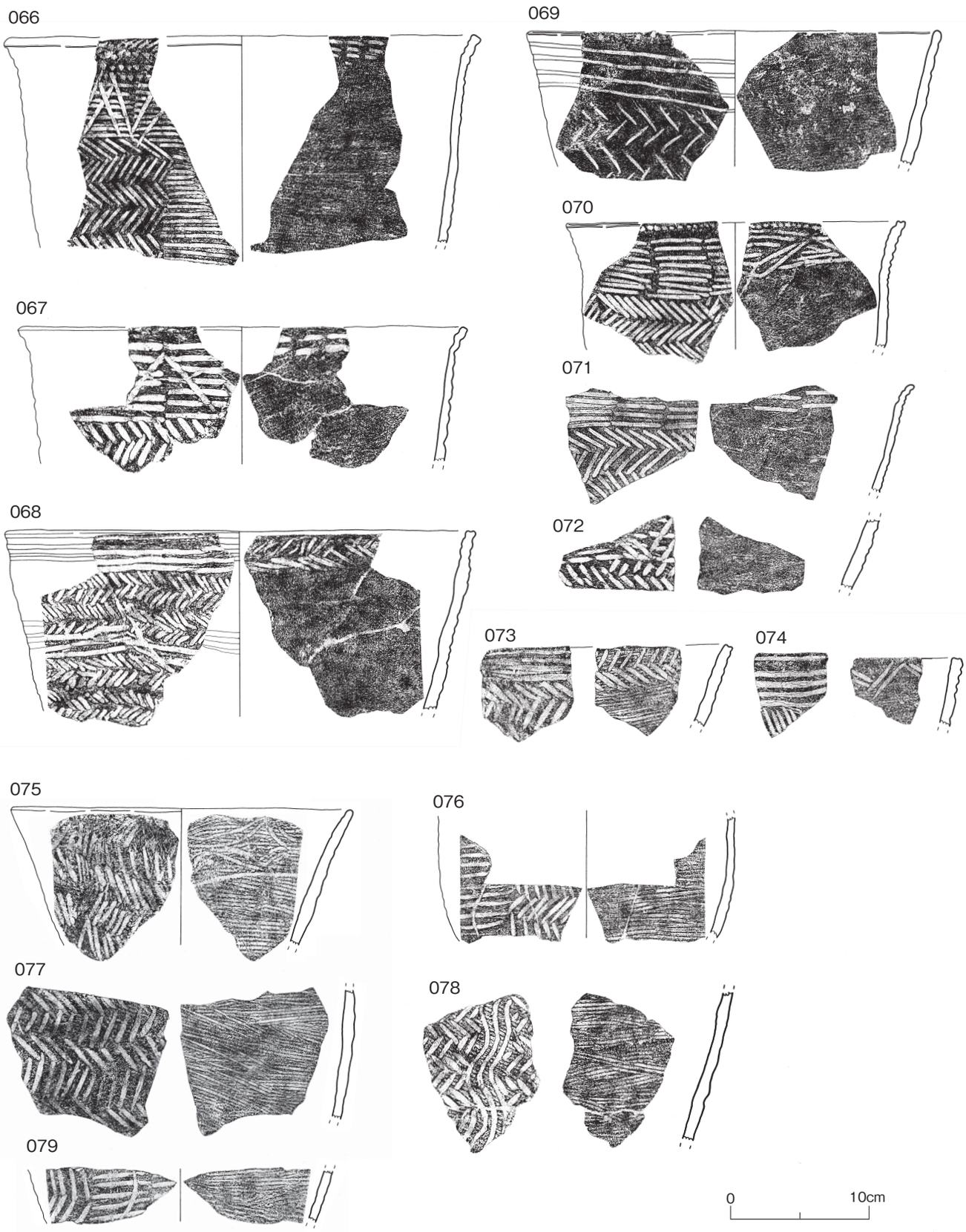
第10図　縄文河川出土遺物実測図１（1/4）



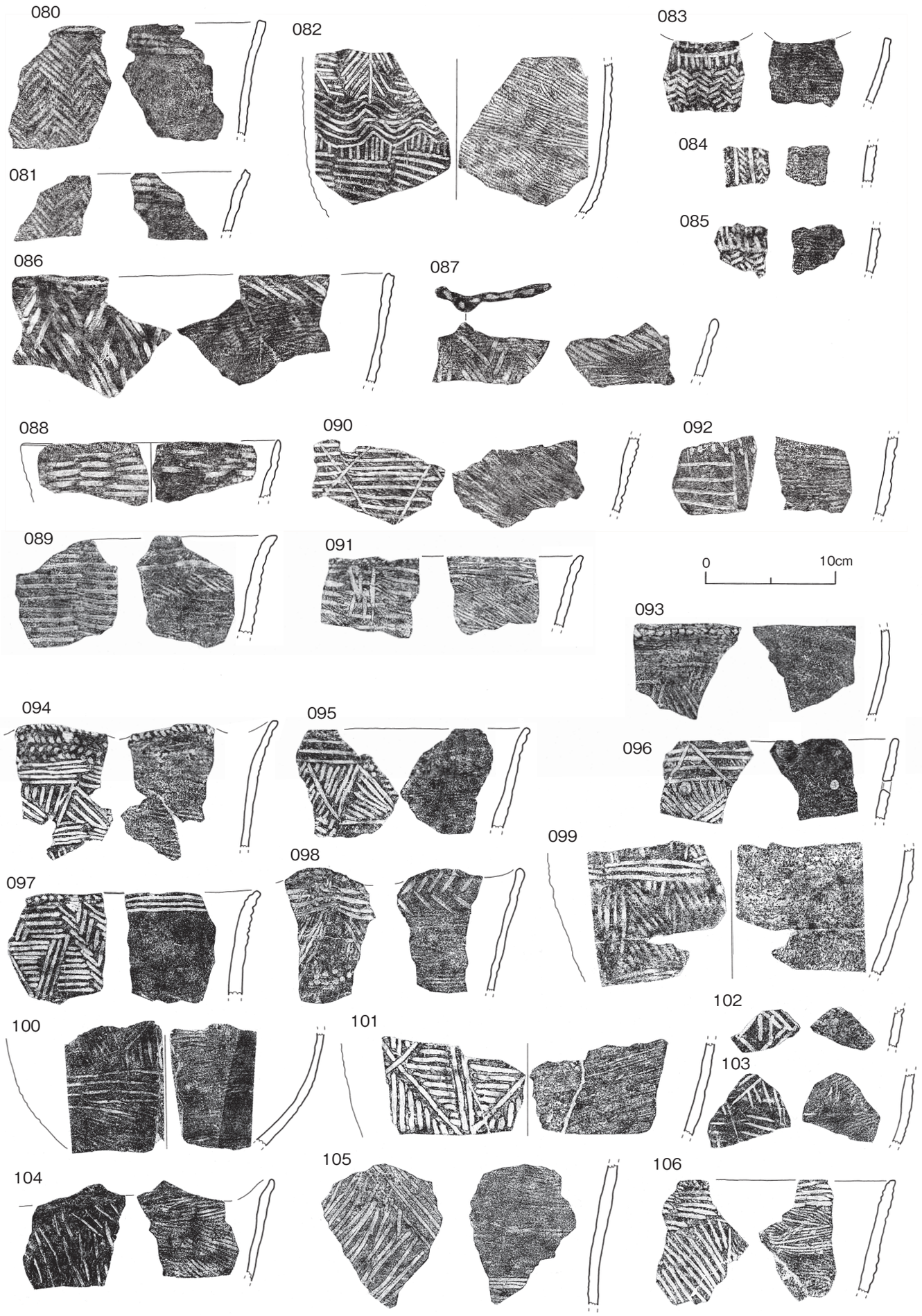
第11図　縄文河川出土遺物実測図２（1/4）



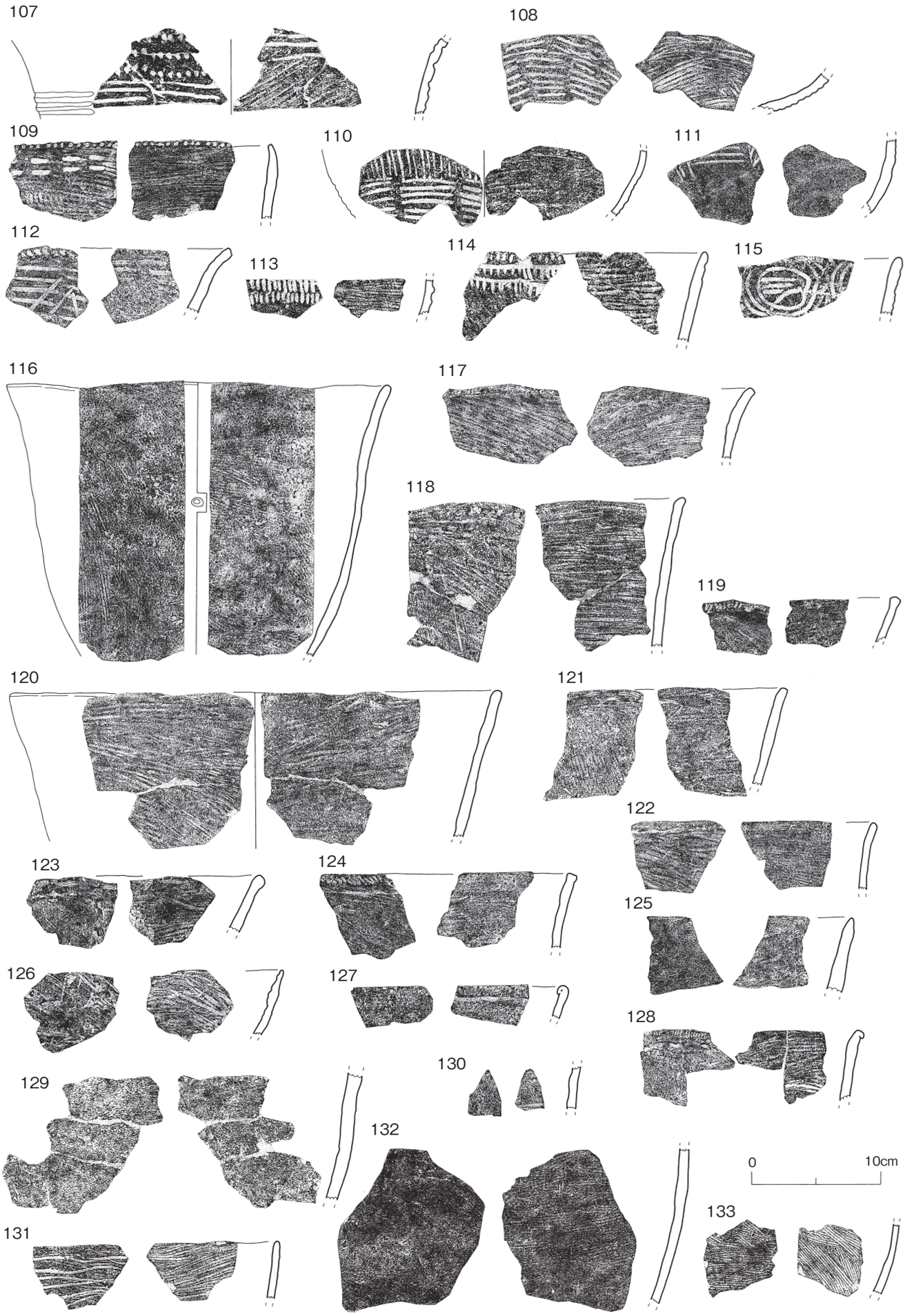
第12図　縄文河川出土遺物実測図３（1/4）



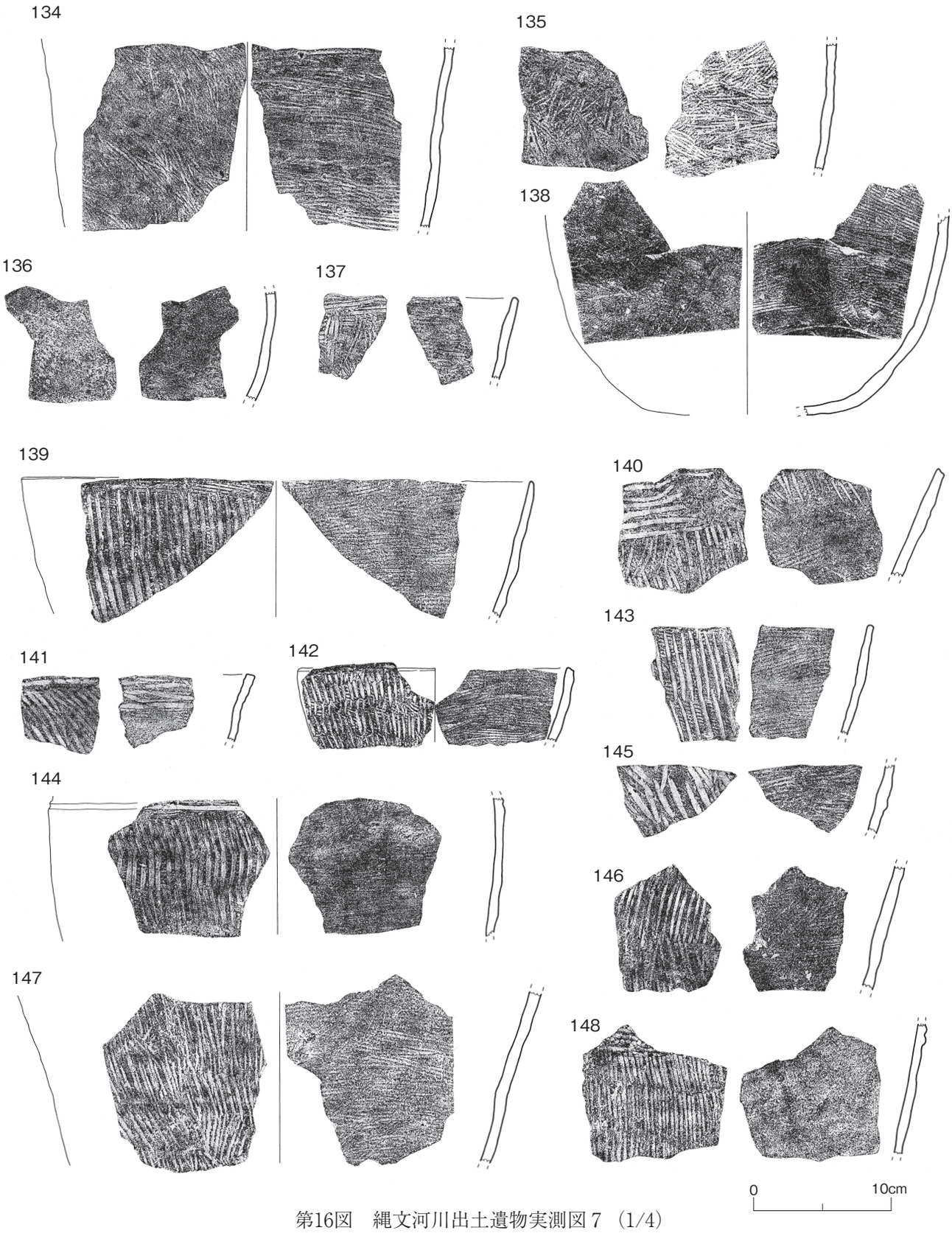
第13図　縄文河川出土遺物実測図４（1/4）



第14図　縄文河川出土遺物実測図５（1/4）

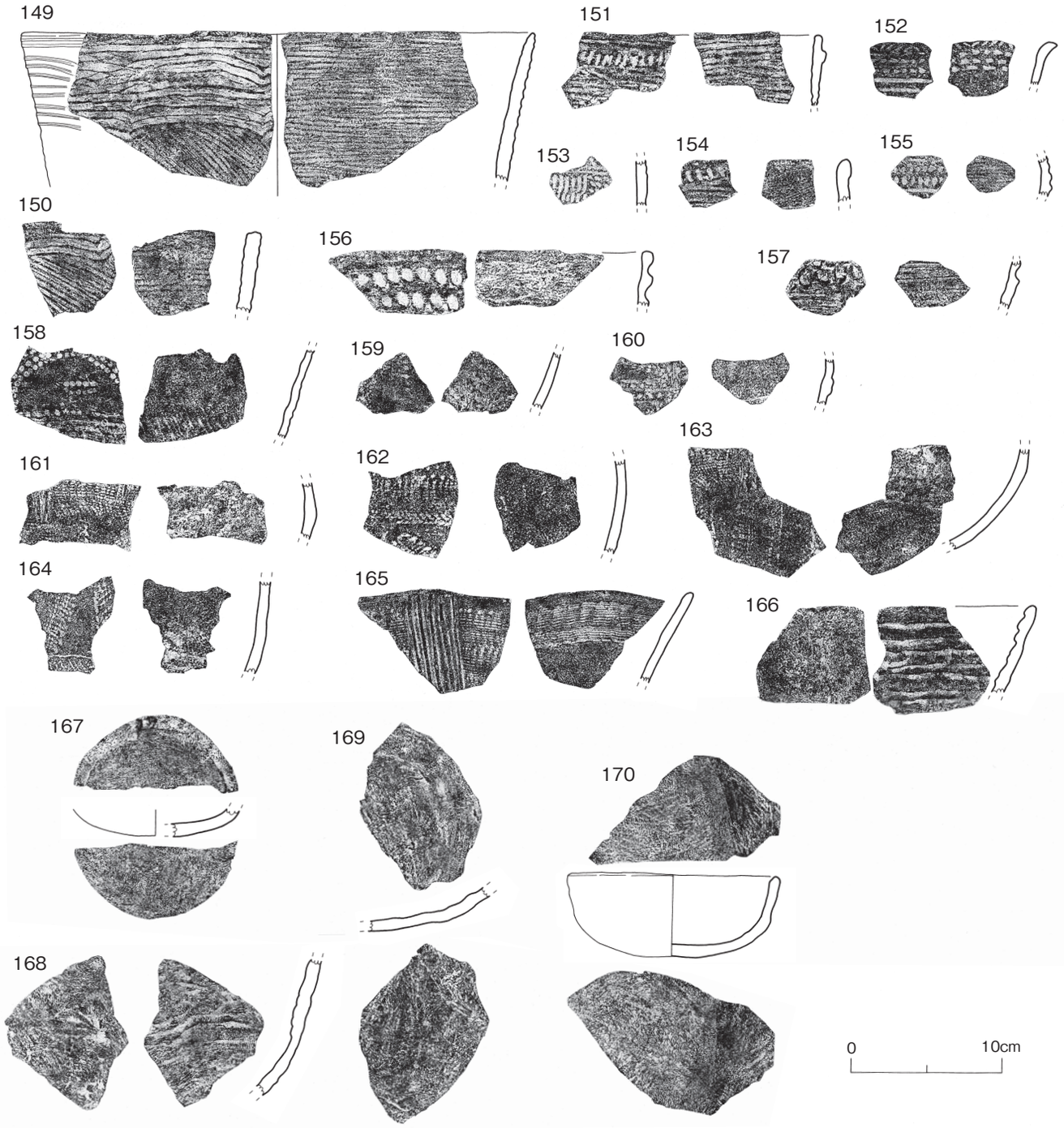


第15図　縄文河川出土遺物実測図６（1/4）



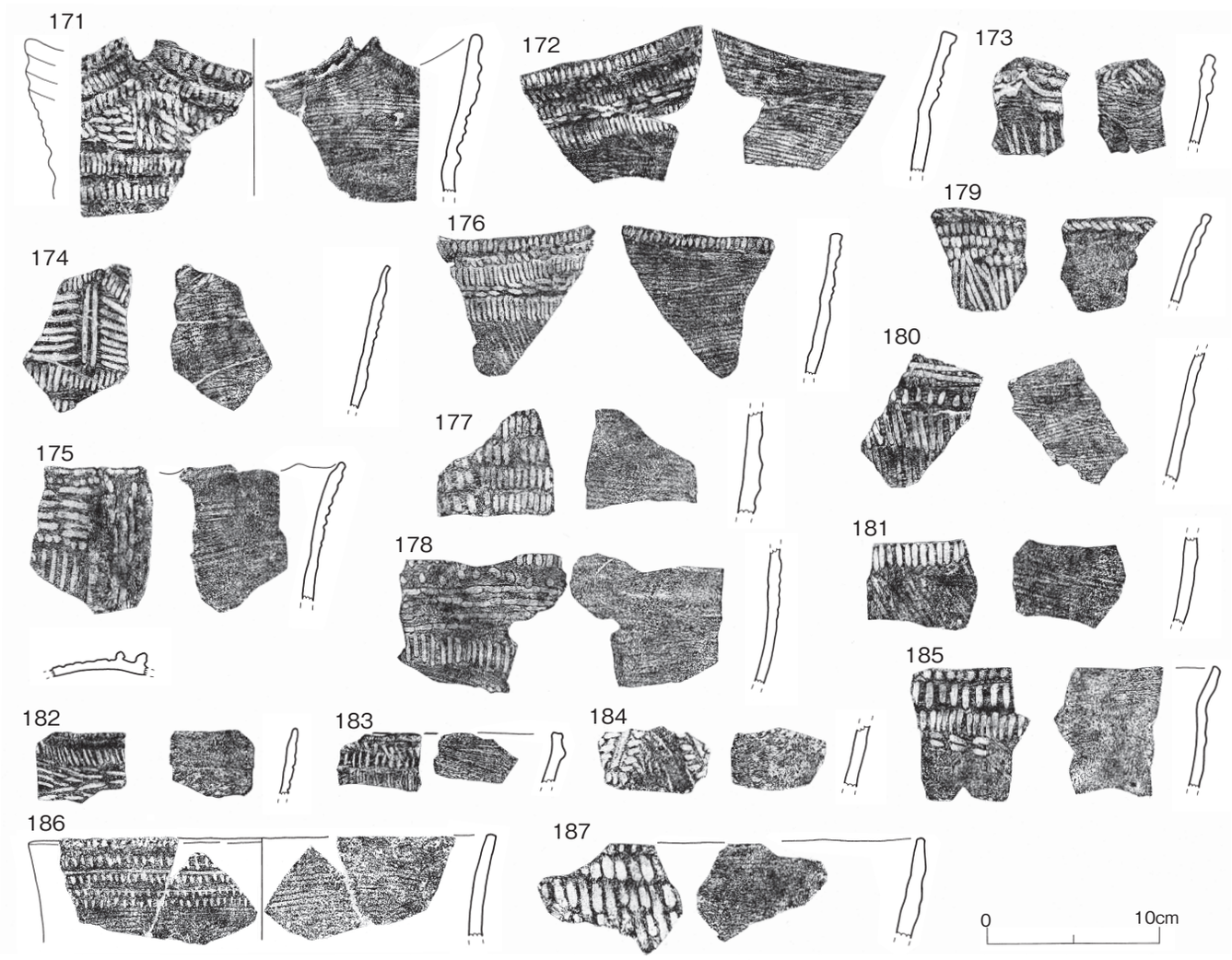
第16図　縄文河川出土遺物実測図７（1/4）

更に1.5m程深い。現地表から2.5m以上掘り下げると湧水が激しくなり、今回一部掘り下げようとしたところ、瞬時に壁面が崩壊したことから掘り下げを中止した。調査終了時に重機により下層の土を一部掘り上げて調べたところ３点の土器片が出土した。小片で時期は不明であるが、今回調査した層よりも更に下層でも遺物が出土することが判明した。今後の周辺調査では事前審査段階で湧水と壁面崩壊に対する準備を行い、谷部底面まで掘り下げて確認調査を行うことが必要である。



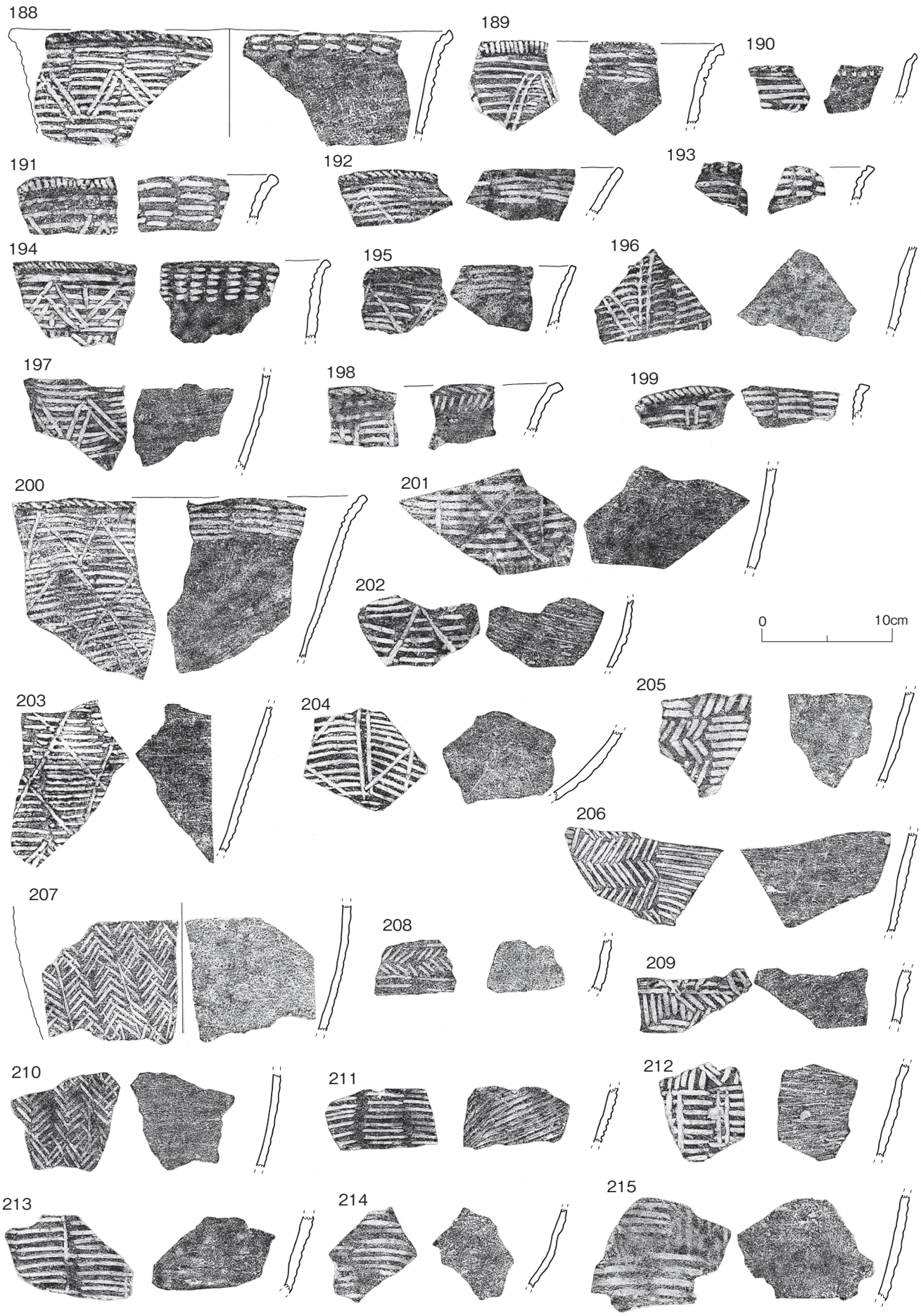
第17図　縄文河川出土遺物実測図８　(1/4)

２）土器（第10～21図　001～251）縄文時代前期中頃～後半の轟B式土器と曽畑式土器を主とする他に若干の押型文土器や船元式土器も出土した。001～039は轟B式土器である。口縁部に隆起線文を貼り付ける。隆起線文の突帯は２～３条が多いが４条以上のもの（021・037～039）もみられる。また、隆起線文は非常に細いものからやや太めの個体があり、また隆起線文上に刻目を持つもの（023～026）、隆起線文間に線で文様を描くもの（028～033）や渦巻きやV字形の粘土帯を貼り付けるもの（027・035）、隆起線文が波状を呈する（038・039）などバリエーションに富む。口縁は直線を呈する物がほとんどで、口縁端に刻み目を施すものもみられる。040は口縁部の隆起線文の代わりに３条の沈線が巡り、轟B式の隆起線文を沈線にかえた印象を持つ。041～115は曽畑式土器である。口縁直下に沈線を巡らすものが多い。文様の線刻は連弧文や綾杉文の他、三角形や四角形をモチーフにしてそれぞれを

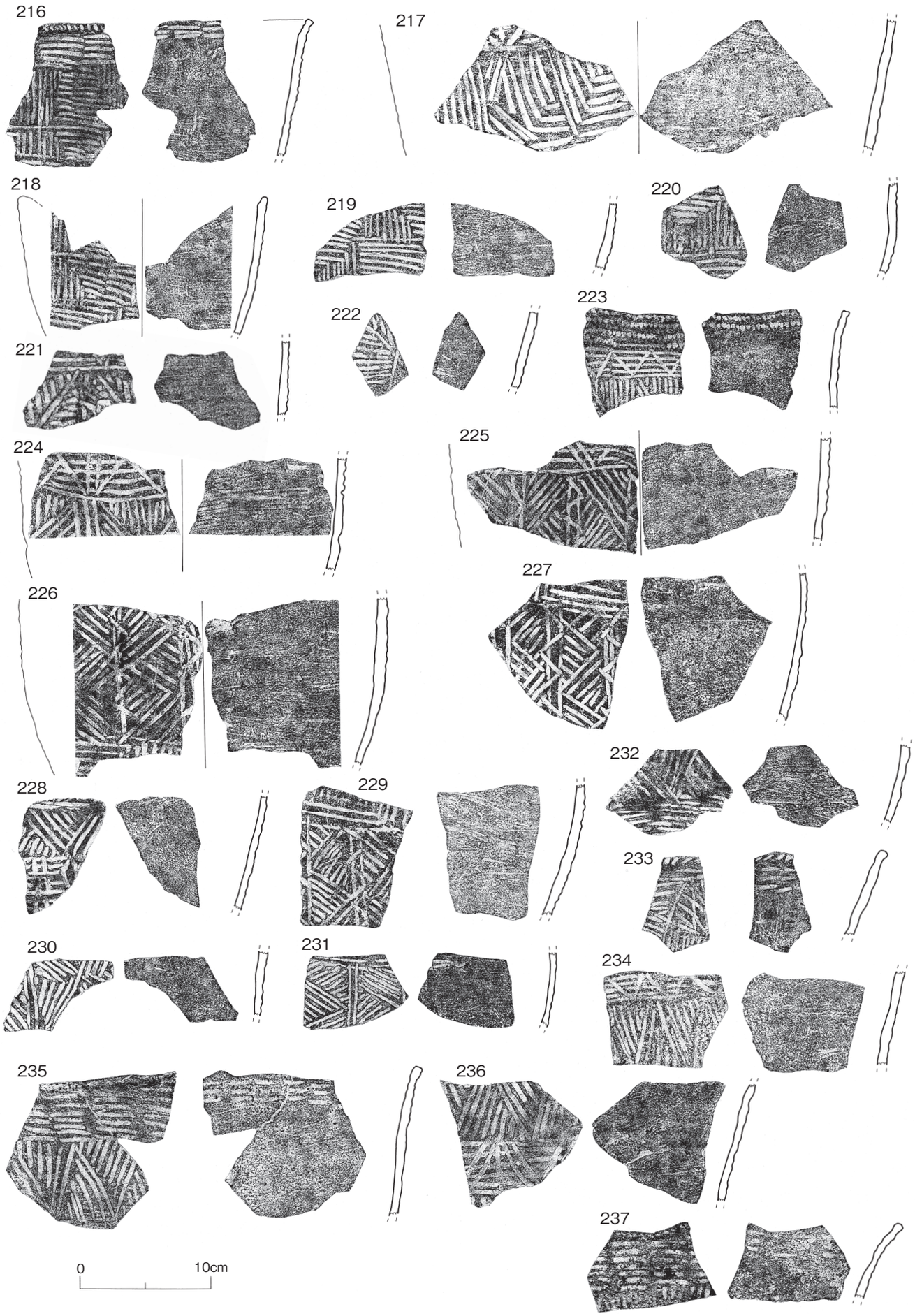


第18図　縄文河川出土遺物実測図９（1/4）

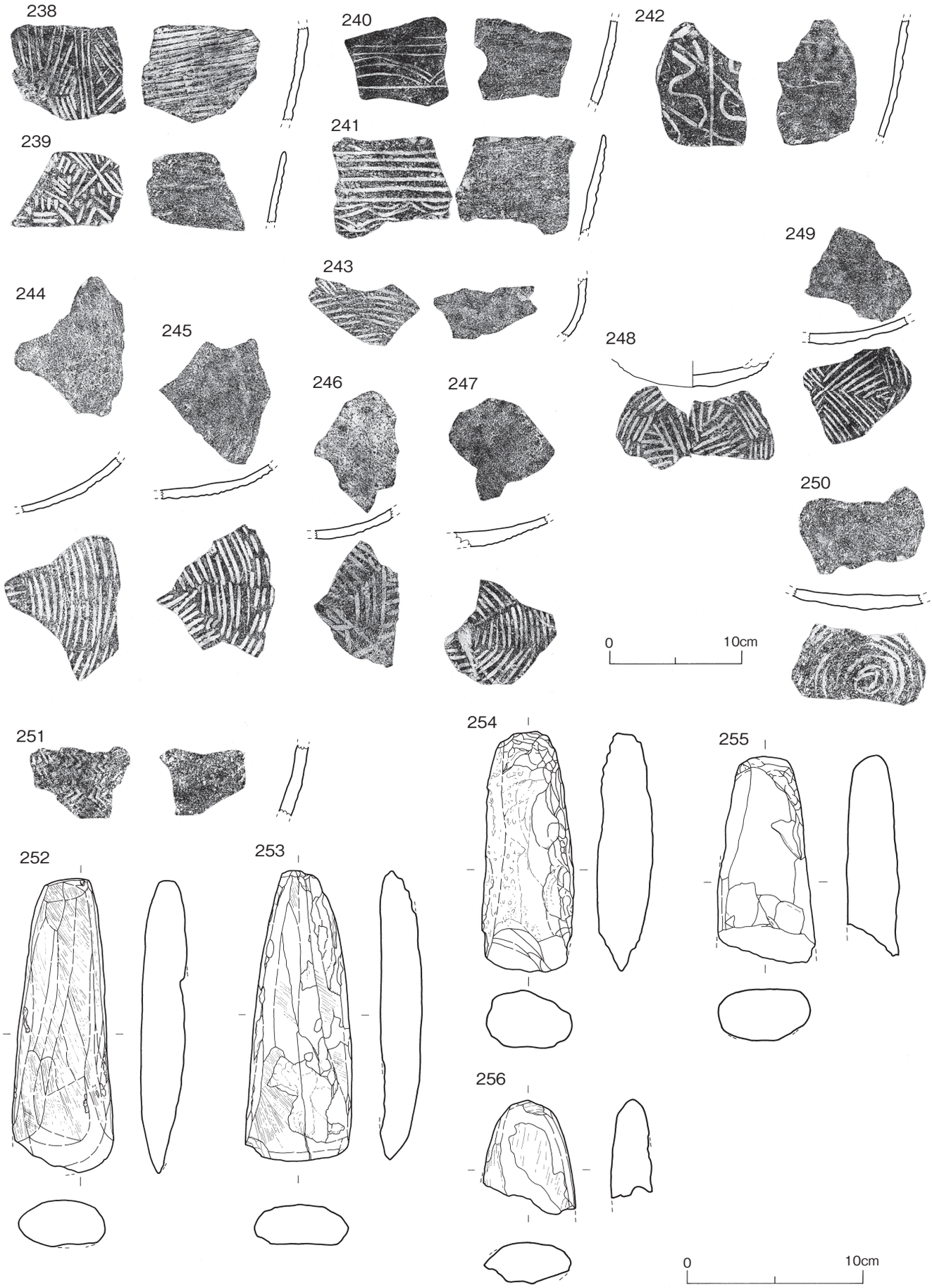
組み合わせるなど、こちらもバリエーションに富む。口縁は直線が多いが、緩やかな弧を描くもの、また波状を呈するものも見られる。また、口縁端に刻み目や刺突文を施すものも多い。041～065は線刻が細目の個体で、そのうち041～043は円を描き、その周囲を囲むような線刻を施す。044～055は連弧文である。056は連三角文、058は042・043に似るが中央が円ではなく四角を呈す。066～115は太めの沈線を施した個体である。066～085は短い直線と「ハ」の字の綾杉文状の沈線の組み合わせである。また、中には078・082のように曲線を組み合わせたものも見られ、組み合わせはかなり複雑である。086・087は「ハ」の字型の組み合わせであるが、かなり崩れた様相を示す。090はそれにX状の沈線を施す。094～103は短い直線の組み合わせで三角を描く、104～106は斜線の組み合わせである。107は胴部の沈線上に刺突文を施す。115は口縁に円文を施す。116～148は内外面に条痕を施す。一部線刻との区別がつけにくいものがある。口縁は緩やかな凹凸を呈するものが多く、若干リボン状突起をもつ個体がある。116は条痕の上からナデを施す。胴部に補修孔を穿つ。149・150は038に似るが隆起線文ではなく条痕文による波状文である。151～160は刺突文及び押引文、161～165は細かな縄文を施す。166は外面は丁寧なナデを施すが、内面は紐状の粘土を積上げた痕跡をそのまま残す。167・168は深鉢の底部である。緩やかな弧を描く。底部片も多く出土したが、すべてこの形状を呈している。169は浅鉢である。出土した土器はほとんどが深鉢と思われる破片で、浅鉢は少ない。171～187は押引文の組み合わせで、口縁は波状を呈するものが多い。中期前半に属する。188～258は胎土に滑石を含む。文様の組み合わせはは滑石を含まないものと似た傾向を示す。



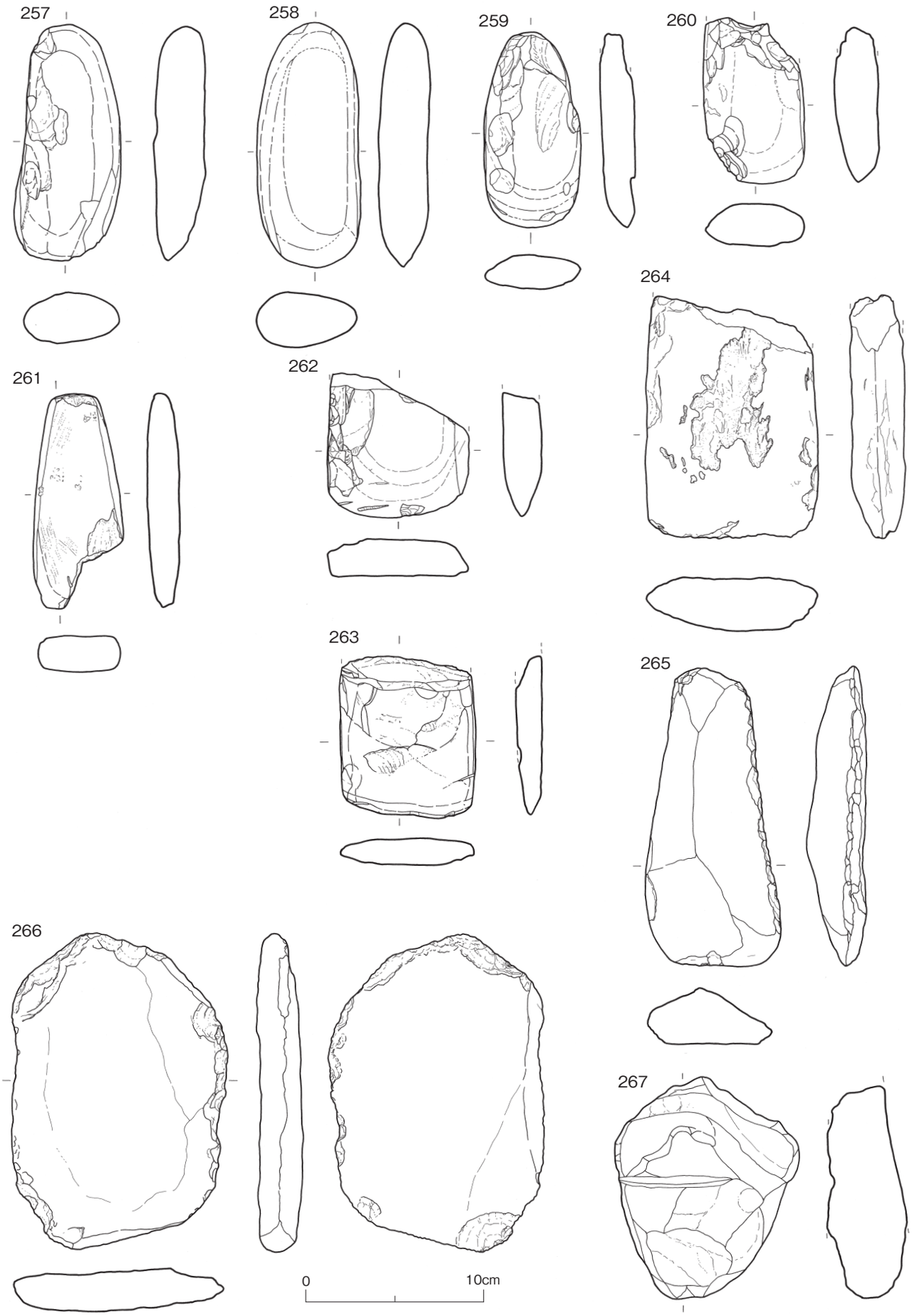
第19図　縄文河川出土遺物実測図10（1/4）



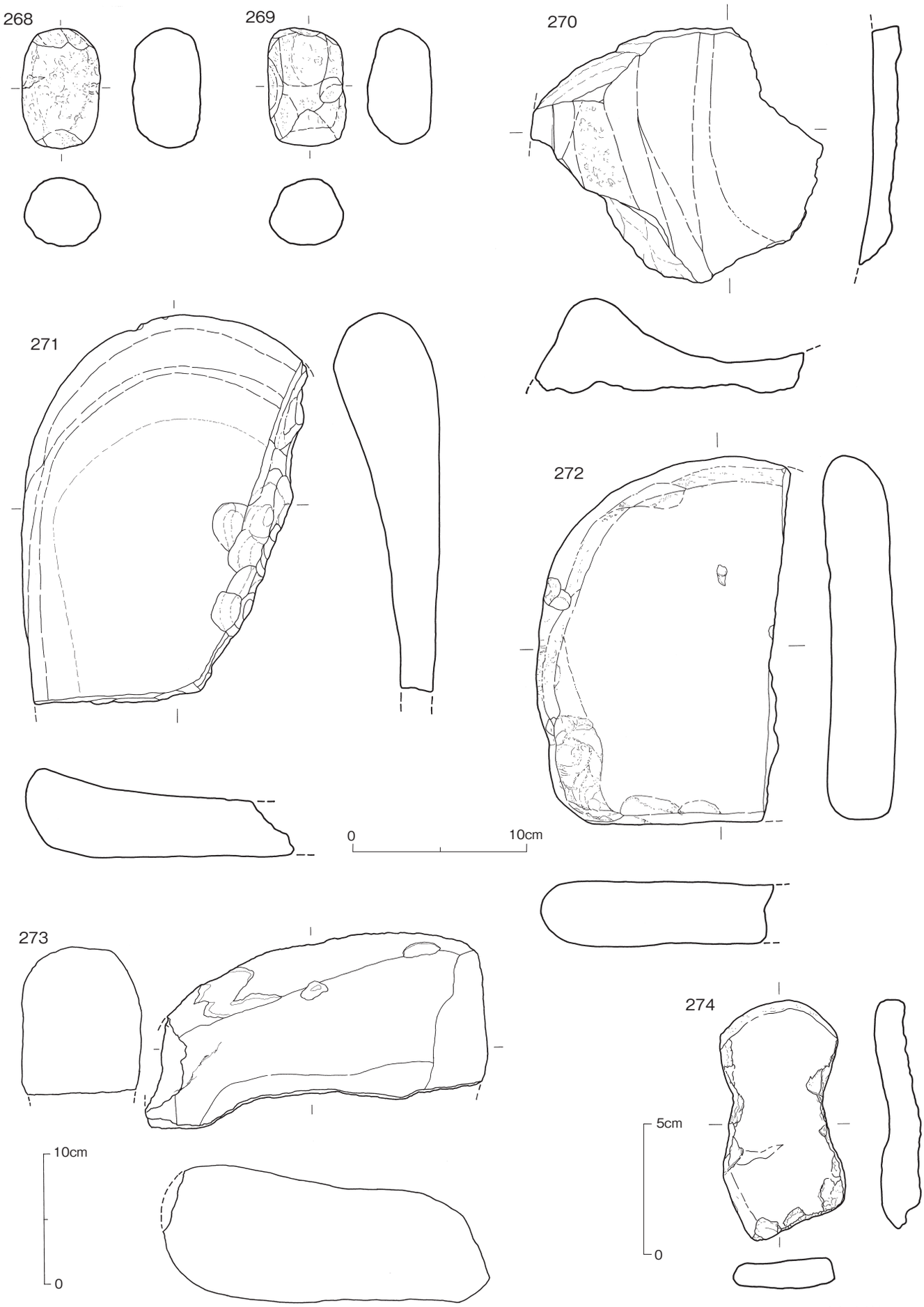
第20図　縄文河川出土遺物実測図11（1/4）



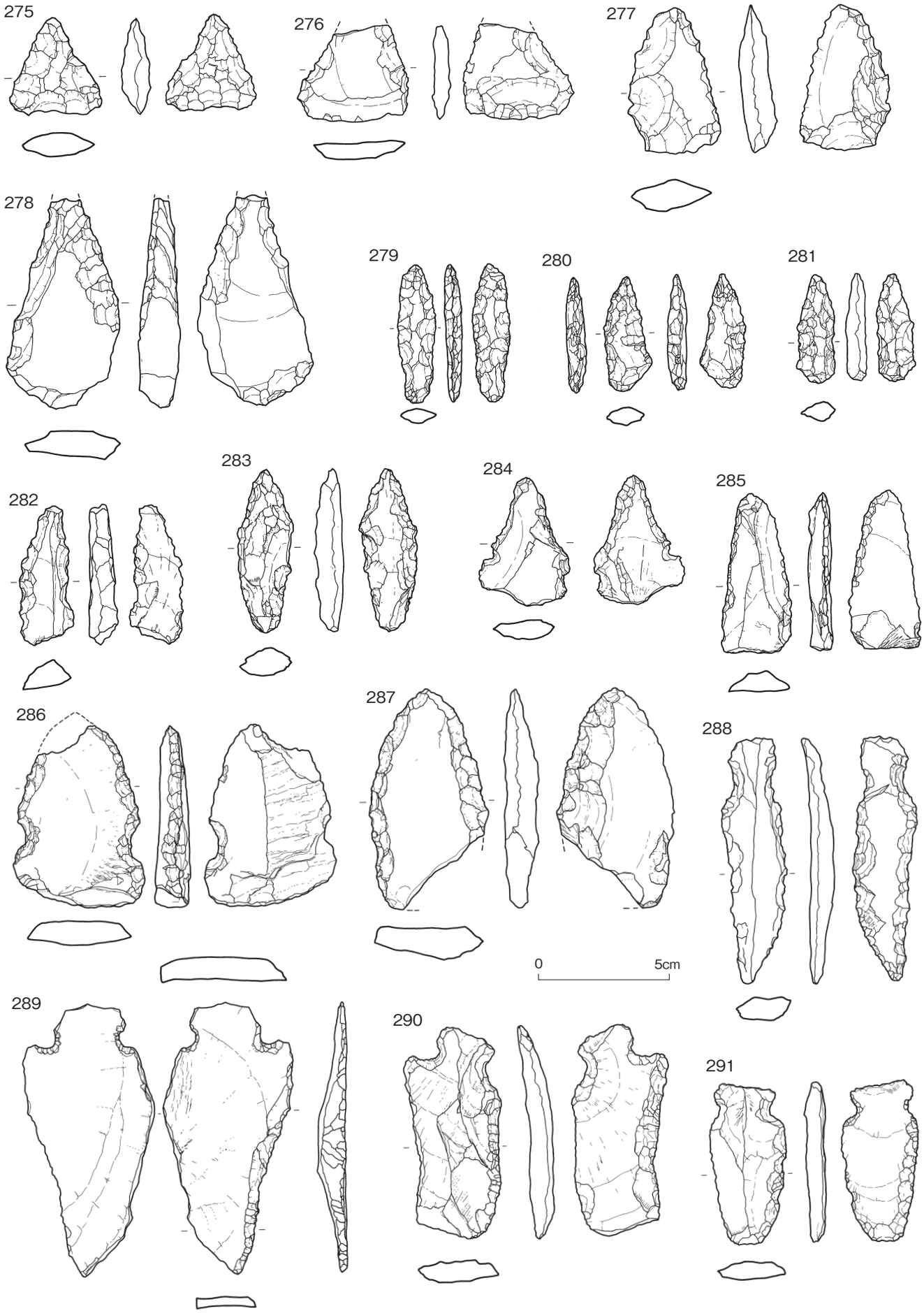
第21図　縄文河川出土遺物実測図12（1/4･252～256は1/3）



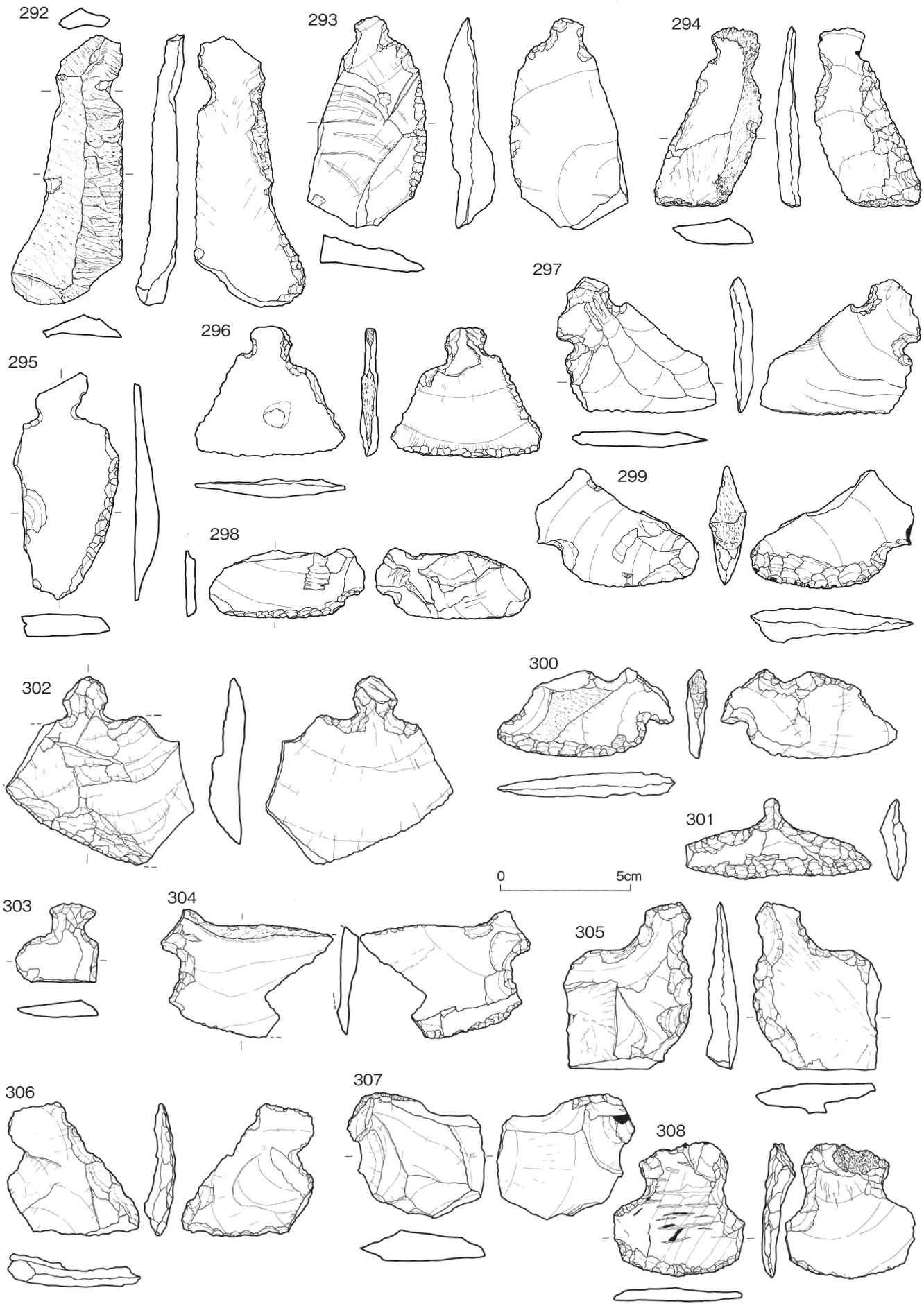
第22図　縄文河川出土遺物実測図13（1/3）



第23図　縄文河川出土遺物実測図14（268～272は1/3･273は1/4･274は1/2）

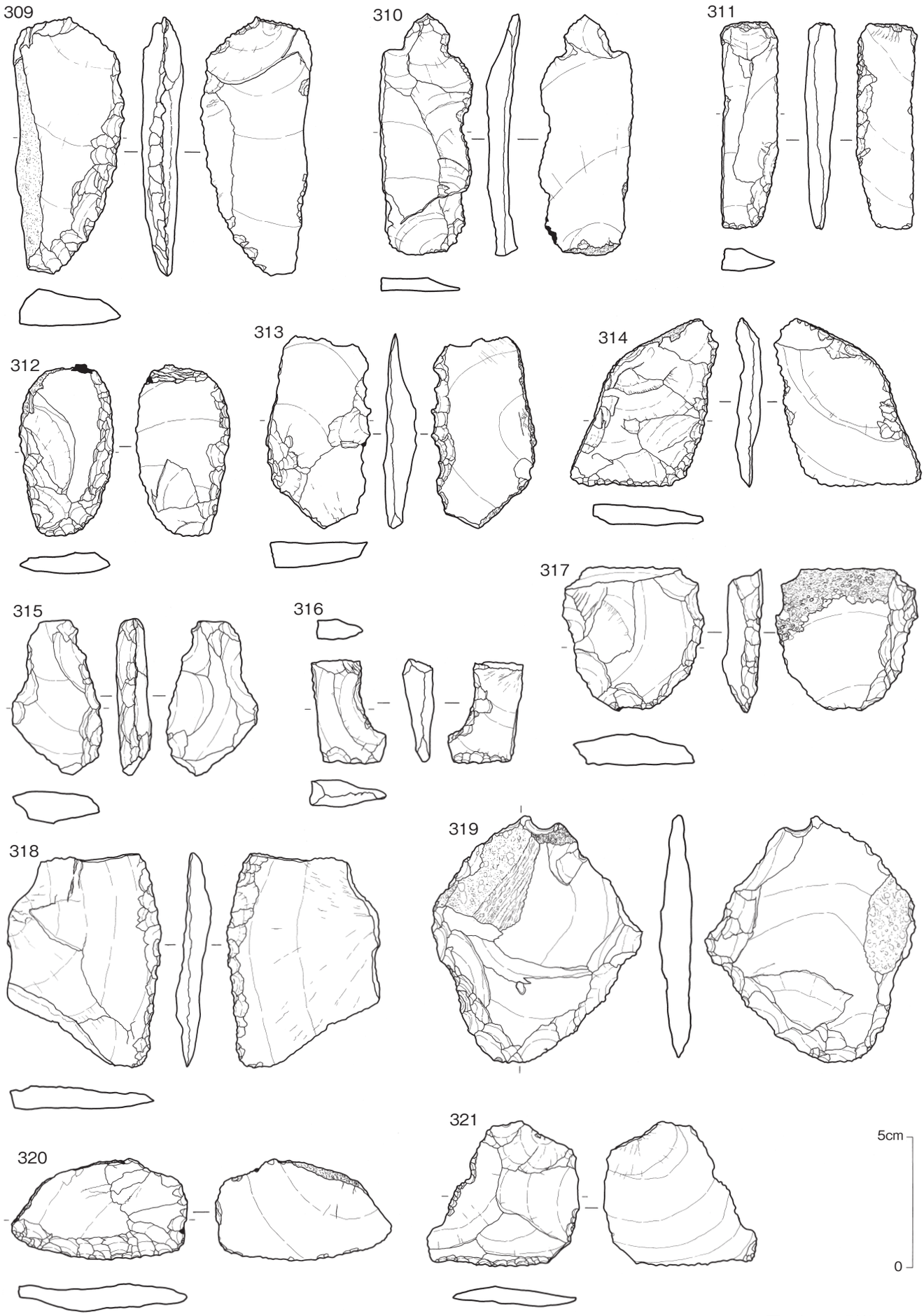


第24図　縄文河川出土遺物実測図15（275～278は1/1･279～291は1/2）



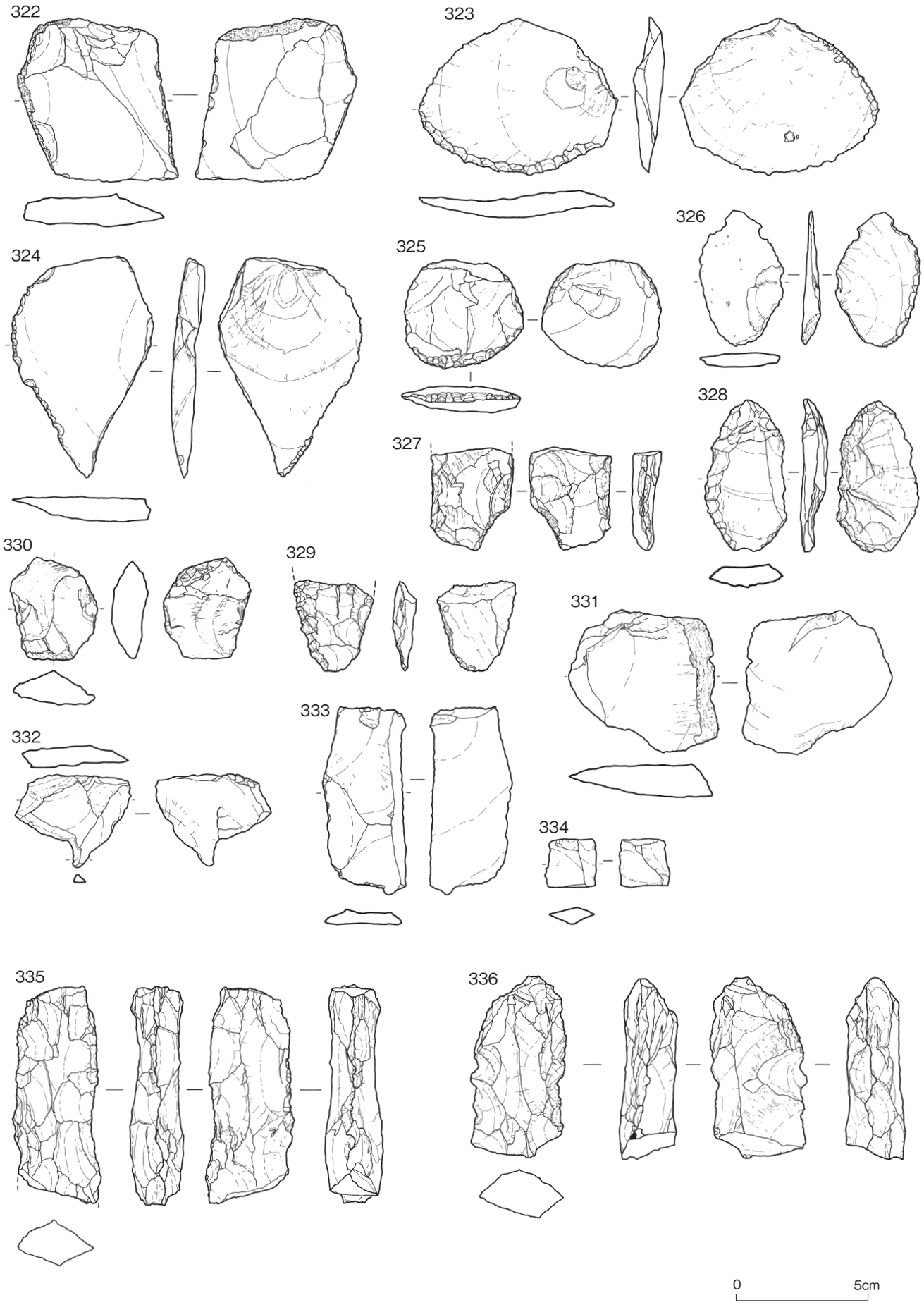
第25図　縄文河川出土遺物実測図16（1/2）

※■は新しい剥離

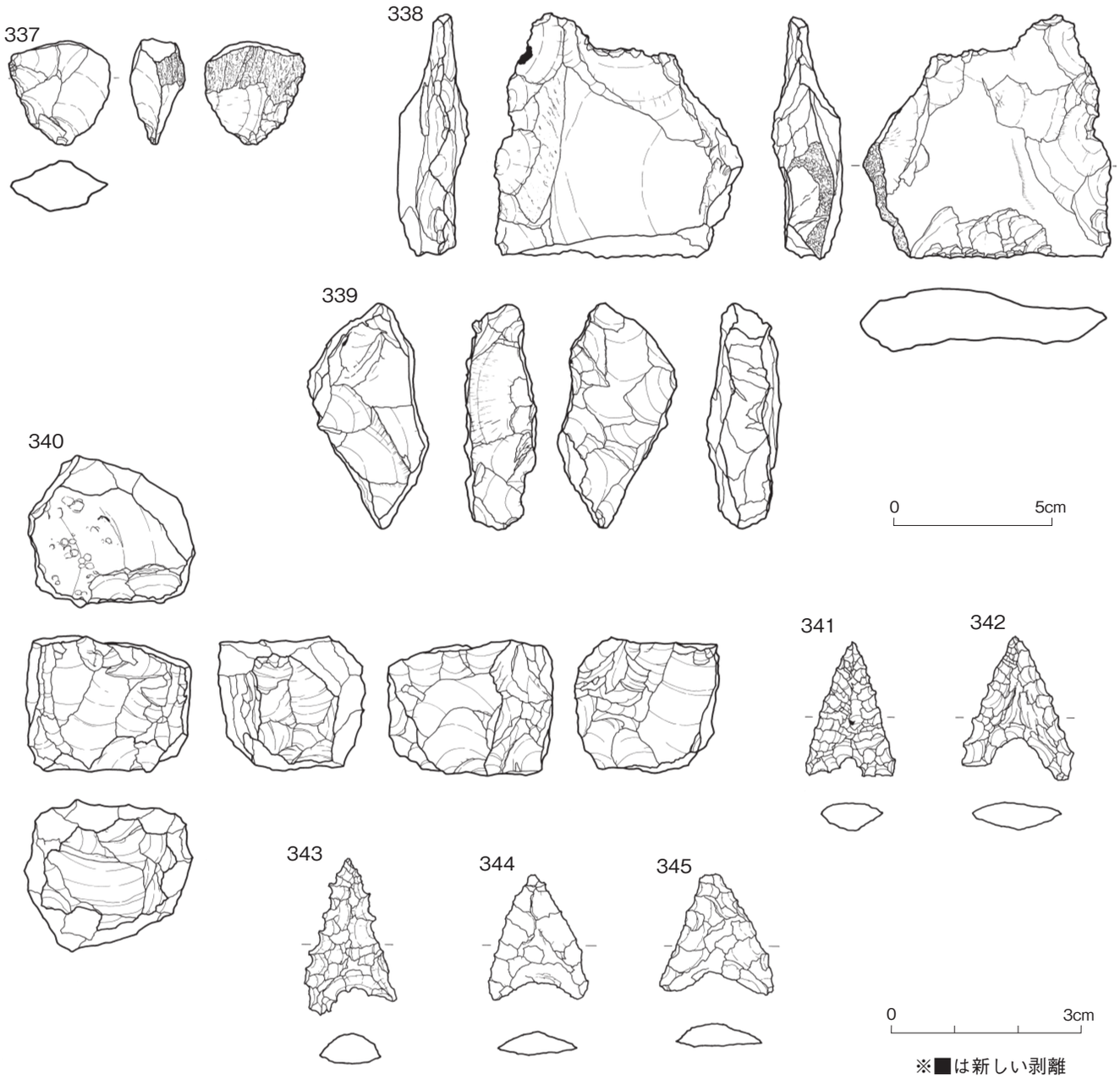


※■は新しい剥離

第26図　縄文河川出土遺物実測図17（1/2）



第27図　縄文河川出土遺物実測図18（1/2）



第28図　縄文河川出土遺物実測図19（337～339は1/2･340～345は1/1）

3）石器（第21～33図　252～376）

石器、剥片、原石含めて1000点以上が出土した。内訳はサヌカイト・安山岩（表１）、黒曜石（表３）、と砂岩・蛇紋岩等のその他石材（表２）に別けて記す。遺物が出土した河川は握り拳大の礫を含む砂礫層で、調査時に篩選別等は行わっていない。旧石器についてはP38～ P40に記載しているが、遺物は縄文河川とシルト層上面包含層の両方から出土しており、西側丘陵上に旧石器時代の集落が存在したことを示す。黒曜石についてはP33に報告を記載しているので、ここではサヌカイトとその他石材を使用した石器について報告する。252～265は磨製石斧である。252～256は細長いタイプで252と254・255が玄武岩らしき黒くて緻密な石材を使用している。253は蛇紋岩である。257～260は安山岩でやや丸みを帯びる。261～264は蛇紋岩製で261は小型でやや撥型を呈す。262～264は幅広タイプで、264は幅が9.7cmと大型である。265は側面を打ち欠いた他は刃部のみ研磨している。安山岩製である。266も安山岩製で長さ17.8cm、幅12cm厚さ2.4cmと大型である。打製石斧か。268は砂岩製の砥石である。中央に長さ6.3cm、幅6.5mmの研磨用の溝がある。268・269は砂岩製敲石、270～273は砂岩製石皿である。

表１　石器分類表１（サヌカイト）

種　　類	点数	%
石鏃	4	1.3%
石鏃未製品	5	1.6%
石銛	5	1.6%
石槍	5	1.6%
石錘	1	0.3%
スクレイパー	137	44.9%
スクレイパー？	8	2.6%
スクレイパー未製品	1	0.3%
石匙	21	6.9%
石匙？	4	1.3%
石匙未製品？	7	2.3%
石錐？	5	1.6%
両面加工石器	10	3.3%
楔形石器	2	0.7%
削器	1	0.3%
板状素材	3	1.0%
石核	18	5.9%
石核　？	4	1.3%
剥片	64	21.0%
破片（数に含めない）	195	
計	305	

274は安山岩製で側面を打ち欠いて抉りをいれた石錘である。

275～340はサヌカイト製の石器と剥片である。275～278は石鏃である。278は未製品か。279～287は石槍で、大きさから小形（279～281）、中形（282～285）、大形（286・287）に別けられる。狩猟具であるが中～大形（282～287）は銛として大型魚類や海獣等の捕獲に使用した可能性がある。288～307は石匙である。縦長型が多く、台形や横長型は少ない。302は破損品、304～307は未製品である。308は石鑿状を呈す。刃部を薄く平らにするため表面を丁寧に削った痕跡が残る。309～326はスクレイパーである。５次調査出土の石製品としては最も数が多く、サヌカイト製石器の４割強を占める。形状、大きさとも様々なのは用途による使い分けの結果と考えられる。327～329は両面加工石器、330は楔形石器、331は板状素材である。332は石錐未製品か。333は縦長剥片、334は剥片である。335～340は石核である。335・336は石棒状を呈し、図の横方向から打撃を加えて幅２～４㎝程の素材を取っている。一部にこまかな剥離があり、最後はスクレイパーとして使用した可能性がある。340は石質が緻密でガラス質に近い。上面を平坦に整え、側面で縦長の剥片を取る。341～345は河川西端の窪みから出土した石鏃である。341・342が黒曜石製、343～345がサヌカイト製である。

石器は河川砂礫中から出土したため、石鏃等の小さな石器は見逃しも多いと思われる。石器の用途は石鏃、石槍、石銛が狩猟。石匙とスクレイパーが動物解体や加工、磨製石斧と石匙・スクレイパーが植物採取。敲石、石皿が実などの加工と多種に及ぶ。祭祀用石器が無く打製石斧が少ないものの、狩猟・採取用、加工用など当時使用されていた器種の多くが出土している。石材は蛇紋岩、安山岩、サヌカイトは河川砂礫層の中に多く含まれており、簡単に手に入れることができた。砂礫層にはその他に石炭、石英等を多く含む。黒曜石は腰岳産（佐賀県）が多く、その他に針尾島産（長崎県）姫島産（大分県）が出土しており、北部九州の広い範囲の交流を示している。

４）植物遺体について

河川底面には緩やかな凹凸があり、そのうち数カ所に植物遺存体が堆積していた。ほとんどは厚さ数㎜程度で植物遺存体の残りも良くなかったが、２カ所は植物層の厚さも厚く、遺存状態も良好であった（第５図）。窪みは径が約1.5m(A)と１m前後(B)で、特にAは西側を攪乱で切られるものの、長さ1.5m程の木が１本とその下に厚さ２～10程㎝の植物遺存体が堆積していたが、そのほとんどは木の葉で、間にドングリ類やその他の実を含んでいた。資料を現地で分類する時間がなかったため植物層を分割してパンケースに入れ、木は加工痕が無いことを確認後に樹種同定用のサンプルを採取した。持ち帰った植物遺存体はピンセットで葉を１枚ずつはがして資料を採取した。葉は脆弱で多くが剥がす段階で細片化したが、大きな破片を埋蔵文化財センターに運んで１枚ずつパックして保存した。葉の採取時に編組の断片が７点出土した。これら編組と植物遺存体については株式会社パレオ・ラボの佐々木由香氏の分析を記載している（P41～49）ので参照頂きたい。

4　小結

5次調査では上面で古代の遺構が、黄灰褐色シルト層下で縄文時代前期後半～後期初頭の河川が出土した。上面では古代の遺構を切る土坑からも弥生土器しか出土しない遺構が多く、遺構・遺物一覧表で弥生時代時代の遺物しか出土していない遺構でも弥生時代と判断することは難しく、その多くは古代以降に降るものと思われる。上面で出土した遺構は溝と土坑、掘立柱建物4棟であるが、溝は直線に近く、方位は南北から東に10～12°ズレる。時期は8世紀中頃～後半と思われるが、1次調査や4次調査で出土した古代の遺構は7世紀から8世紀前中頃とされており、時期的は若干のズレがある。

縄文時代の河川から出土した土器は多くが前期後半の轟B式土器と曽畑式土器で、わずかに中期前半や早期の土器片を含む。河川の埋没時期は出土した編組のC14年代が縄文時代前期中頃と中期中頃を示すことから、中期中頃まで降ると考えられる。前期の遺物は上流側にあった遺構が流れに削られて混入したものと思われる。しかし、土器表面にほとんど摩滅が見られず炭化物が付着したままの土器片も多いことを考えると、遠く流されたとは思えず5次調査の南側に前期の集落や貝塚が埋没している可能性がある。丘陵の際には後世の流路があるため削られて残っていない可能性もあるが、縄文時代前期の土器片がまとまって出土することは珍しく今後の周辺の調査に期待したい。

表2　石器分類表2（その他石材）

	総数	砂　岩		玄武岩？		花崗岩		安山岩		蛇紋岩		泥　岩		その他･不明	
磨製石斧	106	11	10%	42	40%			8	8％	39	37%	1	1％	5	4％
打製石斧	2							1	50%	1	50%				
石　　皿	9	8	90%			1	10%	1	10%						
凹 み 石	2	2	100%												
敲　　石	11	2	19%			5	45%	4	36%						
砥　　石	3	3	100%												

表3　遺構・遺物一覧　　※1001～1117は黄灰褐色シルト層上面で検出した遺構

遺構番号	性格	略号	時代	遺物	備考
1001	包含層	SX	8世紀後半以降	染付磁器、白磁碗Ⅸ類、須恵器高台付坏(7C末･8C前半～後半)-多、須恵器器台、須恵大甕(平行タタキ、格子タタキ)、須恵器甕(格子タタキ)-多、須恵器直口壺、須恵器長頸壺、須恵器提瓶、須恵器高坏、須恵器坏(5世紀中頃･6世紀後半)、須恵器坏蓋(7世紀後半、8C中～後半)、須恵器高台付坏(7世紀後半･8世紀後半)－多、須恵器坏蓋型土師器、移動式竈、土師甕(古墳時代前期)－多、高坏(古墳時代前期･弥生時代後期中頃)、甑取手、器台(弥生後期～古墳時代前期)、土師器壺(古墳時代前期)、高坏(古墳時代前期)、甕(Ｖ様式系、古墳前期)、大型壺(弥生時代後期)、甕棺(弥生時代中～後期)－多、袋状口縁壺(弥生時代後期)、壺(弥生時代中～後期)、大型広口壺(弥生中期)、壺底部(弥生時代後期中頃)、甕(弥生時代後期中頃～終末)、手づくね小椀、移動式カマド？、土錘、縄文土器片(前期)、敲き石(砂岩)、砥石、黒曜石、サヌカイト(スクレイパー･剥片)、石包丁、時期不明土器片(多量)、鉄滓、石英長石斑岩片？、滑石片須恵器甕、須恵器壺(長頸壺？)底部、須恵器坏蓋(ヘラ記号)、須恵器高台付坏(8世紀)、器台(古墳時代？)、大型壺(古墳時代前期)、甕(古墳時代？)、袋状口縁壺、壺(弥生時代後期)、高坏(弥生時代)、甕(弥生時代後期～古墳時代)、	土器片多量に出土、大型器種の破片が多い
1002	溝	SD		須恵器大甕、須恵器甕、須恵器坏、甑取手、器台(弥生後期、古墳前期)、壺(弥生時代中～後期)、大型壺(古墳時代前期･弥生後期))、甕(古墳前期、弥生後期)、袋状口縁壺(弥生後期)、複合口縁壺(古墳前期)、壺(古墳前期、弥生後期、弥生中期中頃)、鉢(弥生中期)、高坏(弥生時代)、甕棺(弥生後期)、縄文土器(前期)	
1003	溝	SD		土師器椀(古代)、土師甕(古墳時代前期)－多、小型丸底壺、大型壺(弥生時代後期末～古墳時代前期、弥生中期)、壺(古墳時代前期、弥生時代中期中頃-多･弥生時代後期中頃)、袋状口縁壺(弥生時代後期)、高坏(古墳前期、弥生時代後期)、甕(弥生時代後期末～古墳時代前期･弥生時代後期前半～中頃)、鉢？、甕棺(弥生時代後期･中期)、器台(Ｖ様式系)、支台(弥生時代後期～古墳時代前期)、土器小片-多高坏(古墳時代)、壺(古墳時代)、器台(古墳時代前期、弥生中期～後期)、甕、土器片　多(古墳時代が主か)、黒曜石	
1004	流路残欠		6世紀以降	須恵器坏蓋(6世紀)、土器片　4点(不明)	
1005	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　1点(不明)	
1006			8世紀以降	須恵器大甕、須恵器坏(6世紀後半)、須恵器高台付坏(8世紀)、器台(古墳時代前期)、土器小片(ほとんど弥生土器と思われる)	
1007	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　2点(不明)	
1008	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　6点(不明)	
1009	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　5点(不明)	
1010	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　3点(不明)	
1011	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　2点(不明)	
1012	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　3点(不明)	
1013	溝	SD	8世紀中頃以降	須恵器高台付坏(8世紀中頃)、器台(弥生時代後期)、高坏(弥生時代後期中頃)、袋状口縁壺(弥生後期)、壺(弥生時代後期)－多、甕(弥生時代後期末～古墳時代前期)、台付き甕(弥生時代)、土器片－多(大きな破片が多い。多くは大型の壺等の破片と思われる。ほとんどが弥生時代で古墳時代の遺物は少ない)	SD1003と同一遺構
1014	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　5点(不明)	
1015	柱穴状遺構	SP	弥生時代後期～古墳時代？	袋状口縁壺(弥生時代後期)、小型丸底壺(古墳時代前期)、土器片　多(弥生時代～古墳時代？)	
1016	柱穴状遺構	SP	古墳時代前期？	甕(古墳時代前期)、土器片(不明)	
1017	流路残欠		古墳時代後期～古代	須恵器壺胴部(4点)、土器片　多(不明)	
1018	土坑	SK	古墳時代前期	甕(古墳時代前期･弥生時代後期)、大型壺(弥生時代後期か)、壺(弥生時代中～後期･弥生時代後期中葉)－多、器台(弥生時代末～古墳時代前期)、高坏(弥生時代末？)、土器片多(甕片多い)	
1019	溝	SD	古代以降	須恵器高台付坏(8世紀後半)、土器小片　8点(不明)、	
1020	不明		古墳時代前期？	土師甕(古墳前期)、土器片13点(不明)	1段下げで消滅
1021	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　2点(不明)	
1022	柱穴状遺構	SP	8世紀以降	須恵器高台付壺(8世紀前半)、須恵器高台付坏(7世紀末～8世紀前半)、甑取手、土器小片　多(不明)	
1023	柱穴状遺構	SP	古代以降	須恵器壺口縁、土器片　3点(不明)	

1024	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　1点(不明)	
1025	柱穴状遺構	SP	弥生時代中～後期？	甕(弥生時代中～後期)、土器片　6点(弥生時代？)	
1026	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　1点(不明)	
1027	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　23点(不明)	
1028	攪乱		現代	白磁碗(古代)、須恵器甕、甑取手、甕(不明)、器台、土器片(不明)-多	
1029	溝	SD	近世？	瓦(近世以降)、土師椀(古代)、須恵器高台付坏(古代)、須恵器甕、須恵器坏蓋、甑取手、土師甕(古墳時代前期)、大型壺(古墳時代前期)、器台(弥生時代終末～古墳時代前期・弥生時代)、小型丸底壺古墳時代前期)、甕棺(弥生時代後期・中期)、壺(弥生時代中期中頃～後半・弥生時代後期、古墳時代前期)、袋状口縁壺(弥生時代後期・中期)、大型広口口縁壺(弥生時代中期)、高坏(弥生時代中期、弥生時代後期)、甕(弥生時代中期中頃、・後期、古墳時代前期)、高坏(弥生時代後期中頃)、鉢(弥生時代)、丹塗り土器片(弥生時代)、手づくね椀、縄文土器(前期)、不明土器片-多、砥石(砂岩)、石包丁、円礫(安山岩)、	甕棺や大型壺などの破片を多く含む
1030			不明	砥石(砂岩)、高坏？、器台？、壺(弥生時代)、土器片	
1031	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　11点(不明)	
1032	溝	SD	不明	土器片　9点(不明)	
1033	攪乱		現代	陶器(現代)、須恵器甕、須恵器坏蓋、器台(古墳時代初頭)、甕(弥生時代後期)、高坏、土器片(不明)-多、	
1034	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　1点のみ(不明)	
1035	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　4点(不明)	
1036	柱穴状遺構	SP	不明	壺(弥生時代中～後期)、土器小片　20点(不明)	
1037	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　4点(不明)	
1038	不明		不明	土器片　1点のみ(不明)	
1039	柱穴状遺構		古墳時代以降	甑取手、　土器片　3点(不明)	
1040	土坑	SK	現代	コンクリート片、須恵器(坏か)、土器片20点(弥生時代～古墳時代)	
1041	溝	SD	不明	土器小片　17点	1064と同じ
1042	柱穴状遺構	SP	古墳時代後期～古代	須恵器片(不明)、土器片　2点	
1043	土坑	SK	古墳時代前期	器台 1点(古墳時代前期)、甕(弥生時代後期～古墳時代前期)、器台(弥生時代)、高坏(弥生時代中期)、壺(弥生時代後期)、土器片(不明)	
1044	柱穴状遺構	SP	古代以降	須恵器片　1点(古代？)、土器小片　10点(不明)	
1045	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　7点(不明)	
1046	柱穴状遺構	SP	6世紀以降	須恵器坏蓋(6世紀　ヘラ記号有り)、土器小片　20点(不明)	
1047	柱穴状遺構		不明	土器小片　14点(不明)	
1048	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　11点(不明)	
1049	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　6点(不明)	
1050	攪乱		現代	器台(弥生時代？)、土器片　9点(不明)	攪乱
1051	溝	SD	不明	高坏(弥生時代？)、　土器小片　23点(不明)	
1052	柱穴状遺構	SP	古代以降	須恵器坏蓋(7世紀後半)、土器片　14点(不明)	
1053	土坑	SK	古墳時代後期？	須恵器坏蓋、須恵器高坏(古墳時代)、高坏(古墳時代前期)、椀(弥生時代後期中頃)、袋状口縁壺(弥生時代後期)、甕(弥生時代後期・不明)、磨製石斧、スクレイパー、不明土器片(大型壺か)	貯水施設？
1054	土坑	SK	古代以降	須恵器器台、須恵器坏(7～8世紀)、須恵器坏(6世紀中頃)、土器片　30点(不明)	
1055	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　4点	
1056	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　3点	
1057	柱穴状遺構		弥生時代後期	高坏(弥生時代後期)、甕(弥生時代後期？)、土器片、　縄文土器(前期・滑石)、サヌカイト　2点	
1058	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　2点	
1059	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　4点	
1060	柱穴状遺構	SP	6世紀	須恵器坏蓋、土器小片	
1061	柱穴状遺構	SP	不明	器台(不明)、高坏？、土器小片-多	
1062	柱穴状遺構	SP	不明	須恵器片、甑取手、土器小片－多	
1063	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　26点	
1064	溝	SD	不明	土器片　3点	1041と同じ
1065	土坑？		弥生時代中期？	甕(弥生時代中期)、土器小片	SK1053の一部？
1066	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　9点	
1067	柱穴状遺構	SP			
1068	柱穴状遺構	SP			
1069	柱穴状遺構	SP	不明	甕(弥生時代？)、土器小片　9点	
1070	柱穴状遺構		弥生時代　？	土器小片　7点　(弥生時代？)	
1071	柱穴状遺構	SP	不明	鉄滓　1点　、土器片　9点(不明)	
1072	柱穴状遺構	SP	古墳時代以降	土師甕(古墳時代前期)、土器片　多(不明)	
1073	柱穴状遺構	SP	弥生時代中期～古墳時代？	土器小片　9点(弥生時代中期～古墳時代か)	
1074	柱穴状遺構	SP	古墳時代　？	土器片(弥生時代～古墳時代？)	
1075	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片(古墳時代前期を主とする)	
1076	柱穴状遺構	SP	弥生時代～古墳時代	土器小片　13点(弥生時代～古墳時代)	
1077	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　約40点(弥生時代～古墳時代か)	
1078	柱穴状遺構	SP	弥生時代～古墳時？	土器片　多(弥生時代～古墳時代か)	
1079	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　14点(不明)	
1080	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　4点のみ(不明)	
1081	柱穴状遺構	SP	不明	土器片なし	
1082	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　多　(弥生土器を主とする)	
1083	柱穴状遺構	SP	不明	甕(弥生時代後期)、土器小片(弥生時代後期～古墳時代)　9点　、　黒曜石	
1084	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　11点(弥生～古墳か)	
1085	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　3点	
1086	柱穴状遺構	SP	弥生時代後期～古墳時代前期	土器片(弥生時代後期～古墳時代前期)	
1087	柱穴状遺構	SP	弥生時代後期？	甕(弥生時代後期後半)、壺(弥生時代後期)、丹塗り土器(弥生時代中～後期)、土器小片－多	
1088	柱穴状遺構		不明	土器小片　20点	
1089	柱穴状遺構	SP	不明	土器片1点のみ(弥生土器か？)	
1090	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　2点(1点は古墳時代か)	
1091	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　1点のみ	
1092	柱穴状遺構	SP	弥生時代後期？	壺口縁(弥生時代後期)、土器片　2点	
1093	柱穴状遺構	SP	不明	土器片－多、黒曜石、サヌカイト	土器片は弥生時代～古墳時代前期。
1094	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　34点	
1095	柱穴状遺構	SP	不明	壺(弥生時代中期～後期)、土器片　2点	
1096	柱穴状遺構	SP			
1097	柱穴状遺構	SP	不明	甕　(弥生時代中期)、壺(不明)、器台(不明)、土器小片	
1098	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　5点、　石(石英長石斑岩か)	
1099	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　7点	
1100	溝残欠？	SD	不明	須恵器甕胴部、須恵器坏、須恵器壺口縁？、壺底部(弥生時代後期中頃)、土器小片－多、黒曜石　2点、　サヌカイト　2点	
1101	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　4点	
1102	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　1点のみ	
1103	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　2点	
1104	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片(弥生時代～古墳時代か)	
1105	柱穴状遺構	SP	弥生時代後期？	壺(弥生時代後期)、袋状口縁壺(弥生時代中～後期)、高坏(弥生時代中～後期)、土器片(不明)	
1106	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　11点	
1107	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　3点(弥生時代～古墳時代)	
1108	柱穴状遺構		不明	土器片　2点(1点は弥生時代か)	
1109	柱穴状遺構	SP	不明	土師甕(古墳時代前期)、壺(弥生時代後期)、土器小片－多	
1110	柱穴状遺構	SP	古代以降	須恵器小片、土師甕、壺　(古墳時代か)、土器小片－多	土器片多いが、ほとんどが時期・器種不
1111	柱穴状遺構	SP	不明	壺　(弥生時代中～後期)、土器小片　(6点)	
1112	柱穴状遺構	SP	不明	土師甕　(古墳時代前期)、土器片　8点	
1113	土坑	SK	不明	土器小片　14点　(不明)	
1114	攪乱		現代	土器片　7点	
1115	柱穴状遺構	SP	不明	土器小片　9点　(不明)	
1116	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　4点	
1117	柱穴状遺構	SP	不明	土器片　7点　(不明)	
1118	縄文河川			縄文土器片　(前期)	黄灰褐色シルト層下層
1119	河川遺物集中部分		不明	焼粘土塊　1点	〃
1120	河川遺物集中部分				〃
1121	縄文河川西端窪み		不明	縄文土器 7点　(深鉢　前期　少なくとも 3個体分)	〃
1122	河川		不明	土器片　8点　(縄文時代前期か)、サヌカイト剥片	〃
1121・1123				土器片(多　全て縄文土器　前期)	〃

Ⅲ　中村町５次調査の黒曜石石器群について

福岡市教育委員会埋蔵文化財第２課　板倉　有大

本調査出土の黒曜石石器群は、シルト層の上層出土と下層出土に分けられる。上層と下層の石器群の原石・石核・剥片のサイズを比較したのが第29図である。下層石器群が１辺５cm以上の一群を含むのに対し、上層石器群は４cm以下に収まるという明瞭な法量差が認められる。伴出土器から下層石器群は縄文時代前期後半、上層石器群は弥生時代を主体とする時期である。上層石器群への下層石器の混入もみられるが、量は多くはないと考える。

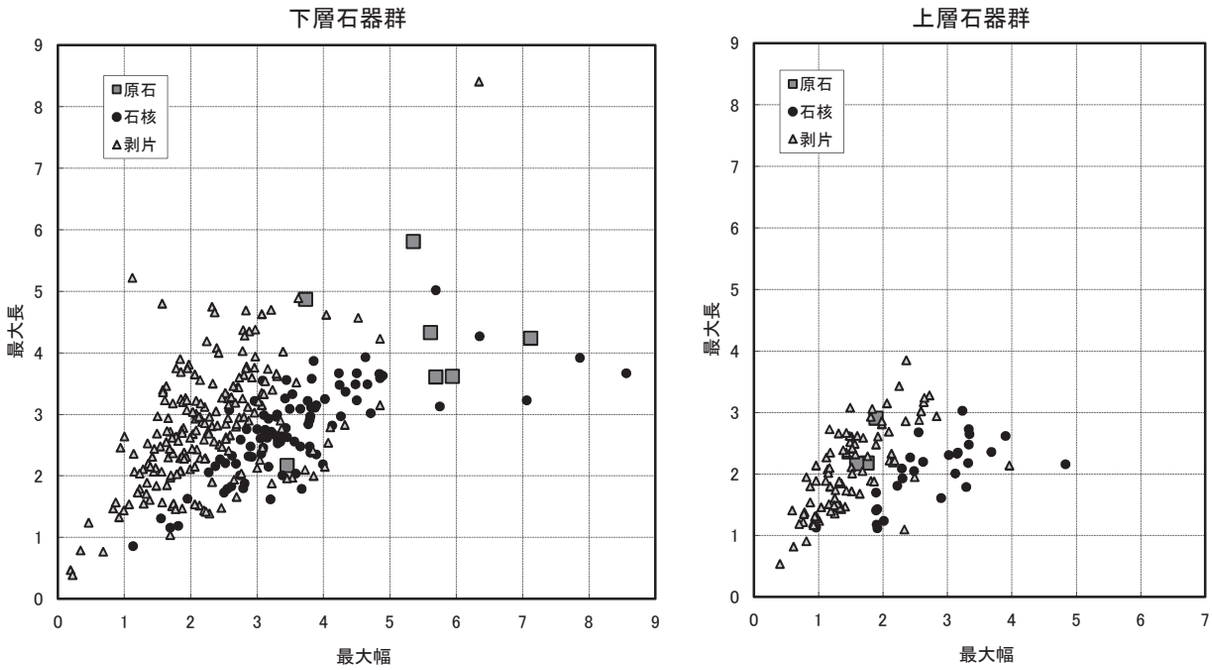
表４に下層・上層石器群の器種組成を示す。下層石器群は総数334点、総重量3728.4gが出土した。原石・石核・剥片等の石器素材が90.7％を占める。１割程度の剥片石器については、打製石鏃（うち未成品１点）、尖頭状石器（未成品）などの狩猟具（19％）と石錐・楔型石器・スクレイパー・二次加工剥片・使用痕剥片などの軟質物（草木・皮・骨など）加工具（81％）で構成される。上層石器群は総数139点、総重量424.63gが出土した。石器素材が87.8％を占め、剥片石器は下層石器群ほど加工具が目立たず、表採資料も含めて石鏃が多い。以下では、下層石器群の主要石器について報告を行う（第30・31図）。下層石器群の未図化資料については計測表（表５）を参照されたい。

346～349は打製石鏃で、二等辺三角形凹基鏃（346・347）、二等辺三角形有脚鏃（349）、正三角形有脚鏃（348）に分類でき、前後面への丁寧な押圧剥離で成形される。350は石錐で、１辺３～４cmの剥片の側辺末端を刃部に加工し、基部は剥片形状をいかす。刃部の摩滅等は顕著でない。351は光沢のない灰黒色黒曜石製の石錐で、小型剥片の打点側を刃部とし、基部には片面調整を施す。刃部は摩滅している。352は下辺を片面二次加工した掻器で、刃先角は55度を測る。刃端部に片面微細剥離が認められる。前面には不純物が多くみられ、後面・右面には角礫自然面を残す。前面・左面・上面に加熱によると考えられる破裂痕がみられる。353は縦長剥片の下辺を片面二次加工した掻器で、刃先角は60度を測る。刃端部に片面微細剥離が認められる。354は円盤状石核で、後面には礫面を残す。剥離面の長さは２～３cm、剥離角は70～90度で、交互剥離を基本的な剥離進行とする。355は楔形の小型石核で、剥離面の長さは２cmほど、剥離角80～90度を測り、並列剥離を基本とする。356は幅広な剥片で、平坦打面からの剥離角は130度を測る。光沢のある灰黒色黒曜石である。

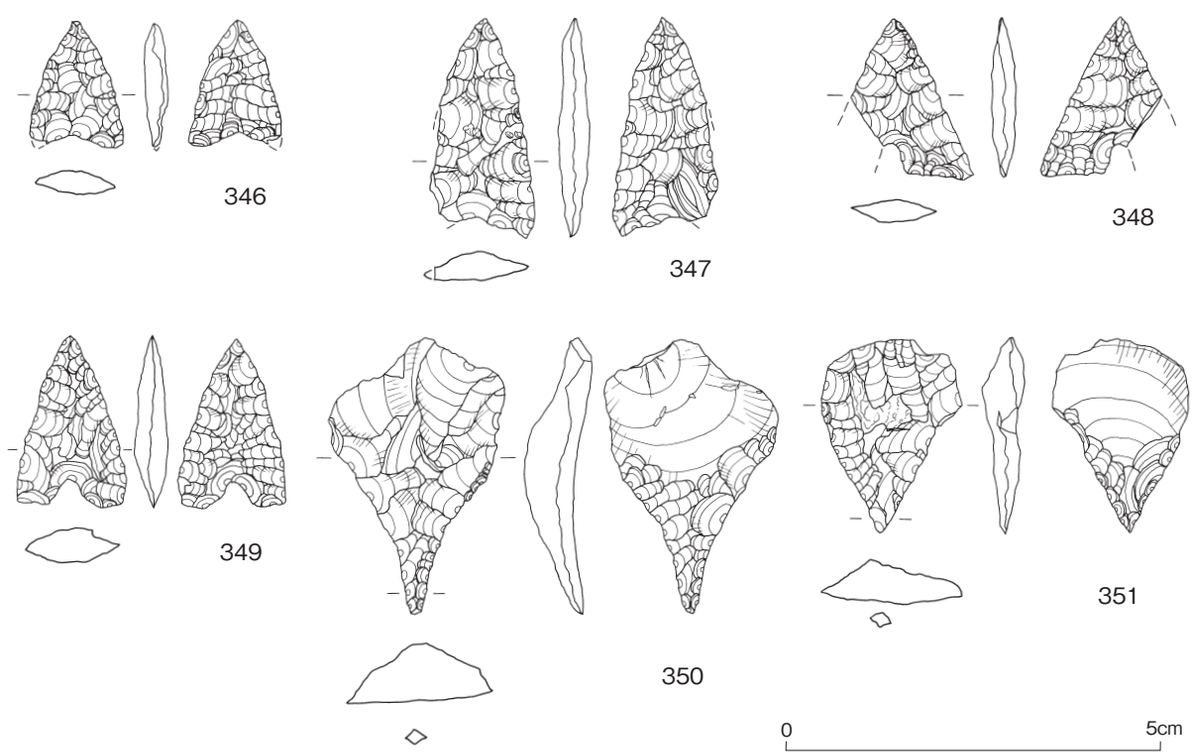
その他、下層石器群の石器素材について整理する。原石は１辺３～７cm、石核は１辺１～９cm、剥片は１辺0.2～９cmの範囲を示し、１辺３～５cmの中型石核・剥片を主体としながら、６～９cmの大型品も残されている。大半は腰岳産黒曜石であるが、針尾島や牟田の灰黒色黒曜石や姫島産黒曜石など腰岳産以外の黒曜石も１割に満たない程度に含まれる。１辺２cm以上の剥片の長幅比平均値は1.33とやや縦長で、長さ４cm・幅３cmほどの幅広剥片の作出が典型と言える。石核は円盤状・楔形・多面体がみられ、剥片剥離前調整は頭部調整程度で、入念な打面調整は行わない交互剥離を基本とする。また、内部から破裂して割れた礫・剥片が１割に満たない程度に出土しており、加熱による素材分割と考えられる。

表４　黒曜石石器群の器種組成

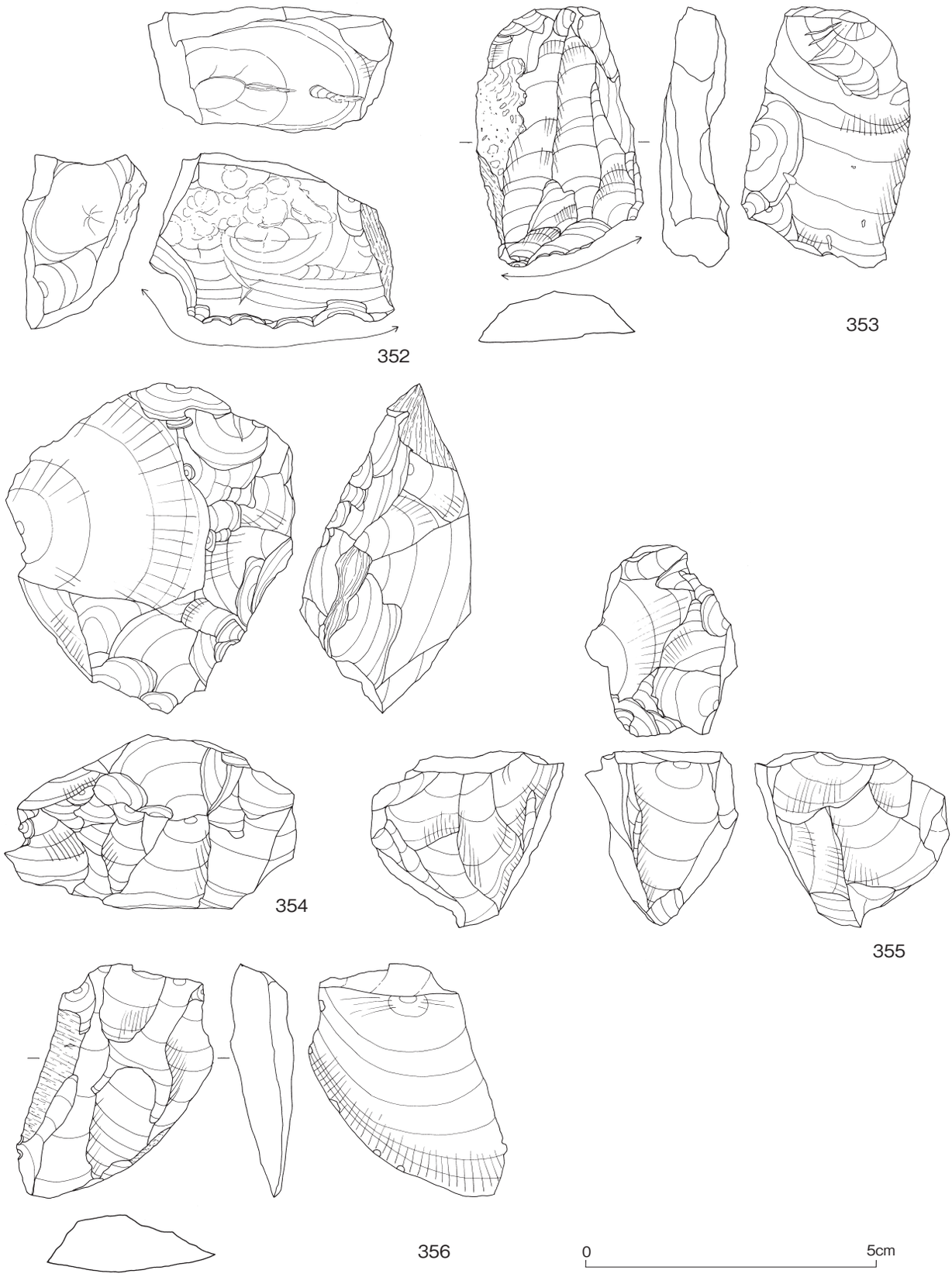
		石鏃	尖頭状石器	石錐	楔型石器	スクレイパー	二次加工剥片	使用痕剥片	原石	石核	剥片	計	総重量g
下層	点数	5	1	2	4	7	6	6	7	93	203	334	3728.4
	%	1.5	0.3	0.6	1.2	2.1	1.8	1.8	2.1	27.8	60.8	100.0	
上層	点数	11	－	－	－	－	2	4	3	28	91	139	424.63
	%	7.9	－	－	－	－	1.4	2.9	2.2	20.1	65.5	100.0	



第29図　黒曜石石器群の最大長・最大幅



第30図　縄文河川出土遺物実測図21（1/1）



第31図　縄文河川出土遺物実測図22（1/1）

表５　下層黒曜石石器群計測表

＊14～194、340～352：Ⅰ区、195～261、353：Ⅱ区、262～339：Ⅲ区　　＊最大長・幅・厚はcm、重量はｇ

No	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考	No	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考
14	石鏃	1.7	1.26	0.33	0.5	実測図346	106	剥片	3.35	3.07	0.83	8.5	
15	石鏃	2.9	1.38	0.43	1.4	実測図347	107	剥片	3.54	3.12	0.88	9.2	牟田ob
16	石鏃	2.1	1.56	0.28	0.7	実測図348	108	剥片	3.26	2.56	0.65	5.6	
17	スクレイパー	5.22	2.43	1.19	13.1	掻器	109	剥片	3.75	2.83	1.16	8.1	
19	石錐	2.55	1.84	0.55	1.6	実測図351	110	剥片	4.37	2.79	1.5	13.2	
20	石錐	3.68	2.33	0.78	3.9	実測図350	111	剥片	4	2.42	0.91	8.7	
25	尖頭状石器	3.27	1.52	0.4	1.9	末端調整。未成品	112	剥片	2.79	4.1	1.14	12.3	
30	石核	3.23	7.06	1.78	33.9	灰黒色ob	113	剥片	2.41	3.84	1.14	10.3	
31	石核	3.67	4.23	2.65	41.1		114	剥片	1.96	3.45	1.35	7.6	
32	石核	3.09	3.65	2.74	28.1		115	剥片	3.44	2.72	1.39	11.2	
33	石核	2.68	3.38	2.29	19.5		116	剥片	2.51	2.43	0.42	2.1	
34	石核	3.67	8.56	2.22	86		117	剥片	2.88	2.17	0.87	5	
35	原石	4.87	3.73	3.54	74.8	亜円礫ob	118	剥片	2.54	4.07	1.03	6.9	
36	剥片	4.57	4.52	1.73	29.1		119	使用痕剥片	3.41	2.08	0.67	3.3	掻器利用
37	石核	2.97	4.26	2.16	21	姫島ob	120	剥片	3.16	2.57	0.82	5.3	
38	石核	3.87	3.85	2.07	25.3		121	二次加工剥片	3.26	2.79	1.32	8.7	晶子筋目立つ
39	石核	2.63	3.45	2	22.1		122	剥片	2.9	2.87	1.13	6.7	
40	石核	3.22	3.76	2.63	27.6		123	剥片	2.95	2.73	0.68	3.9	
41	石核	3.48	4.24	2.54	29.1		124	剥片	3.81	1.97	1.21	5.4	
42	石核	2.68	3.24	2.48	17.7		125	剥片	2.66	2.59	0.5	2.8	
43	原石	4.24	7.12	3.85	133.1	亜円礫ob	126	剥片	3.01	2.08	0.99	4.4	
44	石核	2.21	2.52	1.23	7.9		127	剥片	3.18	1.73	0.62	3.4	
45	原石	2.17	3.45	2.14	16.9		128	剥片	2.96	2.28	0.74	4	
46	石核	2.96	3.29	2.3	23.1	熱破砕	129	剥片	3.27	1.92	1.03	5.1	
47	剥片	2.9	3.35	1.22	12.5	亜円礫ob	130	剥片	3.25	1.85	0.79	3.8	
48	使用痕剥片	3.39	1.55	0.88	3.9	石錐利用？	131	剥片	2.56	2.35	0.69	3.1	
49	剥片	3.78	2.84	1.44	16.3		132	剥片	2.94	2.56	0.65	5	
50	石核	3.15	3.89	2.9	25.2		133	剥片	2.47	2.47	0.74	5.2	
51	石核	2.56	3.56	1.91	19.4		134	剥片	2.93	2.07	0.73	4.1	
52	石核	3.22	2.96	1.44	14.2		135	剥片	2.73	2.26	2.67	4	
53	石核	3.07	2.58	2.15	14.2		136	剥片	3.07	1.94	0.74	4.9	
54	石核	1.83	2.61	1.58	9.6		137	石核	1.63	1.95	0.78	2	
55	石核	2.32	2.87	2.11	10.3		138	剥片	3.05	2.38	0.73	3.8	
56	石核	2.16	2.37	1.59	7.7		139	剥片	2.39	1.7	0.83	2.7	
57	石核	2.27	2.44	0.88	4.2		140	剥片	2.74	1.86	0.55	2.8	
58	石核	3.02	4.71	1.21	18.4		141	石核	2.31	2.92	1.13	6.7	
59	石核	3	3.3	2.6	21.2	実測図355	142	剥片	3.75	1.78	0.6	3.8	
60	石核	2.84	3.77	2.33	28.3		143	剥片	2.74	2.08	1.36	6.1	
61	石核	2.01	3.38	1.82	13.7	熱破砕	144	剥片	2.86	2.21	0.72	3.4	
62	石核	2.48	2.9	1.99	16.8		145	剥片	2.11	1.99	0.57	2.3	
63	石核	1.79	2.55	1.67	8.5		146	石核	2.19	3.99	1.12	4.4	
64	石核	1.8	2.79	1.5	8.6		147	剥片	3.23	1.61	0.8	3.4	
65	使用痕剥片	3.72	3.48	1.55	17.4	掻器利用	148	剥片	3.9	1.84	0.73	3.4	
66	スクレイパー	3	3.97	1.04	13.1		149	剥片	5.22	1.12	0.8	3.5	
67	剥片	3.52	3.59	0.85	10.4		150	剥片	2.26	3.04	0.74	4.2	
68	剥片	3.74	3.16	1.36	12.3		151	剥片	3.2	1.88	1.02	3.8	
69	スクレイパー	3.77	3.44	1.18	11		152	剥片	3.56	2.14	0.66	3.2	
70	石核	2.78	3.43	1.16	10.3	漆黒ob	153	剥片	3.46	1.63	0.66	2.6	
71	剥片	2.83	4.32	0.53	6.5		154	剥片	2.97	1.5	0.87	4.2	
72	剥片	3.12	2.86	0.68	4.1		155	剥片	1.66	2.69	0.82	3.1	
73	剥片	3.29	2.56	0.75	5.6		156	剥片	2.3	1.66	0.81	2.1	
74	石核	2.01	2.74	0.98	5.9		157	剥片	2.72	1.69	0.47	1.6	
75	石核	1.62	3.2	1.07	3.8		158	剥片	2.37	1.73	0.8	2.5	
76	剥片	2.68	2.03	0.84	4.4		159	剥片	2.64	1.78	0.62	1.8	
77	剥片	1.97	3.53	0.56	4		160	剥片	2.69	2.27	0.39	1.1	
78	石核	4.27	6.35	1.2	31.2		161	剥片	2.29	1.87	0.86	3.1	
79	石核	2.2	2.68	0.11	6.4		162	剥片	2.08	1.85	0.39	1.3	
80	スクレイパー	3	4.2	1.84	26.1	実測図352。熱破砕	163	剥片	2.53	1.35	1.14	2.5	
81	剥片	3.62	3.3	0.77	10		164	剥片	2.29	1.84	0.47	1.8	
82	剥片	3.15	3.07	1.19	11.3		165	剥片	2.08	1.84	0.66	2.2	
83	スクレイパー	4.45	2.85	0.89	13.3	実測図353	166	剥片	2.7	1.87	0.24	1.1	
84	剥片	2.85	2.53	0.68	4.2		167	剥片	1.9	2.32	0.51	1.9	
85	剥片	2.29	2.22	0.63	2.9		168	剥片	1.52	2.13	0.5	1.3	
86	剥片	3.15	4.85	0.64	8.7		169	剥片	2.62	1.72	0.43	1.6	
87	楔型石器	1.83	1.33	0.66	1.8		170	剥片	2.07	1.56	0.51	0.9	
88	剥片	4.02	3.39	1.37	14.7		171	剥片	1.71	1.33	0.48	0.9	
89	剥片	4.38	2.97	1.31	18.3		172	剥片	1.57	1.57	0.4	0.8	
90	石核	2.04	3.58	2.09	15.4		173	剥片	1.61	1.38	0.88	1.6	
91	剥片	4.08	2.39	0.71	5.7		174	剥片	1.42	2.22	0.47	1	
92	剥片	1.94	2.65	0.78	3		175	剥片	1.44	2.2	0.17	0.4	
93	剥片	3.44	2.7	0.93	6.4		176	剥片	1.97	1.69	0.29	0.7	
94	剥片	2.77	3.37	0.87	5.4		177	剥片	1.55	1.29	0.36	0.6	
95	剥片	2.78	1.89	0.69	3.4		178	剥片	1.79	1.23	0.35	0.5	
96	石核	1.88	2.81	1.22	5.9		179	剥片	1.44	0.99	0.59	0.6	
97	石核	3.93	4.63	1.2	18.6	熱破砕	180	剥片	1.47	1.87	0.49	0.9	
98	石核	3.13	5.75	2.08	23.1		181	剥片	1.51	1.72	0.39	0.9	
99	剥片	4.62	4.04	1.29	24.6	亜円礫ob	182	剥片	1.48	2.46	0.59	2	
100	石核	3.49	4.66	1.44	18		183	剥片	2.46	0.94	0.41	0.7	
101	石核	2.72	3.21	1.42	14.4		184	剥片	1.54	1.07	0.38	0.7	
102	剥片	4.35	2.88	1.01	8.8		185	剥片	1.55	1.74	0.71	1.5	
103	剥片	3.4	3.23	0.81	8.5		186	剥片	2.11	1.28	0.3	0.7	
104	剥片	4.19	2.24	1.99	10		187	剥片	1.89	1.34	0.34	0.7	
105	剥片	2.8	2.68	0.95	6.5		188	剥片	1.04	1.69	0.54	0.6	

No	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考	No	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重　量	備　考
189	剥片	1.33	0.92	0.49	0.6		270	原石	5.81	5.35	5.04	179.6	
190	剥片	2.64	1	0.27	0.7		271	石核	3.49	4.48	3.05	52.9	熱破砕
191	剥片	2.36	1.14	0.25	0.5		272	剥片	4.89	3.62	1.81	20.6	
192	剥片	1.47	0.83	0.31	0.4		273	石核	2.35	3.89	1.31	10.6	熱破砕
193	剥片	1.57	0.87	0.16	0.1		274	石核	3.12	3.81	1.73	20.1	
194-1	剥片	1.24	0.46	0.22			275	石核	3.55	3.08	2.1	22.5	
194-2	剥片	0.77	0.68	0.1			276	石核	3.67	4.5	1.8	25.3	牟田ob
194-3	剥片	0.79	0.34	0.21			277	石核	3.58	3.82	2.01	27.5	
194-4	剥片	0.47	0.19	0.5			278	石核	2.99	3.1	2.56	26.6	
194-5	剥片	0.39	0.22	0.13			279	石核	2.82	4.13	2.27	26.3	
195	石鏃	2.24	1.45	0.45	0.8	実測図349	280	石核	2.59	2.75	2.53	24.4	
196	剥片	8.41	6.34	2.23	93.4		281	石核	3.37	4.33	1.5	18.9	
197	石核	2.76	2.84	2.42	24.5		282	石核	2.73	3.14	1.98	18.1	
198	石核	3.25	4.02	2.38	23.6		283	石核	2.46	3.09	1.26	12.3	
199	石核	2.64	3.32	2.61	29.2		284	石核	2.56	3.35	2.11	15.8	
200	石核	3.09	3.49	2.3	23.9		285	石核	2.75	3.12	2.4	19	
201	石核	3.33	3.53	2.87	24.4		286	石核	2.15	3.17	1.83	14	
202	石核	2.91	3.79	1.16	13.8		287	石核	2.62	3.15	1.27	9.6	
203	石核	2.97	3.8	1.19	15.1		288	使用痕剥片	3.5	1.69	0.48	2.3	削器利用
204	石核	3.26	3.42	1.74	17.8		289	スクレイパー	3.75	2.67	1.01	8.4	
205	石核	2.48	3.65	1.79	12.1		290	二次加工剥片	2.88	2.29	0.82	5.1	
206	石核	2.93	3.17	2.46	20.6		291	剥片	2.32	1.87	0.82	2.4	
207	石核	3.11	3.87	1.53	15.1		292	剥片	1.88	3.22	0.59	2.9	姫島ob
208	石核	2.48	3.79	1.76	12.6		293	剥片	3.75	1.95	0.51	3.2	風化強
209	石核	2.59	3.31	1.69	11.7		294	剥片	3.65	2.06	0.61	4.6	
210	石核	2.61	3.05	1.2	8.1		295	剥片	2.07	1.44	0.81	2.7	風化強
211	石核	2.76	3	0.92	7.4		296	剥片	2.31	1.42	0.33	0.9	風化強
212	石核	2.36	3.06	1.26	11		297	剥片	2.15	4.02	0.42	2.8	姫島ob
213	石核	2.06	2.27	1.77	8.1		298	剥片	2	3.85	0.67	4	
214	剥片	3.22	2.08	1.02	6.5		299	剥片	4.23	4.85	1.13	19.7	
215	石核	3.66	4.84	2.85	51.9		300	使用痕剥片	3.02	5.01	1.2	16.2	削器利用
216	石核	2.97	3.8	2.75	36.8		301	楔型石器	2.59	2.48	0.93	6.4	
217	石核	2.53	3.31	1.84	15.2		302	剥片	4.66	2.36	0.78	7.4	
218	石核	2.69	3.12	2.43	19.9		303	剥片	3.6	2.92	0.94	8.4	
219	石核	3.59	4.85	1.93	31.8	熱破砕	304	剥片	3.6	2.73	0.97	8.5	
220	二次加工剥片	3.09	2.59	0.98	6.2	掻器利用	305	剥片	3.26	2.78	0.92	9.4	熱破砕
221	剥片	3.35	2.52	0.9	6.3		306	剥片	3.03	2.96	1.2	9.7	
222	スクレイパー	2.9	1.8	0.56	2.4	石鏃指向の可能性	307	剥片	2.81	2.32	0.82	4.8	
223	楔型石器	3.42	2.62	0.84	6.7		308	剥片	3.46	2.64	0.8	4.9	
224	楔型石器	2.42	1.86	0.83	3.6		309	剥片	2.6	2.53	0.96	6.9	
226	剥片	3.12	2.21	1.35	7.1		310	剥片	2.46	3.08	1.23	6.1	
227	剥片	3.21	3.02	1.34	12.6		311	剥片	3.23	1.94	1.13	6.9	
228	剥片	3.19	2.67	0.97	6.2		312	剥片	2.1	3.72	0.66	3.6	
229	剥片	2.55	1.63	0.68	1.6		313	剥片	2.04	2.76	1.14	6.4	
230	二次加工剥片	2.34	2.23	0.81	4.3		314	剥片	2.82	2.4	0.6	3.8	
231	剥片	2.38	1.9	0.72	2.4		315	剥片	2.28	1.9	1.16	4.8	熱破砕
232	石核	3.63	4.89	2.42	34.7		316	剥片	2.29	2.14	0.71	3.4	
233	剥片	3.64	2.8	1.23	11.5		317	石核	1.73	2.5	1.04	4.5	
234	剥片	3.94	2.97	0.99	10.3		318	剥片	2.96	2.12	0.66	2.8	
235	剥片	3.66	3.29	1.33	10.7		319	剥片	3.36	1.58	0.42	2.1	
236	剥片	4.69	2.83	1.03	9.4	実測図356	320	剥片	2.15	2.06	0.77	2.3	
237	剥片	3.33	3.1	0.86	6.2		321	剥片	2.84	2.69	0.57	2.8	
238	剥片	3.76	2.96	0.97	6		322	剥片	2.69	1.49	0.72	2.3	
239	剥片	4.28	2.81	1.02	7		323	剥片	2.44	2.02	0.53	1.6	
240	剥片	4.75	2.32	0.82	6.7		324	剥片	2.44	1.68	0.79	2.7	
241	剥片	3.27	2.47	0.97	6.9		325	使用痕剥片	3.11	1.48	0.4	1.6	削器利用
242	剥片	3.5	2.33	0.85	4.3		326	剥片	1.84	1.48	0.43	1.1	
243	剥片	2.63	2.53	0.63	4.1		327	剥片	2.13	1.47	0.53	1.6	
244	剥片	2.96	2.14	0.86	4.7		328	剥片	2.62	1.99	0.54	1.9	
245	剥片	2.13	3	1.07	4.6	針尾島ob	329	剥片	2.2	1.36	0.39	0.8	
246	剥片	3.04	2.03	0.33	2.2		330	剥片	2.44	1.45	0.44	1.7	
247	剥片	3.69	1.85	0.58	4.1		331	石核	1.19	1.81	1.19	2.2	熱破砕
248	剥片	2.41	2.57	0.92	4.3		332	石核	1.31	1.55	1.08	2.5	熱破砕
249	剥片	2.43	2.09	0.31	1.2		333	石核	0.86	1.13	0.77	0.8	熱破砕
250	剥片	2.73	1.64	0.45	1.6		334	剥片	2.15	1.39	0.24	0.7	
251	剥片	2.31	1.93	0.55	2.9		335	石核	1.16	1.69	0.82	1.2	
252	剥片	2.94	1.66	0.51	2.5		336	剥片	2.04	1.23	0.55	0.9	
253	剥片	2.59	2.2	0.41	1.7		337	剥片	4.03	2.78	0.68	7.3	灰黒色、風化強
254	剥片	2.48	1.54	0.45	1.7		338	剥片	3.18	2.15	0.6	3.5	灰黒色、風化強
255	剥片	3.4	1.58	0.39	1.6		339	剥片	2.57	1.81	0.47	1.8	灰黒色、風化強
256	剥片	2.01	1.7	0.52	1.7		340	剥片	4.63	3.07	1.94	17.2	
257	剥片	1.46	1.77	0.72	1.4		341	剥片	3.28	2.61	0.72	5.5	
258	剥片	1.85	1.64	0.49	1.3		342	剥片	2.28	2.21	0.64	2.1	
259	剥片	2.07	1.15	0.49	0.9	針尾島ob	343	剥片	2.03	1.79	0.45	1.5	
260	剥片	1.39	2.28	0.88	2		344	石核	3.23	4.5	1.86	26.4	
261	剥片	1.54	2.06	0.34	0.7		345	石核	2.38	3.8	1.58	16	
262	石核	1.79	3.67	1.79	12.6	溶結凝灰岩？	346	石核	2.33	2.62	1.97	16.1	
263	二次加工剥片	3.34	1.69	0.73	3.7		347	剥片	4.8	1.57	0.58	4.4	風化強
264	石核	3.92	7.86	2.46	65.8		348	スクレイパー	3.91	3.28	1.02	12.4	
265	原石	3.61	5.69	3.24	65.8	熱破砕	349	剥片	1.42	2.23	0.77	1.9	
266	原石	3.62	5.94	3.12	67.6	熱破砕	350	剥片	4.7	3.21	1.44	18	
267	石鏃	1.95	1.94	0.33	1.2	正三角形鏃未成品	351	剥片	2.96	2.8	0.88	7	
268	石核	5.02	5.69	2.9	58.4	実測図354	352	剥片	1.73	1.2	0.18	0.4	針尾島ob
269	石核	3.56	3.44	3.26	50.8		353	原石	4.33	5.61	3.13	94.7	

Ⅳ　中村町５次調査の旧石器時代資料について

福岡市教育委員会埋蔵文化財第２課　吉留　秀敏

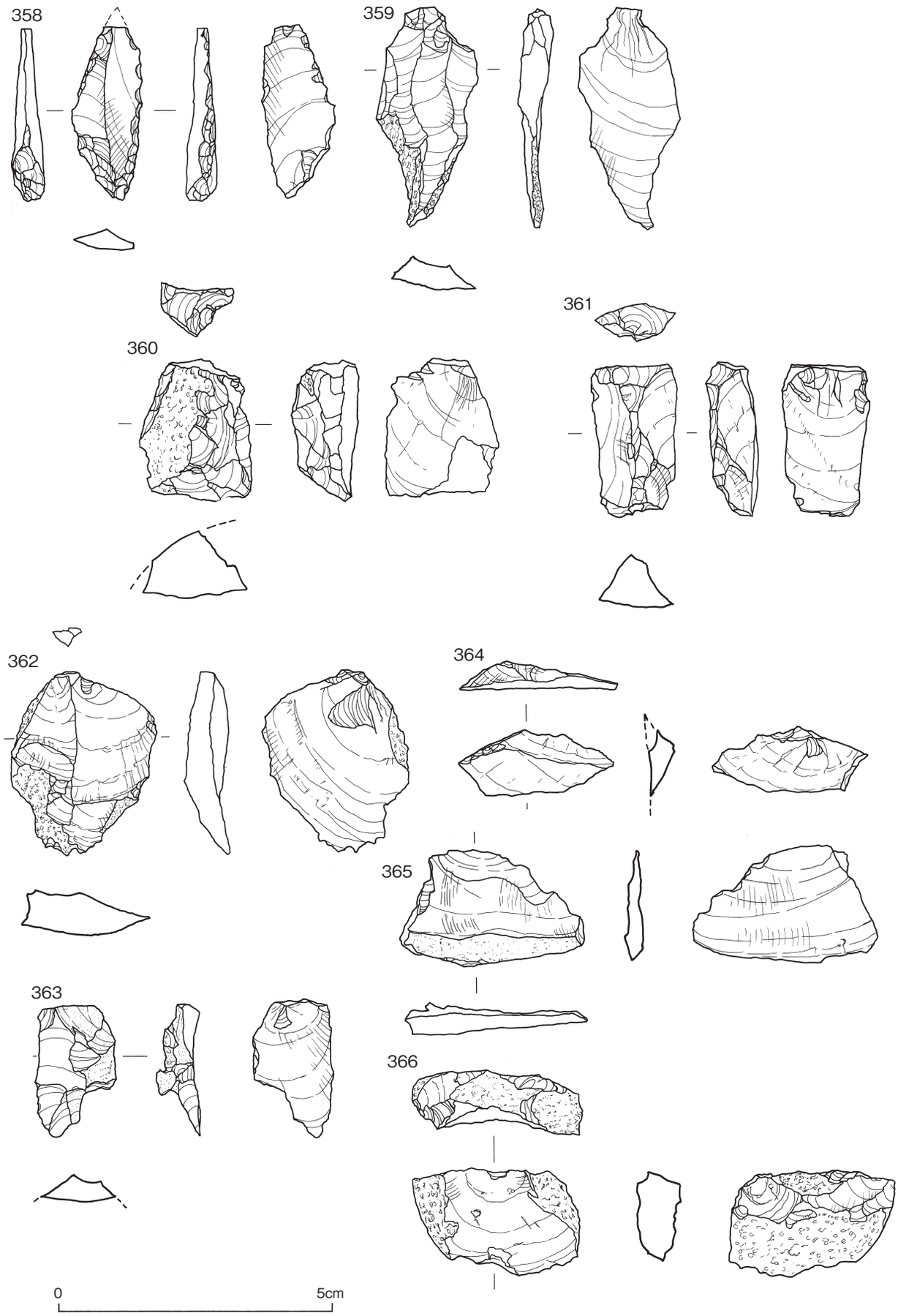
本調査では22点の旧石器時代から縄文草創期に所属する石器類が検出された。何れも表面の風化や摩滅が著しく、観察や実測困難なものもある。ここでは砕片等を除き17点を報告する。

358は小型のナイフ形石器である。打面両設の縦長剥片の打点部を基部とした二側縁調整である。先端を欠損するが、復元長約3.5cm、幅1.3cmである。形態と基部調整から「茂呂型」に類似する。359は縦長剥片であり、先端両側に礫面があり、角礫の隅部から剥離が開始されたことがわかる。360～363は寸詰まりで厚手の縦長剥片であり、360は稜部からの調整があり「クレスト技法」の手法が用いられている。361～363には片側に礫面があり、石核調整を兼ねていたとも考えられる。364、365は横長剥片であり、366は横長剥片石核である。このうち、364は安山岩(サヌカイト)製で背面に盤状剥片の素材面を残した連続剥離が予測できる剥片であり、「瀬戸内技法」との関連も指摘される。366は扁平な黒曜石小礫に僅かな打面、石核調整を施し、少数の横長剥片を剥離したものであり、連続性は考え難い。368は細石刃核の母核(コア・ブランク)とみられ、作業面には打痕が多く認められる。369、370は不整形ながら細石刃核であり、背面や側面に礫面が残るものであり、「野岳・休場型」に含めるべきか。371～373は細石刃状の剥離が認められた不定形剥片である。作業面の再生剥片か。何れにも礫面、主剥離面が残り、小礫や分割礫を素材としていることがわかる。371、372は細石刃核打面形成時の削片（スポール）である。二点共に両面加工品から剥出されており、第一次削片(ファースト・スポール)であるにも関わらず、背面が平坦調整である。母核が稜線を有する断面凸レンズ状の「福井型」の形態ではない。断面は逆三角形に近く、調整された甲板面を有する船底形の母核形態と推定される。

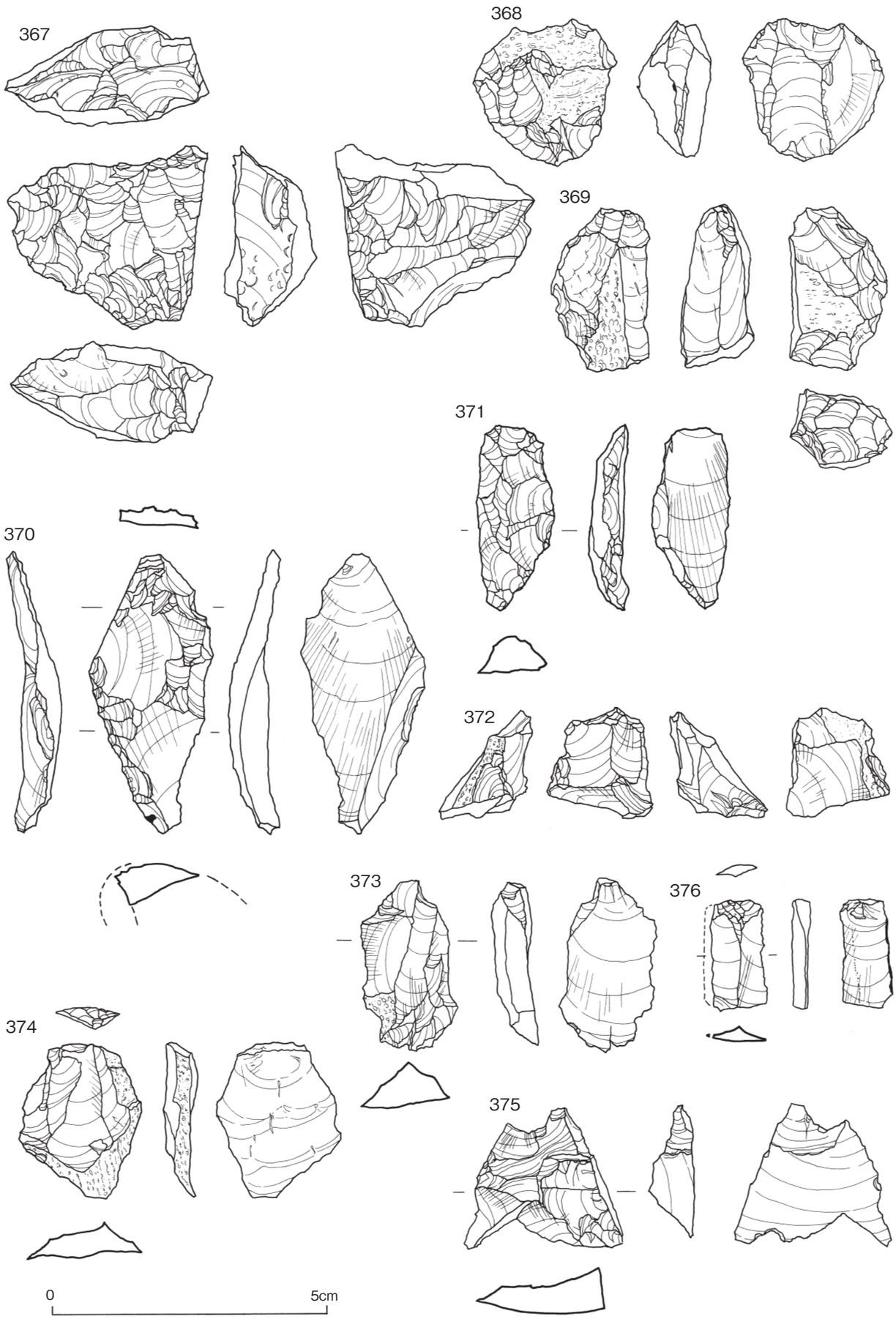
今次調査では少量の旧石器時代の石器類が出土した。何れも更新世堆積物内に安定して包含されたものではなく、大半は縄文時代遺物と共にシルト層下部の粗砂層内に拡散して出土した。調査地点は標高約10mであり、周囲から複数の丘陵が集約し、若久川などの小河川も合流する位置にあたる。更新世以降の温暖化による沖積地形成で、こうした場所には三角州的な堆積物や包含層が形成されたとみられる。周辺に存在した旧石器時代遺跡もさまざまな要因で破壊され、遺物がこうした包含層内に混在したと考えられる。しかし、上記したようにその内容はさまざまな時期の多様な石器群の分散、混在ではなく、ある程度のまとまりが認められるものであった。こうした出土状況は二次的埋没とはいえ本来の本地域の人為活動の一面を反映している可能性があろう。そのため石器群の一括性については今後も十分検討する必要がある。

ところで、石器群は少ない資料ではあるが、おおよそ新旧二時期に区分される。まず、ナイフ形石器を有する石器群であり、次に細石刃石器群である。ナイフ形石器を含む石器群には、小型の「茂呂型」類似のナイフ形石器と、縦長、横長二種の剥片剥離技術が把握できた。縦長は「クレスト技法」を用いた小型端正な縦長剥片剥離が、横長には「瀬戸内技法」の影響が残る技術が把握できた。少数の資料とはいえ、縦長、横長剥片剥離技術が異なる石器群とは考え難く、同一の石器群の技術体系と見るべきであり、こうした様相からその時期は後期旧石器後半期でも新相に近い段階と見られる。

細石刃石器群は広義の「削片系」石器群に含まれる。しかし、典型的な両面加工石器から実施される「削片系」細石刃核ではない。典型例は市内に博多区笹原２次、西区元岡３次、小田C２次調査例などがあることから、けっして地域的較差ではない。したがって本遺跡の細石刃石器群が「削片系」細石刃石器群の技術組成の一部であるとしても、そのいずれかの位置、時期にある石器群であるのか。つまり後期旧石器時代終末から縄文時代草創期前葉のどこにあたり、どういう系譜で理解されるのかなど、その評価と詳細は今後の類例を待って検討したい。



第32図　旧石器遺物実測図１（1/1）



第33図　旧石器遺物実測図２（1/1）

V　中村町遺跡第５次調査出土植物遺依存体について

1　中村町遺跡第５次調査出土葉の同定

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（株式会社パレオ・ラボ）

１．はじめに

中村町遺跡は福岡県福岡市南区野間に位置し、縄文海進期には海に面して立地していたと推定される縄文時代前期を主体とする遺跡である。第５次調査では、谷と河川が検出され、谷は現地表面から約５mの深さで標高2.5～3.0m前後、前期の河川底面は現地表面から220㎝で標高5.6m前後であった。遺物は調査区の東半分から縄文時代前期中葉から後葉（若干旧石器と早期、中期初頭を含む）の土器と石器が多量に出土した。河川中には、植物遺体が約10cmの厚さで良好に堆積した窪みが２ヵ所検出された。ここでは、XXXX から出土した縄文時代X期の葉を主体とした大型植物遺体同定を行ったので報告する。なお、同定にあたり、千葉大学園芸研究科百原新准教授と森林総合研究所能城修一氏のご教示を得た。

２．試料と方法

試料は、縄文河川（第５図1118）底面の窪みA・Bから出土した大型植物遺体759点である。大型植物遺体は層状に密集しており、その中から状態が良いものについて、福岡市埋蔵文化財センターで抽出・水洗され、１枚単位で透明フィルム中にシーリングされていた。同定は肉眼および実体顕微鏡下で行った。なお、葉は福岡市埋蔵文化財センターに保管されている。

３．結果

同定の結果、広葉樹のイチイガシ葉とアラカシ葉、シラカシ葉、ツクバネガシ葉、コナラ属アカガシ亜属葉、ブナ科雄花序、タブノキ葉、ムクノキ科葉、モチノキ葉の９分類群が見いだされた。この他に科以下の同定ができなかった不明AとBの葉、不明の冬芽があった。以下紙面の都合上、代表的な分類群の記載を行い、各分類群の写真を図版に示す。

表１　測定試料および処理

	調査区	Ⅰ区		Ⅱ区		合計	%
分類群	採取位置	赤	緑	黄	1119		
イチイガシ	葉	234	388	43	29	694	91.4%
アラカシ	葉	1	4			5	0.7%
シラカシ	葉	2	5			7	0.9%
ツクバネガシ	葉		1			1	0.1%
コナラ属アカガシ亜属	葉	13	2	7	1	23	3.0%
ブナ科	雄花序		7			7	0.9%
タブノキ	葉		4			4	0.5%
ムクノキ科	葉	2	2			4	0.5%
モチノキ	葉	1	4			5	0.7%
不明A	葉			4		4	0.5%
不明B	葉		3			3	0.4%
不明	冬芽		2			2	0.3%
合計		253	422	54	30	759	100.0%

(1)　イチイガシ *Quercus gilva* Blume 葉　ブナ科

黒褐色で、倒披針形。革質で、先端部にのみ鋭い裾歯がある。主脈は裏面に突出する。長さ49.5～131.6mm、幅14.1～49.7mm。

(2)　シラカシ *Quercus myrsinifolia* Blume 葉　ブナ科

黄褐色で、狭長楕円形。やや革質。破片だが、完形ならば先端は鋭く尖る。基部はくさび形。葉の縁全体の３/２以上に浅くてやや鋭い鋸歯がまばらにある。長さ67.0mm、幅18.6mm。

(3)　ツクバネガシ *Quercus sessilifolia* Blume 葉　ブナ科

黒褐色で、革質で厚く、完形ならば広披針形または楕円形で先は鋭く尖る。縁はほぼ全縁で、完形ならば先端に鋸歯がある。主脈は裏面に突出する。側脈は交互状。長さ86.2mm、幅25.9mm。

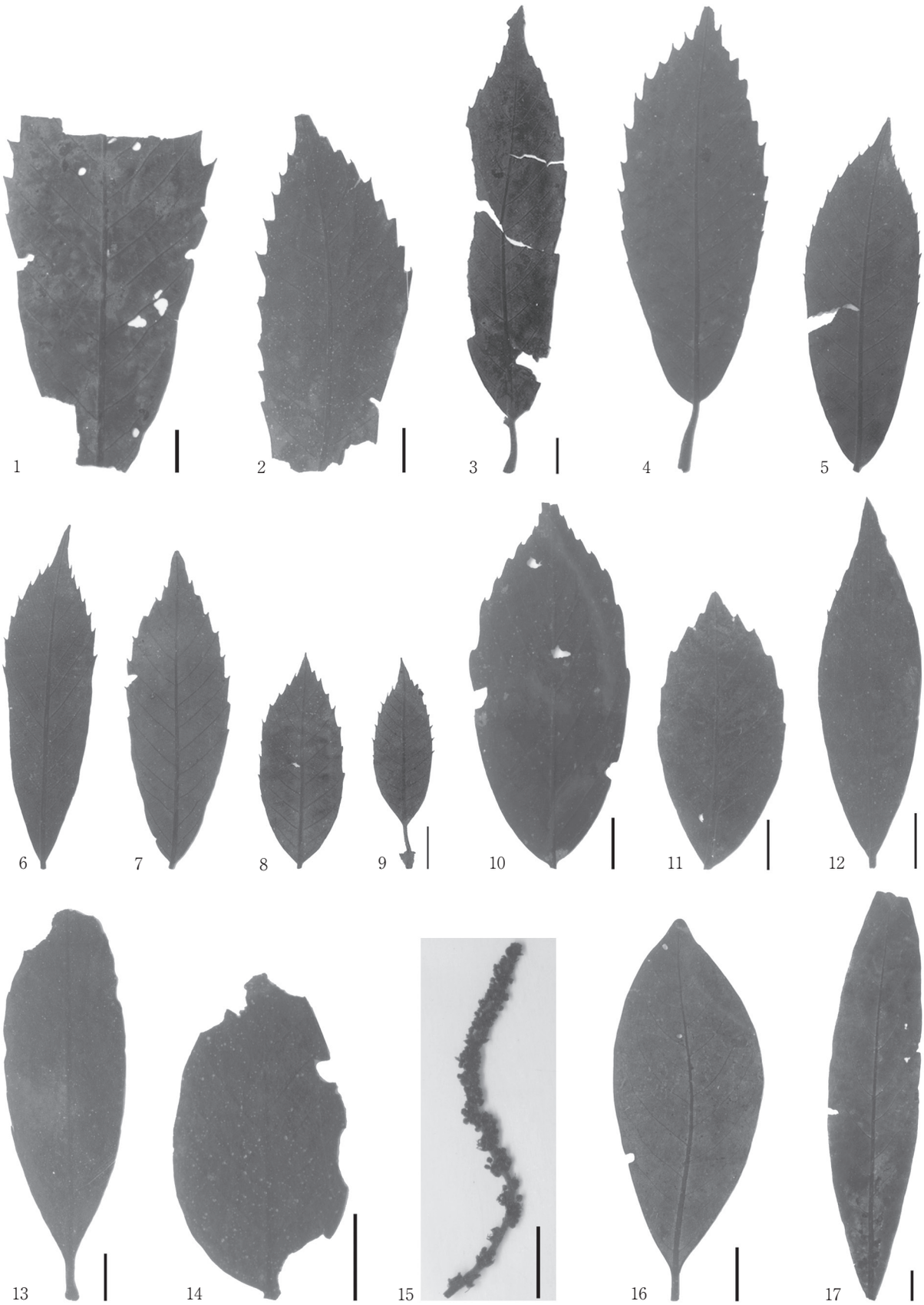


図１　中村町遺跡出土の葉(1)　　スケール 1-17:10mm

１・２. イチイガシ葉（Ⅰ区）、３. イチイガシ葉（Ⅱ区、1119）、４・９. イチイガシ葉（Ⅱ区）、10・11. アラカシ葉（Ⅱ区）、12.シラカシ葉（Ⅱ区）、13. ツクバネガシ葉（Ⅱ区）、14. コナラ属アカガシ亜属葉（Ⅱ区）、15. ブナ科雄花序（Ⅱ区）、16. タブノキ葉（Ⅱ区）、17. クスノキ科葉（Ⅰ区）

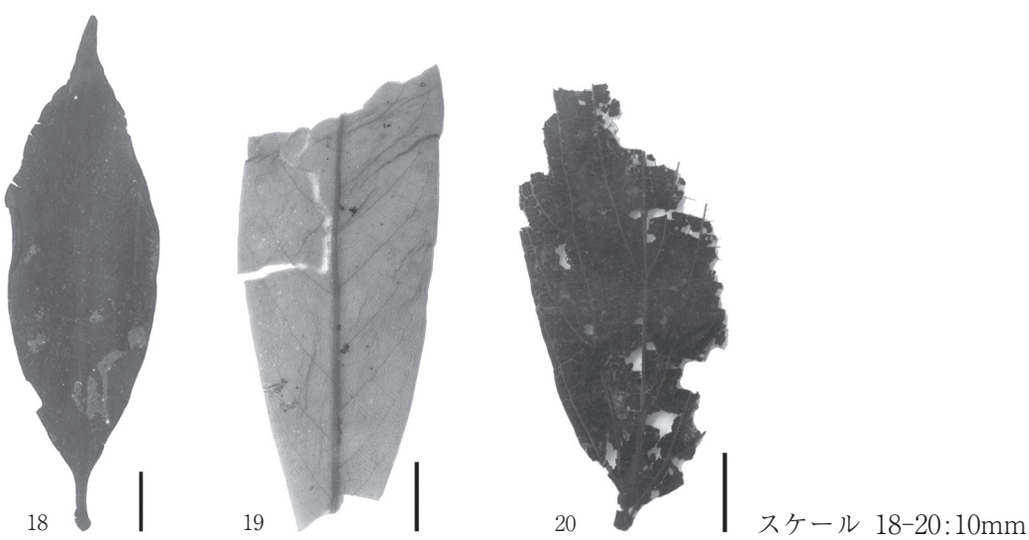
4．考察

縄文時代前期の葉を主体とする大型植物遺体を約760枚同定したところ、イチイガシが優占し、全体の91.4％を占めていた。主に常緑広葉樹のドングリ類の葉が多く、イチイガシのほか、アラカシやシラカシ、ツクバネガシ、状態が悪く種レベルの同定ができなかったコナラ属アカガシ亜属があり、あわせて4.7%を占めた。このほかに、おそらくアカガシ亜属と思われるが、科以下の同定ができなかったブナ科の雄花序があった。ドングリ類以外では、タブノキとムクノキ科、モチノキの葉、不明AとBの葉がみられたが、これらはいずれも１％以下でわずかな産出量であった。

以上の結果から当時の景観を復元すると、イチイガシを主体とする常緑広葉樹林が広がっていたと考えられる。特に、通常低湿地遺跡でも残存しにくいブナ科の雄花序が堆積物中に一定量みられる点や、雄花序と葉の保存状態が良い点から、これらのカシ類は遺跡のごく近くに生育していたと考えられる。編組製品の同定結果では、アカガシ亜属が素材として使われたことが明らかになっており（編組製品の同定結果の項参照）、果実にもイチイガシがみられる点から、河川のごく近くに生育しているカシ類を利用した資源利用が行われていたことが推察される。

表１　測定試料および処理

分類群	調査区 採取位置	Ⅰ区 赤	 緑	Ⅱ区 黄	 1119	合計	%
イチイガシ	葉	234	388	43	29	694	91.4%
アラカシ	葉	1	4			5	0.7%
シラカシ	葉	2	5			7	0.9%
ツクバネガシ	葉		1			1	0.1%
コナラ属アカガシ亜属	葉	13	2	7	1	23	3.0%
ブナ科	雄花序		7			7	0.9%
タブノキ	葉		4			4	0.5%
ムクノキ科	葉	2	2			4	0.5%
モチノキ	葉	1	4			5	0.7%
不明A	葉			4		4	0.5%
不明B	葉		3			3	0.4%
不明	冬芽		2			2	0.3%
合計		253	422	54	30	759	100.0%



図版２　中村町遺跡出土の葉(2)
18. モチノキ葉（Ⅱ区）、19. 不明A葉（Ⅲ区）、20. 不明B葉（Ⅱ区）

2　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・尾嵜大真・丹生越子・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・佐々木由香・菊地有希子

1．はじめに

福岡市中村町遺跡より出土した編組製品２点について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2．試料と方法

測定試料の情報、調製データは表１のとおりである。試料は縄文時代前期の河川跡から出土した編組製品２点である。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製　1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

表１　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-19043	遺物No. 6 プレバラートNo.なし	試料の種類：生試料・編組製品 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.2N，塩酸：1.2N）
PLD-19044	遺物No. 7 プレバラートNo.FKK-18	試料の種類：生試料・編組製品 試料の性状：ヨコ材 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.2N，塩酸：1.2N）

3．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、図１に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4．考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。2σ（95.4%の確率）の暦年代範囲に沿って考察を行う。

試料No. 6（PLD-19043）の年代は、3639-3620 cal BC（13.3%）および3608-3522 cal BC（82.1%）、試料No. 7（PLD-19044）の年代は、3336-3211 cal BC（58.5%）、3192-3151 cal BC（13.2%）、3139-3086 cal BC（18.2%）、3061-3029 cal BC（5.5%）であった。

土器付着炭化物などの年代を用いて土器編年と暦年代を検討した小林（2008）や、九州地方を含む地域の測定例を集成した泉（2008）と堂込（2008）の測定結果を参照すると、試料No. 6は縄文時代前期末、試料No. 7は中期前半に相当する暦年代であり、河川跡から出土した土器の考古学的な年代観（縄文時代前期）と比べ、整合的な年代を示す編組製品とやや新しい年代を示す編組製品があることが明らかになった。

表２　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C（‰）	暦年較正用年代（yrBP±１σ）	^{14}C 年代（yrBP±１σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				１σ暦年代範囲	２σ暦年代範囲
PLD-19043 遺物No. 6	-26.28±0.13	4774±22	4775±20	3634BC（ 6.5%）3628BC 3589BC（61.7%）3528BC	3639BC（13.3%）3620BC 3608BC（82.1%）3522BC
PLD-19044 遺物No. 7	-26.63±0.18	4473±22	4475±20	3325BC（49.2%）3233BC 3224BC（ 1.8%）3220BC 3173BC（ 5.7%）3161BC 3118BC（11.4%）3095BC	3336BC（58.5%）3211BC 3192BC（13.2%）3151BC 3139BC（18.2%）3086BC 3061BC（ 5.5%）3029BC

なお、本分析は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（A））「東アジアの新石器時代遺跡出土編組製品等素材の考古植物学研究拠点の形成と展開」（代表　鈴木三男）の一部を使って行われた。

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

堂込秀人（2008）曽畑式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」: 790-797，アム・プロモーション．

泉　拓良（2008）鷹島式・船元式・里木Ⅱ式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」: 790-797，アム・プロモーション．

小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「歴史のものさし縄文時代の考古学２」: 257-269，同成社．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」: ３-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E.（2009）IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

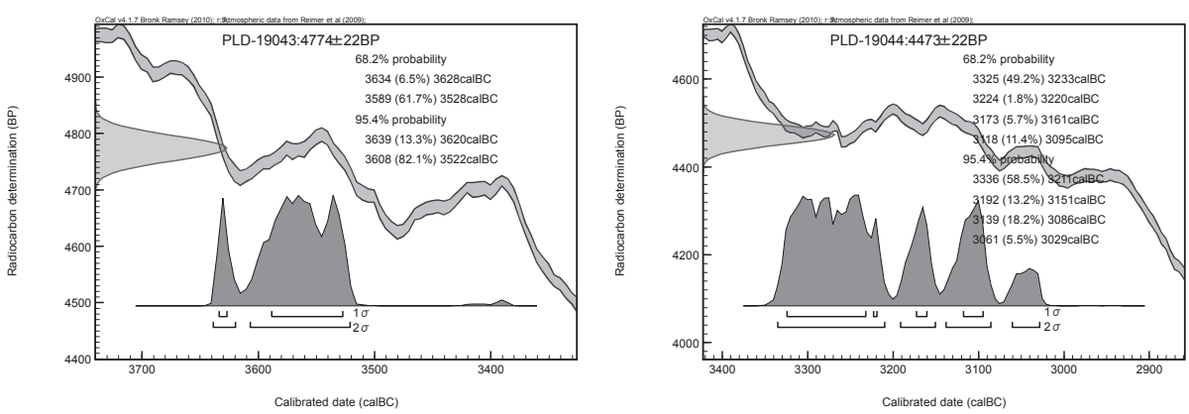


図１　暦年較正結果

3　中村町遺跡第　5次調査出土編組製品の素材同定

能城　修一（森林総合研究所木材特性研究領域）
鈴木　三男（東北大学植物園）
小林　和貴（東北大学植物園）
佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）

1．はじめに

中村町遺跡は福岡県福岡市に位置し、縄文海進期には海に面して立地していたと推定される縄文時代前期を主体とする遺跡である。第5次調査では、谷と河川が検出され、谷は現地表面から約5mの深さで標高2.5～3.0m前後、前期の河川底面は現地表面から220cmで標高5.6m前後であった。遺物は調査区の東半分から縄文時代前期中葉から後葉（若干旧石器と早期、中期初頭を含む）の土器と石器が多量に出土した。河川中には植物遺体が約10cmの厚さで良好に堆積した窪みが2ヵ所検出された。ここでは窪みの中から出土した縄文時代前期の編組製品の素材の同定を行ったので報告する。なお、一部の製品を用いて放射性炭素年代測定が行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2．試料と方法

編組製品は7個体で、いずれも破片である。試料の採取方法は、編組技法および製品の上下方向を観察しながら、極力直接素材同定用の試料を採取した。製品が小さいものは、検出中にはずれた位置不明な素材を試料とした。直接採取する場合は、縦方向の素材をタテ材とし、横方向の素材をヨコ材として、残存が良好なものについてカミソリを用いて採取した。可能な限り、1点について複数採取したため、試料数は16点である。

切片の作製方法は試料をアセトン系列で脱水した後にエポキシ樹脂（Agar Low Viscosity Resin）に包埋し、回転式ミクロトーム（Microm HM350）を用いて切片（厚さ10～30μm）を作製した。

プレパラートにはFKK-1～16の番号を付した。プレパラート標本は東北大学植物園に保管されている。

3．結果

同定の結果、広葉樹のコナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属）とホルトノキ属、草本植物？の表皮の　3分類群が同定された。これら以外に素材の状態が悪く科以下の同定に至らなかった一群を同定不能とした。製品の同定結果と技法の観察結果を表1、プレパラートごとの同定結果を付表1に示した。

表1　中村町遺跡編組製品観察表および同定結果

試料No.	残存高(mm)	残存幅(mm)	タテ材			ヨコ材			器種	編組技法	年代測定No.
			幅(mm)	木取り	素材同定結果	幅(mm)	木取り	素材同定結果			
1	4.0	4.5	4.0	割り裂き材	(アカガシ亜属)	4.5-5.0	割り裂き材	(アカガシ亜属)	かご?	2本飛び網代	
2	6.0	6.5	3.5-4.0	割り裂き材	アカガシ亜属	2.5-3.5	割り裂き材	アカガシ亜属	不明	網代？	
3	-	-	3.0-3.5	割り裂き材	(同定不能)	3.5	割り裂き材	(同定不能)	不明	網代	
4	6.5	7.0	5.0-6.0	割り裂き材	アカガシ亜属	4.0-7.0	割り裂き材	未採取	かご	2本飛び網代	
5	5.5	6.0	5.0	割り裂き材	アカガシ亜属？	5.0	割り裂き材	未採取	かご?	2本飛び網代?	
6	9.0	14.0	5.0-7.0	割り裂き材	アカガシ亜属	4.0-7.0	割り裂き材	アカガシ亜属	かご	2本飛び網代	PLD-19043
7	9.0	9.5	2.5-4.0	割り裂き材	同定不能	3.0-3.0	割り裂き材	アカガシ亜属	不明	2本飛び網代?	PLD-19044

同定結果の括弧はタテ・ヨコ材不明な試料、サンプリングエラーの結果は除く

次に、試料番号ごとに同定結果および編組技法を記載する。素材はタテ材とヨコ材ともに割り裂き材を使用している。

試料No.1：残存高4.0mm、残存幅4.5mmである。編組技法は2本飛び網代で、上部にむかってタテ材を重ねてタテ材の本数を減らしている。素材は直接採取できなかったが、採取したサンプルのうち2点がアカガシ亜属であり、1点は草本植物と思われる表皮であったため、表皮はサンプリングエラーの可能性がある。

試料No.2：残存高6.0mm、残存幅6.5mmである。編組技法は網代の可能性があるが、状態が悪く、それ以上の観察はできなかった。タテ材はタテ材1本分の間隔があく。ヨコ材は密かあるいは3本ごとに密と粗の部分があるか。器種は不明である。一括採取されたタテ材とヨコ材それぞれでアカガシ亜属が同定された。

試料No.3：状態が悪く全体形は不明である。編組技法は網代であるが、状態が悪く、それ以上の観察はできなかった。器種は不明である。一括採取された素材では同定不能であった。

試料No.4：残存高6.5mm、残存幅7.0mmである。編組技法は2本飛び網代で、上部にむかってタテ材を重ねてタ

テ材の本数を減らしており、かごなどの上部がすぼまる形状をしていたと想定される。タテ材でアカガシ亜属、ヨコ材でホルトノキ属が同定されたが、ホルトノキの木取りは丸木がつぶれた状態で、サンプリングエラーの可能性が高い。

試料No.５：残存高5.5mm、残存幅6.0mmである。ただし、全体的に劣化しており、計測値は収縮した値である。編組技法ははっきりしないが２本飛び網代の可能性が高く、上部にむかってタテ材を重ねてタテ材の本数を減らしており、かごなどの上部がすぼまる形状をしていた可能性がある。収縮していたためタテ材のみ採取し、アカガシ亜属？であった。

試料No.６：残存高9.0mm、残存幅14.0mmである。編組技法は２本飛び網代で、部分的に３本飛びとなる。上部にむかってタテ材を重ねてタテ材の本数を減らしており、かごなどの上部がすぼまる形状をしていたと想定される。タテ材とヨコ材でアカガシ亜属が同定された。年代測定試料が採取された（PLD-19043）。

試料No.７：残存高9.0mm、残存幅9.5mmである。編組技法は２本飛び網代の可能性がある。タテ材はタテ材１本分の間隔があく。ヨコ材は密かあるいは３本ごとに密と粗の部分があるか。器種は不明である。タテ材は同定不能で、ヨコ材はアカガシ亜属？が同定された。年代測定試料が採取された（PLD-19044）。

以下に同定した分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

⑴　コナラ属アカガシ亜属 Quercus subgen. Cyclobalanopsis ブナ科図１：1a.1c（割り裂き材，FKK-12），２b（割り裂き材樹皮付き，FKK-５）

中型で厚壁の丸い孤立道管が放射方向に配列する放射孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は幅が狭く不揃いな帯状。放射組織は同性で、単列で小型のものと大型の複合状のものとからなる。

⑵　ホルトノキ属 Elaeaocarpus ホルトノキ科図１：3a.3c（丸木材，FKK-10）

小型で丸い道管がしばしば放射方向に２～５個複合して密に散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で２細胞幅、道管との壁孔は単壁孔様で大きく、しばしば水平に大きく開く。

⑶　表皮 Epidermis 図１：4a（丸材，FKK-３）

突起の多い表皮と皮層が認められるが、維管束は残っておらず同定には至らなかった。

４．考察

編組製品７点中、６点の素材を同定することができ、そのうち５点にはアカガシ亜属の割り裂き材が用いられていた（表１）。割り裂き方向は板目から柾目まであり、一定していなかった。また１点には直径３mmほどのホルトノキ属の枝材が、またもう１点には草本と思われる丸材が使われていたが、これらは編組製品以外の植物遺体である可能性が高い。また、編組技法は２本飛び網代が多く、状態が悪いものを含めて編組技法はすべて網代であったが、素材の間隔や幅によって、２種類に分類される。すなわち、試料No.1，４～６の４点はタテ材とヨコ材が幅を持ち密に組まれた技法であり、試料No.３と７の２点はタテ材とヨコ材の幅が狭く、タテ材の間隔があき、ヨコ材についても密か３本単位で間隔があく技法である。No.３は状態が悪く技法の観察ができないため不明だが、タテ材とヨコ材の幅は後者に近い。

試料No.１，

４～６は上部にむかってタテ材を重ねてタテ材の本数を減らしており、かごなどの上部がすぼまる形状をしていたと想定される。こうした技法は佐賀県の縄文時代早期後葉の東名貝塚のかごで多く見られる（佐賀市教育委員会，2009）。本遺跡の編組製品は破片のため全体の形状はいずれも不明であるが、多くは東名遺跡のかごにみられるような上部がすぼまる形状をしていた可能性がある。

アカガシ亜属の編組製品への利用は、熊本県の縄文時代前期の曽畑貝塚で２点報告されており（熊本県教育委員会，1988）、大分県の縄文時代後期の龍頭遺跡でも１点見いだされている（能城ほか，未報告）。今回の事例によって、縄文時代前期以降、九州中北部では、アカガシ亜属が編組製品の主要な素材の一つとして選択されていたことが示された。一方、今回、これだけ普遍的にアカガシ亜属が編組製品の製作に使われていたことにより、アカガシ亜属の緻密で硬い木材を割り裂く技術をすでに縄文時代前期の人々は保有していたことが示された。

引用文献

熊本県教育委員会．1988．曽畑．389pp．熊本県教育委員会，熊本．

佐賀市教育委員会．2009．東名遺跡群Ⅱ　第５分冊　東名遺跡２次遺物編２．456pp．佐賀市教育委員会，佐賀．

付表１　中村町遺跡出土編組製品の素材同定結果一覧

プレパラート	樹種	試料No.	採取位置	木取り	割り方向
FKK-1	コナラ属アカガシ亜属	1	タテヨコ不明-1	割り裂き材	追柾目
FKK-2	コナラ属アカガシ亜属	1	タテヨコ不明-2	割り裂き材	板目
FKK-3	表皮	1	タテヨコ不明-3	丸木	
FKK-4	同定不能	2	タテ材	割り裂き材	
FKK-5	コナラ属アカガシ亜属	2	タテ材（位置不明）	割り裂き材	板目
FKK-6	同定不能	2	ヨコ材	割り裂き材	
FKK-7	コナラ属アカガシ亜属	2	ヨコ材（位置不明）	割り裂き材	
FKK-8	同定不能	3	タテヨコ不明	割り裂き材	柾目
FKK-9	コナラ属アカガシ亜属	4	タテ材	割り裂き材	追柾目
FKK-10	ホルトノキ属	4	ヨコ材	丸木	
FKK-11	コナラ属アカガシ亜属？	5	タテ材	割り裂き材	
FKK-12	コナラ属アカガシ亜属	6	タテ材-1	割り裂き材	柾目
FKK-13	コナラ属アカガシ亜属	6	タテ材-2	割り裂き材	板目
FKK-14	コナラ属アカガシ亜属	6	ヨコ材	割り裂き材	追柾目
FKK-15	同定不能	7	タテ材	割り裂き材	
FKK-16	コナラ属アカガシ亜属？	7	ヨコ材	割り裂き材	

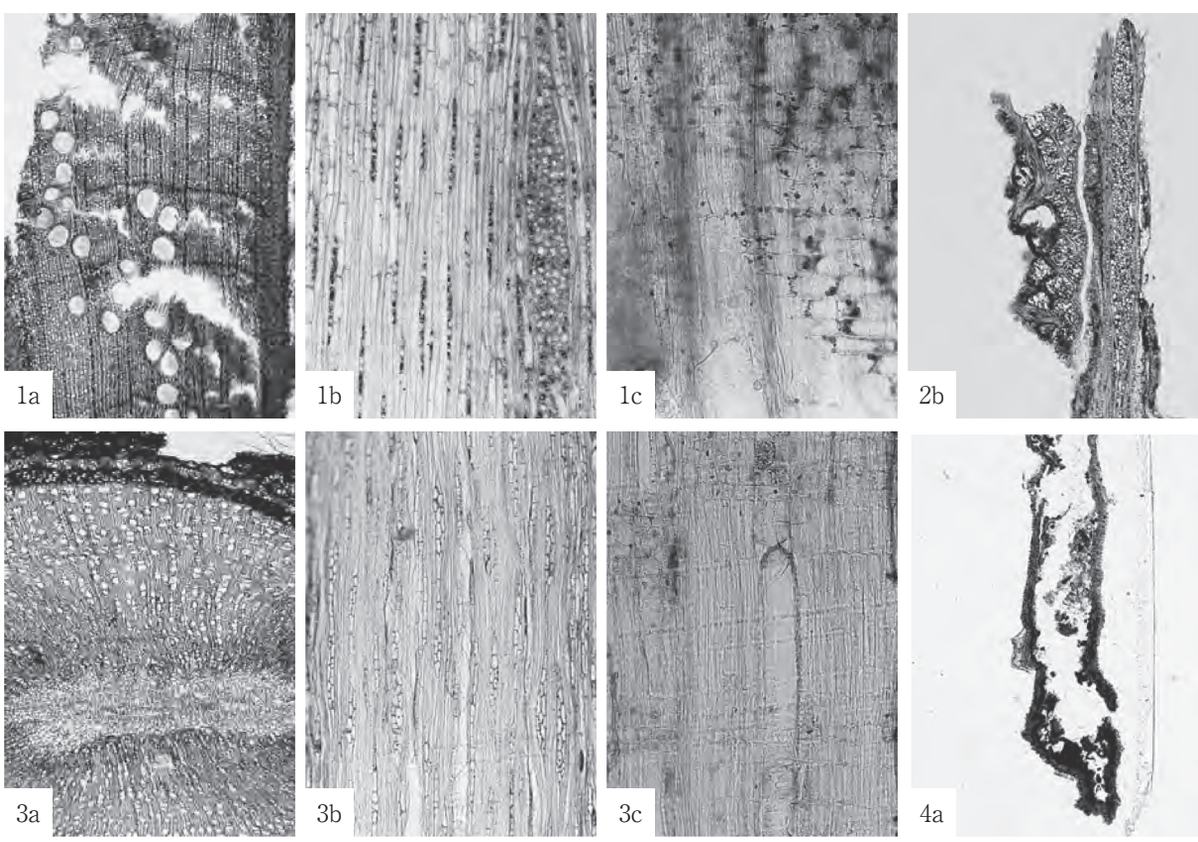
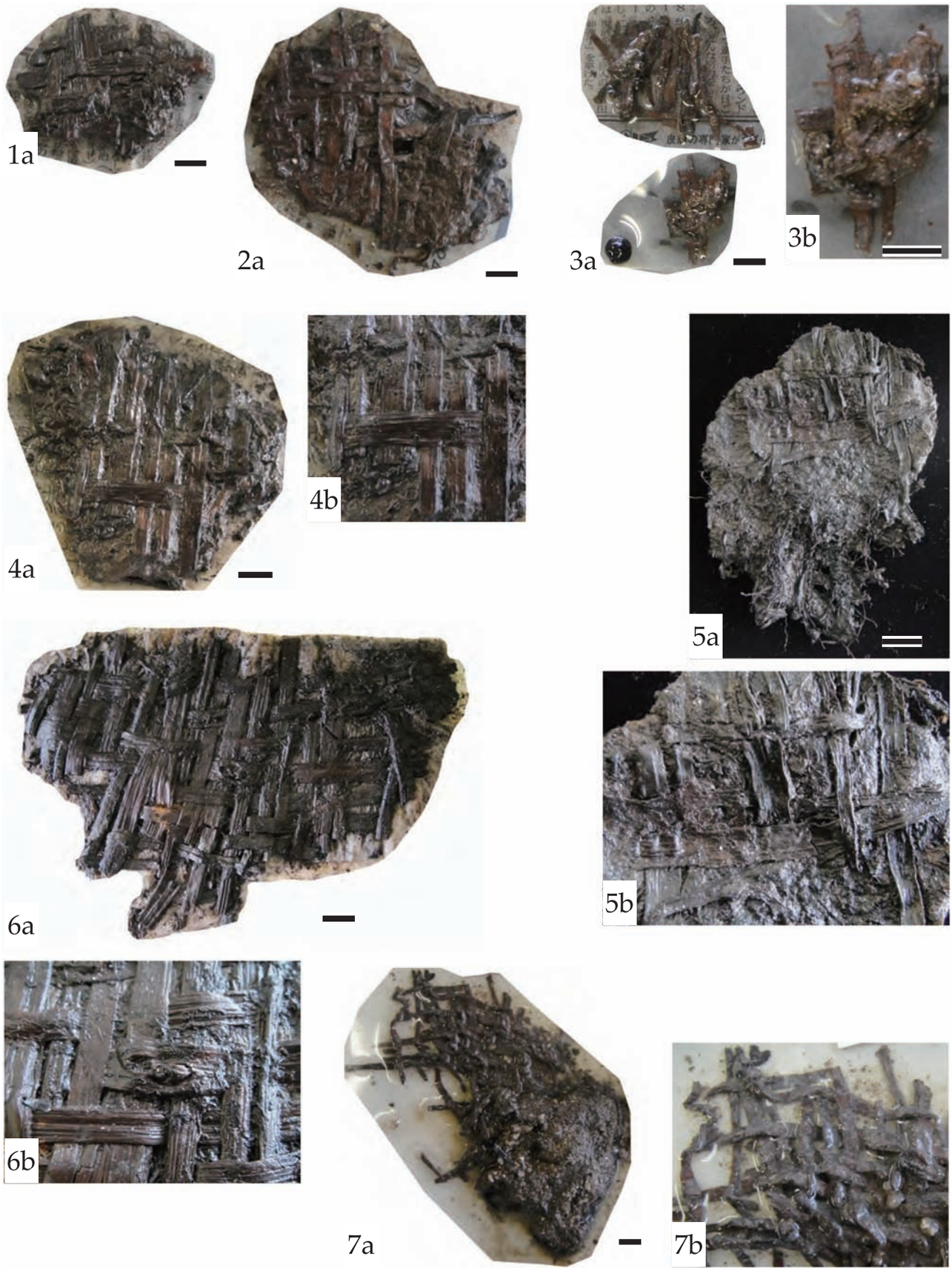


図１．中村町遺跡出土編組製品の顕微鏡写真．1a-1c：コナラ属アカガシ亜属（割り裂き材，FKK-12），2b：同樹皮付き（割り裂き材，FKK-５），3a-3c：ホルトノキ属（丸木材，FKK-10），4a：表皮（丸材，FKK-3）．a：横断面（スケール＝200μm），b：接線断面（スケール＝100（1b，3b），200（2b）μm），c：放射断面（スケール＝50μm）．



図版 1　中村町遺跡から出土した編組製品

1. No.1、2. No.2、3. No.3、4. No.4、5. No.5、6. No.6、7. No.7．a：全体，b：拡大．スケール＝ 1cm.

1. Ⅰ区（北から）

2. Ⅱ区（北から　手前がⅠ区で縄文河川掘り下げ中）

1. Ⅰ区 包含層除去状況（南から）

2. Ⅰ区 包含層除去状況（北から）

3.SD1003（北から）

4.SD1029（南から）

5.SD1002･1003（南から）

6.SD1041（南西から）

7.Ⅱ区（北東から）

8.Ⅲ区（南から）

1.SD1003　EF 間ベルト

2.SD1029　AB 間ベルト

3.SD1029　BC 間ベルト

4.SD1029　DE 間ベルト

5.SD1041 土層（北から）

6.SD1002･1003 検出状況（南から）

7.SD1002 土層（北から）

8.SD1003　CD 間ベルト（南から）

1.SK1053（西から）

2.SK1053 土層（南から）

3.SD1002 遺物出土状況（西から ）

4.SK1018（東から）

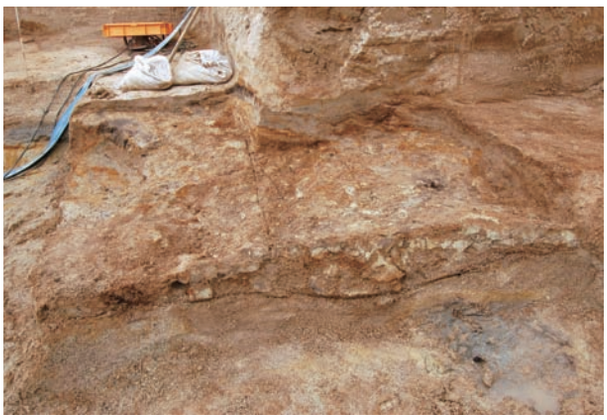
5. 植物遺存体出土状況 1

6. 植物遺存体出土状況 2

7. 植物遺存体出土状況 3

8. 植物遺存体出土状況 4

1. 縄文河川遺物出土状況



2. 縄文河川西端土層（1121･1123　北から）

3. 縄文河川（1121･1123　北から）

4. 縄文河川切り合い（南から　左側が 1122）

5. 縄文河川西端土層（1121･1123　北から）

6.Aトレンチ土層（南から）

7.Cトレンチ土層（北から）

8. 調査区南壁土層（北から）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	なかむらまちいせき４
書　　名	中村町遺跡４
副 書 名	中村町遺跡第５次調査報告
シ リ ー ズ 名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1159集
編 著 者 名	屋山洋
編 集 機 関	福岡市教育委員会
所 在 地	福岡市中央区天神１丁目８－１
発 行 年 月 日	2012年３月16日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
中村町遺跡５次（なかむらまち）	福岡市南区野間（ふくおかしみなみくのま）3丁目160番3	40134	20167	33°33′39″	130°24′53″	20100524 ～ 20100820	530㎡	共同住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中村町遺跡第5次	包含層	縄文時代前期	河川	土器、石器、植物遺存体	縄文時代前期の土器と石器、植物遺存体などの多量の遺物が出土した
	集　落	弥生時代後期～古代	溝、土坑、掘立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器坏、須恵器甕	

要　約	中村町遺跡は那珂川左岸の南北方向に伸びる丘陵上に位置する。今回の５次調査区は丘陵から東側にはずれた河川堆積上に位置する。調査では現地表面から80㎝下の黄灰褐色シルト層上面で弥生時代～古代と思われる溝や土坑、掘立柱建物を検出した。また、黄灰褐色シルト層下の褐色粗砂層中から縄文時代前期後半から中期前葉にかけての多量の土器や石器と共に葉やドングリなどの植物遺存体と樹皮で編んだ編組片が出土した。

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1159集

中村町遺跡４

― 中村町遺跡第５次調査報告 ―

2012年（平成24年）３月16日

発　　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目８番１号

印　　刷　有限会社 森田印刷所
福岡市中央区大手門２－１－21